



MAIL TOP

管理人の落書き帳 八尾市ソフトテニス協会HP 更新記録

No	更新日	内容
1	2001.6.18	協会員に公開
2	2001.6.20	カウンターの設置
3	2001.6.21	掲示板の開設
4	2001.6.25	BGM設置完了
5	2001.6.29	試合結果詳細 追加
6	2001.7.7	ホームページ一般公開
7	2001.8.10	志紀コート・教育センター体育館への地図更新
8	2001.11.29	HP表紙の更新 これからは頻繁に変わります。 メンバー達が交代で・・・今度は誰の番かな？
9	2004.4.10	婦人部公開 皆さん集まって下さいね。
10	2004.6.15	動画を載せました。ちょっとサイズを小さくして。
11	2004.10.31	チャットルームをつくりました。みんなで会話しようぜい
12	2004.11.13	練習時間をケイタイで見られるようにしました。
13	2005.3.29	会員専用ページを設定しました。

2005.9.22

2005.9.19

今日は敬老の日ということで、次第に祝う方から祝われる方に行くのだろうか・・・まだそんなことはないですけどね。己の姿は分かりません。人からもらった写真があまりにも老けていたりすると愕然とするもんですが・・・

2005.9.12

昨日、白子から帰ってきました。全日本シニア選手権では、やっと目標が達成できて本当に嬉しく思っています。言葉や、文字では表現ができません・・・くらいに。
高橋・東山さんには本当に感謝しています。一日目、自分の調子が悪くイージーミスが重なったとき、小早川選手の心をほぐす良いアドバイスをもらいました。僕自身にも調子悪いなんて言ってもらえない、踏ん張らねばと力をもらいました。大学時代の友人の大島君が30年ぶりにやってきて、夜の食事のための店を紹介してくれました。千葉の土地の家庭的なお店で、1日目の不調を皆で和らげてくれました。反省点を話し合い、準々決勝からの気合いの入れ方をみんなで考えました。その意味では、個人戦なんだけど、チームでもぎ取った勝利だったと思うのです。良い仲間がいて本当に幸せです。
また、試合の中では、ミックスの後サーブ練習を受けてもらった中村選手にポイントの修正を一言もらいました・・・これが実に大きく、その後はファーストが高い確率で入ったのが勝因の一つです。一日目と同じ展開で、レシーブを安全にうち、ファーストサーブが入らない状況では、同じ結果が出たかどうかは分かりません。人間は素直に人の言うことを聞くモンだとつくづく思った大会でした。一人になって、4試合の疲れを取るため高橋選手にももらった強力な「動物用消炎剤」を塗りすぎたのか、午前0時頃目が覚めてしまって寝付けません。不安と強気の心が交互にやってきます。窓を開ければ、静かな町並みに信号がまるで何事もなかったかのように決まったように点滅します。やはり、不安が先立ちます。
今回、特に今回は初めて狙った大会でした。小早川選手と組み、いままでいくつかの大会に出ました。その度に彼となら獲れるのではないだろうかと思う気持ちが強くなりました。僕のように実績のない選手が、ブレイクするためには確かな後衛が必要です。彼は素晴らしい選手です。昨年の九州の大会ではもちろん意気込みは優勝でしたが、真鍋選手にモーレツに打たれ粉碎されました。これは準備が足りなかったと反省しました。今年は、昨年より1試合多く・・・実は2試合多く出る予定でしたがアクシデントでダメでした・・・出ることにして試合勘とコンビネーションを養おうと。もう一つは練習をして調子を上げようと思いました。練習のスケジュールはお互いの忙しさもあり、8月に3回することになりました。場所とは相手を考えました。厳しい試合を想定しました。交通の便が良いところ、指導して頂ける場所・・・武田薬品の東さんにお願ひしました。木藤・東 田中・中辻 福谷・高田 佐伯・

木下 小西 堤下 選手達に集まってもらいました。いずれ劣らぬ名選手なので試合前の緊張を高め、実践を想定してできました。大きかったと思います。
もう一つは綱島・小森組の練習会に参加しました。大阪南部の選手を中心に集まったグループでの合同練習会は暑さ対策と親睦、色んな選手とできる実践として良いだろうと思ったのです。
この1ヶ月の準備で最後の武田での練習が仕上がりがすぎてちょっと怖かったですが、これ以上ないくらい準備ができたものでした。
絶対獲る！て決意してきましたが・・・不安です。
僕のお守りに頼みました。頼むよと。
でも、何も答えはありません。
優勝が決まった後、白根さんが「高宮君と一緒にやってみたいに見えた」と言いました。きっと近くにいてくれたのでしょう。

先が分からないものには不安があっても当然ですが、今回は色んな仲間と支えがあって、励ましがあって勝ち取れました。皆さんに感謝します。もちろん、私のパートナーの小早川選手には感謝なんて言葉では言い表せないものがありますが、人生の最大のプレゼントをお互いに勝ち取った仲間として、これからもますます充実したテニスを、特にレフターとしてのテニスを完成させていきましょ・・・と思っています。よろしく。

2005.8.30

気がつけば8月も終わろうとしています。今日は雨が降り気温も25度前後と涼しさを感じます。
今年の総体は、僕の采配ミスで負けてしまいました。皆さんには申し訳ないことをしました。団体を率いていく者としては全く情けない限りです。この数週間、テニスのことを色々考えていましたが、迷いが消えなかったからでしょうか・・・。実態のない虚像を僕は追っかけているのかも知れません。ふと、我に返ると不安な自分が居ます。何に対して不安なのでしょう？空だからです。何も無いのだという虚無感や絶望感を感じてしまうのです。テニスシーズンが始まろうとしています。。

2005.8.22

土曜日曜と兵庫県の吉川で国体近畿予選が開催されました。八尾からは成年男子代表で矢野選手が参加しました。見事、男女ともに予選を通過して岡山国体に参加できることになりました。選手の皆さん、監督さん、また支えたスタッフの皆さん、ご苦労様でした。男女揃っての参加はここ数年無かったことです。特に近畿は京都、奈良、和歌山と高校大学の強豪校が多い県が揃っています。大体2-3チームしか参加できませんのでこのところ厳しい戦いが続いていました。しかし、ここ1-2年の池田・矢野組は充実素晴らしく、中心がしっかりしているところは強いとの通りに、京都以外は全て勝ったとのことで大活躍でした。応援には行けませんでした、大阪をしょって立ったその姿は頼もしく感じています。おそらくこのように戦ったのだらうとも頭の中では想像しています。
やっと、目標に近づけたですね。本番に今年はいけました。成年男子は残念ながら今年で最後になります。その最後で切符を手にしたのも何とも矢野君らしいといえど・・・らしいですね。
本選がんばって下さい。応援しています！！

国体は、かつては一般2、シニア1でした。シニアの国体の部ができて、シニアは無くなり、代わりに成年が入りました。成年男子は35-45の間、大きな大会は西日本、全日本しかなく少し間延びしてしまう10年間でもあります。ですから国体に成年の部があることには非常に大きな意義があったのです。一般からシニアへとぎれなくテニスを続けるためには、テニスを廃れさせないためには非常に重要な役割でもあったかと思っっているんですけど・・・間違っているでしょうか？
地方で3組一般選手を創り上げるのは至難の業です。また団体戦へのシニアの関心が薄れます。またシニアの国体の部もなくなり、ますます関心が低くなっていきます。
この改革はひょっとしたら非常に悪い選択ではないのかと思ってしまうものです。

2005.8.17

最近天気が悪いですね。夕立とかスコールとか、その上雷さんまで結構鳴り響いて騒がしいことです。大地が暑いと上昇気流ができて摩擦で静電気がたまってしまふ。空気は絶縁体だからたまった電気は高エネルギーのやり場がなくてスパークする・・・温度が高いので湿度が低くしかも上空まで塵は上がってこないで蒸気はどんどんたまってくる。たまった蒸気は冷やされて水滴になりたいんだけど核物質がないのでそのまま気体になっている・・・そこへスパークが起きて空気が振動すると隣の水蒸気同士がくっついて急に水滴になる・・・いや氷になってるかも・・・。ひとたび核ができるとすごい勢いで成長を初めて急速に雲ができる。これがいわゆる積乱雲で、スパークをおこしながら白い雲がもくもく重なり、やがて雲が厚くなり真っ暗となったらたっぷりたまった水がバケツをひっくり返したように落ちてくる。雲の成長で摩擦はますます大きくなりエネルギーがもーあかん状態になると電位の低い地球に向かってまっすぐ電気が落ちてくる。落雷です。音速の壁を突き破り破壊的な音が響きます。ピカッ！！ガウガウトッカーン！！
あーおそろしい・・・
子供の頃はうちの前の電信柱によく雷が落ちたもんです。その度に停電になって、電気もテレビも何にもつかず、やたらな静寂がやってきたモンでした。今はどんなに落雷しても滅多に停電なんかありませんね。
中学時代は1時からクラブがあったんですけど大体4時くらいに夕立があってそれでコートが使えなくなって終わりです。一年生の頃はしんどい上級生がやってる試合を見る時間だったので、早く夕立来いと祈ったもんですが、現金なもので2、3年になると夕立は恨めしい存在でしたねえ。懐かしく思い出されます。
ただ、早く終わると近所のかき氷やさんに駆け込んで、一杯のかき氷を食べたもんです。1年先輩のお母さんがやってた店なので可愛がってもらったこともあり、楽しかったですね。
今はさびれてしまった田舎町ですが、これからどうなるのでしょうかね・・・市町村合併なんかしてしまつて。ますます居着かなくなるんじゃないでしょうか・・・

2005.8.10

今年は盆休みが少なく、ちょっと暑いのに疲れてました。思い切って8/12一日休むことにしましたが、明日は出張が入って何か長い休み・・・という結果になってしまいそうです。実質的には休みではないのですが、気分的にはホッとしますね。さて、盆が過ぎれば秋の大会だと気持ちを新たにしなければなりません。合同練習なんかをして、心技体共に充実させていこうと思う今日この頃です。準備が必要ですね。まず、仲間を集めて練習する環境を整えましょう。明日から頑張ろう！！

2005.7.31

暑い夏が居座っています。今年も大阪はシャレにならない暑さです。今日は総体予選で、三の瀬コートは曇っているのに30℃以上となるものでした。久しぶりに女子が予選通過をできず、皆一様にガッカリしていました。団体の力を続けるにはパワーが必要です。しかし100の練習よりも1の試合をやるのが上手くなる早道です。集中力を以下に高めるか・・・もう一つは戦略の不足でしょう・・・先手をとり、こういう配球をすればこういう展開になると、考えてやり通すことでしょう。見ていてパターン練習の不足を痛切に感じます。もっと考えてやりましょうね。

雨が降って十分な休養後、志紀コートに立ちました。雨が降って、色んな人たちが集まってきました。OB会の辻井大先輩や山田さんなどシニア、東大阪の若手など一般の1流どころが見られました。辻井さんと組ませて頂きましたが、ライジングからのサイドパッシングやツイスト、バックハンドの巧妙なこと・どれを取っても素晴らしいです。相手は高橋・高田組でしたが、テンポの違いに面食らっていました。当協会の南野副会長より年長ですが、もっと速い球、しのぎをやられます。全く素晴らしいスーパー超壮年です。

2005.7.26

台風が大阪を去りました。明日から台風一過で、また10日くらいは暑い日が続くことでしょう。

2005.7.24

中学校大会が開催されました。今年は女子の参加校が4校でした。昨年からまた2校が硬式に転向しました。時の流れは非情ですが、ソフトテニスも変わりつつあります。硬式化していると言えば反発を食らうのでしょうか？あれは攻撃的並行陣だと・・・そんな呼び名など、どうでも良いのです。専門的な2名が分担してテニスを行う雁行陣とオールラウンドなプレーヤーが2人で行う並行陣の違いでしかありません。どちらが良いかは、これから答えが出るでしょうが、そう簡単ではないでしょう。今日も、木下先生と話しました。彼は硬式を続けていた先生です。しかし、今ソフトテニスの顧問を受けてやられています。今のソフトテニスがそういった大きな流れになっていることも知らなかったのです。当たり前でしょう。皆さんが雁行陣にとらえられていたのもつい最近までです。最先端からは遠いと言える中学校の先生方が、一般の最先端のソフトテニスの流れを理解するのは難しいことでしょう。だからこそ、僕たちは啓蒙して行かなくてははいけません。教育的な指導が認識を変え、競技性豊かなスポーツとして新たに広まっていくことも考えられるのです。これから、指導を行っていきこうと心に一つのヒントが生まれました。そこまでテニスを高めなくてはいけません。子どもたちに「俺もあんな風にかっこよくボールを打ってみたい」と思わせること。それこそがその競技を発展させる源なのですから。

本で行われた天皇杯予選で八尾から2名の選手が本選に参加資格を得ました。矢野・須山選手です。おめでとう！！大きな大会に参加できることは素晴らしいことです。単なる思い出でなく、どうすれば一つでも勝てるかを考えることができる・・・羨ましいことです。僕も一度は参加資格を得たものですが、運が悪く参加できませんでした。2年前の大阪での天皇杯を見たとき、これがソフトテニスなんだと思ったものです。全国から集まったNO.1選手達が本当に真剣に遊びなど無く戦う様には感動を覚えたものです。素晴らしいことでした。機会があればまた、見に行きたいと思います。今年は厚木で遠いなあ・・・。

2005.7.12

先週の日曜日、津山に行ってきました。早いもので高宮君が他界して1年が過ぎようとしています。その間、とても長かったと感じています。過ぎ去っていくものはたしかに日々疎くなります。しかし、そうでないものもあります。引きずって歩いている僕はまだまだ彼の姿を近くに感じてはいます。ただ、高宮家の3人の子供さん達は力強く歩いていると思いました。そしてそれで良いのだとも思っています。

かつて彼と、子どもたちについてmailしたことがあります。僕の息子たちも彼の子どもたちも親の元からいずれば離れていきます。親は決して子どもたちを視界から離さないものですが、子どもたちはそうではないでしょう。僕は「子どもたちは光に向かい、親は影の長さで時の経つを知るものだよ」と言いました。彼は「そうだな」と回答しました。子供というのは、決して親の分身ではありません。預かりものでしょうね。たまたま縁あって、僕の元にやってきた大切な命でしょう。その命はいとおしく何物にも代え難いものがあります。彼の愛した3人の子どもたちの成長を僕は頼もしく見えています。彼らがいつしか親になり、影の長さを見たときに彼らの父がどれだけ彼らを愛していたかは自ら感じるでしょう。その時、また彼の父が求めたものを教えてあげられる時が来るでしょう。

2005.7.7

七夕になりました。TOPの立ち上げ日を見て頂けるとおわかりのように、HPの誕生日です。早4年になりました。その間に色々なことがありました。会員の急増から若返りへの脱皮、シニアの充実を図ること、後進育成や更に下がってジュニアをどうするかなど・・・まだまだ道は途上です。当協会が良い団体として保持し育ていくためには、まだまだやらなくてはいけないことがたくさんあるようです。そしてそれは自分たちだけでは到達できないものでしょう。多くの方々の協力を得て成り立つものでしょうしグローバルな展開が望ましいと言えます。

最近の感じたことを2, 3

1. 先週末、鳥取市で全日本シニア選手権が開催されました。毎年この時期に行われることは大きな問題で、雨が一番の心

記事です。幸いにも鳥取という雨の多い土地にもかかわらず無事終了できたのは幸運でした。25年前の西日本選手権は雨で4日も流れました。私は棄権して帰ったのを覚えています。何とかもう1-2週間早めることはできないものでしょうか？ 沖縄の西日本は6月末だったのでできないことは無いはず。一考をして頂きたいです。開催地もまだ安心でしょう。

2. 西日本シニア選手権シニア45男子の部で川上・小野組が優勝悦喜・藤村組、紅露・吉田組3位でした。更にシニア50では森脇・松本組 優勝 2位 佐々木・栗尾組 3位 安達・直原組と毎年秋に行っています高梁の全日本青年会合宿での昨年きて頂いたメンバーが入賞されたことは本当に嬉しい限りです。特に小野選手は、しらかべクラブのトップ選手として岡山県の成年をずっと引っ張ってこられてました。今年は川上選手と組み中国大会、西日本と優勝です。残念ながら全日本は川上選手が都合が悪くこのペアでの完全優勝の夢は見られませんが、片山選手と狙ってください。青年会の合宿は、今年も12月第1週の土日開催される予定です。今年是小野選手という高宮選手に替わる新しい柱・看板として皆さんをお迎えすることになります。私は地道にやってこられた小野さんが一挙に大きなタイトルを取られたことが本当に嬉しいと同時に彼のプレーを見続けたものとしては、当たり前だという気もしています。そしてまた岡山での青年会の合宿の役割も大切に育てていける喜びでいっぱいです。

小さな灯火が育って多くの友人達と共に昨年プレーができました。今年はその後の10年を始める1歩として小野選手の優勝には深い意義があったと思われるものです。

3位の悦喜さんも本当に堅実なプレーで藤村さんの大胆な勝負とあったいいペアではないでしょうか？ テニスが好きでずっと続けていく・・・これが全てのプレーヤーに送る彼のメッセージでしょうし、今年の苦しさを乗り越えた強さが顕れたのではないかと思います。

たくさん現れてくるライバル達と切磋琢磨しながら、また今年の冬もテニスをしたいと思います。若い人たちもたくさん集まってください。色々なものを乗り越えた人たちと一晩話してみませんか？

3. 6月の終わりに広島で広友会後援のNTT西日本のテニス講習会が広島海田総合公園TCで開催されました。私も高宮Jrと共に参加しました。高校生、一般の参加者をあわせて250人くらいいたのではないのでしょうか？ 一番遠くからは青森の中学の先生が参加されていました。

素晴らしいと感じたことは、NTT中国の選手達の前向きで明るいことが最も印象に残りました。全ての選手と話せたわけではありませんが、全ての選手からそういった共通のにおいをかぐことができました。僕も彼らをバックアップしてあげようという気持ちにさせてくれる集団です。広友会の瀬尾さんが「素晴らしいじゃろ！ 何とかしてやろうという気になる奴らばかりよ。」瀬尾さんのように色々なことをしたから支える人がいる・・・そして彼の提案を実現していく広友会の仲間達がいる、またそれに答える選手達がいる！ 広島の強さはここにあるでしょう。僕たちもそういった集団になりたいとも思います。

それにしても彼らが教えるときの熱心なこと、決して後ろ向きでない姿勢は見習わなくてははいけません。ボールが当たるかあたらなにかの初心者にも諦めずボールを送り続けます。ラリーも手を抜いたりしないで遊んだりしないで、また適当に足を運んだりしません。いつも見る大阪インドアでトップ選手相手に打つようにしっかりと打ちます。自分からミスしないようにどんなに短いボールでも返します。次第にその気迫が伝わるのでしょ。子どもたちは必死で対応します。笑って笑って大きな声を出してうちます。叱ったり高圧的なところはありません。その場の雰囲気「前向き、積極的、必死」に変えていきます。それでいて悲壮感はありません。・・・と僕には見えました。

広友会のすごいところは、一つは専属のトレーナーの先生を一日中おいて、選手、学生、僕のようなシニアなどの体のケアについても指導をしてもらえたことです。サンフレッチェの専属トレーナーとのことでした。二つ目は体のトレーニングからしっかりと指導していくことです。高川選手の奥さんがインストラクターのようで練習前の30-40分みっちり指導されました。昔なら大したことのないトレーニングのようですが、どうしてどうしてシニアにはどれも厳しいものでした。何とか凌いだのですが、そのあと1時間ほどトレーナーの先生に助けて頂いたのです。

僕たちもテニスを多角的にとらえて基本的な筋肉の動かし方や体のいたわり方や疲労の回復の仕方などをもっと積極的に考えなくてははいけないでしょう。

2005.6.22

6/19に行われた国体2次予選、見事矢野選手が、切符を手に入れました。選手選考会ということで、第1位代表候補ということなのでしょうがそれにしても良かったです。一昨年は社会人選手権で8、昨年近畿大会を取りつたところで昨年は国体予選通過確実と本人も思っていたでしょうし、周囲もまあ行かろうと考えたでしょう。しかし、勝負事はやってみなければわからない・・・昨年の今頃の彼の失意の様子が目に浮かびます。でも、そこから彼も努力しました、一層の。彼は一匹狼のイメージが強く、周囲にも自分にもある意味では見えないシールドがあったように見えます。孤高であれ、迎合せず我が道を行く・・・というのは自らが鍛えていく段階では必要ですし、きっと彼はそれを実践したのでしょ。そこには、自由であると同時に厳しさが要求されます。何かあれば、すべて張りつめた糸の強さの所為にされるのです。流れていくことは容易いですが、他人との距離が短いこの日本では、苦しいですね。しかし彼はそれをやり続けた・・・と同時に今年は何か別のものを得たのではないのでしょうか？ と思っています。

団体競技にはいつもいわれることですが、一人はチームのために、チームは一人のために、と。

テニスが一人で上手くなるはずは無いです。今までテニス続けてきて、テニスを始めた頃から一体何人の人を見て育ったと思いますか？ 上手い選手やあこがれの選手が誰にも必ずいるはず。いたはず。その人のようにになりたい、その人に追いつきたい。テニスを教えてもらったわけでもないですが、その姿を真似、ラケットやウェアを似たものを選び、フォームを鏡に映したことはないですか？

そんな人がきっとたくさんいるはず。中学の頃、先輩が必死で、あるいは怒りながらもフォームを直してくれたりあげボールをしてくれたりされたでしょう。それらはみんな、善意から出ているものです。正しいことばかりでは無いはずですが、間違っても恨んだりしてはいないでしょう。色々なものに躓きながら僕たちはテニスを自分という作品を育て上げてきたのです。

一週間前に祝勝会があったとき、矢野選手は僕にこういいました。「僕はこのみんなと一緒に勝ちたい、最後の一踏ん張りをみんなのパワーで押して欲しい」と。

この時、彼は国体に行く！と僕は確信しました。

僕は他の試合があり、残念ながらその感激の場所には臨場できませんでしたが、すばらしいバックアップがあったのだと思います。それこそが、今の八尾の力ですし、個人の力をレベルアップする源でもあります。

矢野選手はこれから「大阪」を背負って行きます。誰でも背負えるものでもありませんしチャンスも多くありません。得たチャンスを生かし、更に心も技術も飛躍し手下さい。そしてまた我々の前に、大きな実りを少しだけ分けて下さい。活躍を祈っています。本選まで勝ち抜くために必要なことは分かっているはずですよ。それがこのチームでの矢野君の使命だと思いますよ。

2005.6.15

今外では雨が降っています。梅雨入りしたのに雨が降らないと思ってましたが、やっと・・・。その所為でしょうか、腕が痛い。首が大きな原因とは最近のTV放映でもよくわかりました。タイムリーと言おうか、それだけ故障が多いのでしょうか。「あるある大辞典」「たけしの・・・」それともう一つありました。原因はどれもパソコンやデスクワークのしすぎ、前屈み、猫背の姿勢の悪さから来る首への負担から来るものです。椎間板ヘルニアまで行ってないですが、ストレートネックには注意が必要です。何とか、体操や日常の姿勢の改善で対応しようと思っていますが、なかなか難しいですね。ブラインドタッチになれば少しはマシでしょうか？歳だけではなく、日常生活が体を圧迫していることもあるようですので気をつけましょう！！

6/13に北九州市の穴生ドームで全日本シニア北九州大会がありました。今年は50周年とのこと色々ところから選手が集まっています。シニア45も34チームという多さでしたが、レベルの高いいい試合が見られました。やはりその土地からあまりでない人も多くいて、名選手が出ていました。大分の甲斐選手は素晴らしいストロークとサーブで勝ち上がりました。安達・直原組が④-1くらいで負けてました。それまでは全然目立たない感じでしたが、あつという間に決勝です。準決勝で当たりましたが、手も足も出ず敗れました。定位置までは行くのですが、今一歩が足りません。勢いがないと、一日のトーナメントを勝ちきれないですね。それにしても、本試合でサービスエースを取られたのは一体いつだったでしょう？あまり記憶がないのですが、やられましたね。また一つ、目標ができました。目標ばっかりです！！

2005.6.9

暑い一日でしたねえ・・・。今年はまだ梅雨にならないというのに。昨日、一昨日と横浜から東京へ、今日は大阪ドームへ阪神-オリックス(パッファローズ)の試合を見に行きました。なんだか疲れを取る間が無いのですけどね。勝負事というのは、見ていて何となく分かりますが、4回のオリックスの攻撃で点が取れなければ今日はダメだろうと思いました。おつと確認してみたところ0-4でオリックスの負けです。やはり今日の福原のできでは点は取れませんね。プロ野球を見ていてスゴイと思うのは、やっぱり足の速さと判断力ですね。高校生なら悠々ダブルプレーが簡単には取れませんし、1塁走者が結構あたりのいいゴロでも2塁ホースアウトは見られません。スタートの良さ足速さでしょう。そう考えると、易しそうに見えるプレーも奥底が深いのでしょうか。テニスの決勝戦が、淡々とあまり盛り上がりもないままに終わってしまうことがよくあります。普通のテニスしかしていないようで、見ている人たちはあれは何なんだと思うことがあったでしょう。しかし、普通のテニスしかできなくなります。クロスのラリーがゆっくり続き時折サイドへパッシング、通ったり止められたり。レシーブでも後衛の前に淡々と打ちます。サイドやセンター行かないの？と思ったりも昔はしました。

今は、それしかできないんだねと納得してしまいます。わずかな動きや心の揺れをお互いに感じています。だからこそ、下手なことはできないのです。従って、とても単純に見えるテニスが行われるわけです。

それが超一流のテニスだと思っています。その中で、静寂を破れば激しいテニスになるでしょう。それがいつやってくるか・・・楽しいではありませんか、ワクワクするじゃありませんか！！

2005.6.3

梅雨が始まろうとしています。日本の1年の中でもこの季節は・・・悲しい時です。でも、今年はまだちょっとばかり前線が南にいるようですね。あまりおそいと梅雨が長引いて7月の西日本大会に影響があるので適当にはやってきて欲しいです。試合が多くなってきました。明日はどこかで強化練習を行いましょう。

2005.5.16

本日、私は会社を休みました。理由は右腕がだるく、また痛くてたまらなかったからです。原因がわかれば医者などには行かないで自分で治しますが、何かわからないほど不安なことはありません。この数ヶ月間悶々として過ごしたと行っても過言ではありません。昨年11月、洗顔中に首が突然がっつと音がして急激に痛くなりました。筋違い・・・という奴でしょうかそれとも骨がずれたのでしょうか？でもネチガイ癖があるために、大したことはないと言力にくっついていたのですが、何かいつまで経っても治らず不安でいっぱいでした。シーズンに入り騙し騙しやってきたのが実際です。今年のは初めは右手の肘が痛み病院に行ったらところ関節炎とのことでした。理由はマウスの操作の際に右手の不自然な動きと、やや浮かせているために肘に負担がかかるとのことだろうとのことでした。関節炎は急激に重いものを持つから起こるものではないようです。しかし我慢できないほどではないので放っておきました。今回、疲労などが蓄積して方が非常にこってしまいました。筋肉がカチカチになり、血行障害も起こっているのかも知れません。右手がだるく肘から二の腕にかけてしびれと痛みが交互にやってきます。しかもたまらない痛みです。持って行き場がないというのが実際とところ。これではイカンと病院に走ったのです。八尾市立病院の片岡先生は、数回協会の練習に来て頂きました。非常にファイトマンで体も大きく前衛でも後衛でもこなせる貴重なタイプです。市立病院が新規オープンしてからは忙しくてテニスもできないとのこと。また時間があれば顔を見せて頂きたいですね。そのおかげで私の様子も分かって頂いてるので非常に助かりました。結果は、やはり使い痛みや年齢的なものコリであるようです。基本的な骨の構造の悪さも分かりました。どうしようもないことが多いようで、ただ他の悪原因が(腫瘍とか・・・)あったわけではないので安心しました。

2005.5.5

今日で私は連休が終わります。まだ休みが続き5/9までという幸せな方もいらっしゃるでしょうね。悲しいモンで長いこと休むと自分の居場所がふと不安になったりもします。でも、先日お世話になっていました武田薬品の東(あずま)さんとお会いしましたとこ

ろ、毎日日曜というのも大変だよ・とおっしゃってられました。東さんはこの4月で定年となり今は週1回教室の指導と土曜日の武田クラブの練習と試合、とのことです。毎日テニスばかりもできないしなあと。僕にもやがてそのような日が訪れます。テニスを持っている僕たちはまだ良いのでしょうか、一般の人は大変でしょうね？でも生き甲斐を持ち続けることは可能でしょうか？僕には今はわかりません。仕事をしていることが今は生き甲斐かと言えば・？ですね。私は技術屋ですので、ずっと直接物作りに徹していれば良いのでしょうか、日本の社会は管理屋として年齢が過ぎると過ぎなければなりません。果たしてこれで良いのかと、今は思っています。食べるためには仕方がないのでしょうか？管理には向かない人もいます。それが決して無能ではないと思いますし、実際に社会を動かすのはそういった人でしょうね。

先日、NHKの「その時歴史が動いた」という番組で伊能忠敬を取り上げていました。彼は、50まで養子として入った仕事を全うし隠居後にあの日本地図を作製したそうです。子供の頃に天体に興味を持ち50過ぎて単身で江戸に出て、若い天文学者に弟子入りし、勉強にいそしんだのです。地球の大きさを測るという彼の大きな夢を叶えるため、彼の先生は幕府に働きかけて日本の地図を作るという名目で資金を捻出したのです。このあたり、大学の先生が文部科学省に働き研究費を捻出したのに似ています。20年近くかけて日本中を歩き、測量手法は歩幅と北極星と角度という非常に原始的な方法でしたが、あの正確な地図を作製したのです。彼は完成を見る2年前に他界しました、また彼の前に先生も他界、右腕とも言える友も死にましたが、彼の死後多くの弟子や先生の後継者は自らの手柄にせず、伊能忠敬の作として幕府に献上しました。幕府は開国時にこの地図をアメリカに提出したところ、その精巧さに驚き、日本の技術、学術水準の高さを認知し、また北海道を含む日本の領土の基本の姿を認識したのです。この地図のおかげで日本は主権を主張できたと言っても過言ではないでしょう。ちなみに彼の求めた地球の大きさは今の測定と比較しても1/1000も違わない正確さであったそうです。

この話を聞き、自分に残された時間をどう使うか、それが意図して大きな仕事でなくとも良く、結果として人々の役に立てるものであったらいい仕事は無いものだろうかと思ったりもするものです。

2005.4.13

今朝、「おはよう朝日」を見ていたら、造幣局の通り抜けが話題でした。もうそんな季節・そして4.2のテーマは香りのない桜の花でしたが、やっぱりあるもんですね。今日は香りのある桜が紹介されていました。皆さん、時間のある方は是非行ってくださいな。。。一体どんな薫りがするのでしょうか？？？ 興味津々ですね！！

2005.4.2

桜の季節がやってきました。今年は少し遅いようですね。一瞬で開花し、一瞬で消え去っていく刹那の美しさに惹かれるのでしょうか？桜はあれだけ綺麗なのに、香りは殆どありませんね。梅はおとなしめなのに、かなりの香りがたちます。北野天満宮は、鮮やかな色々な色と形と、宮中に広まる梅の香りで早春を体で感じる事ができて良いですね。造幣局の通り抜けなどに行くと、桜は狂気を感じるくらいに豪華に咲き誇ります。人はどちらを真似て生きれば良いのでしょうか？

1年経ちました・僕にとっては早かったし、遅かったです。先日、若水杯にエントリーしました。この大会では、ずっと宿敵として戦ってきた新開さんと組むことになりました。3年前は決勝を戦った相手です。時の流れと、縁の不思議さを思います。

今年は、どんな戦いがあるでしょうか？

2005.3.29

先日の堺市主催の大阪団体戦はなかなか面白かったと思います。意外性と言っては失礼だけれども、人にはすごい能力があるなと思ったものです。そしてソフトテニスは怖いものだ。一瞬の気が垂直に上昇も下降もさせます。団体戦の良いところは、自分だけではないけれども、負けたときはやはり自分が・・・とってしまうもんですね。東大阪戦は悔しいですね。。。

2005.3.23

落書き帳をご覧の皆様、私はHP作成の合間に思いついたことや、自分の感じたことをここに書きつづってきました。でも、最近自信が無くなってきました。色々ご意見を下さる方も多ですし、意外と見てもらえるモンだと変に感心したりします。インターネットというのはすごい影響力があるのだと思います、ホントに。

逆に、自分ではそんな気がなくても、言葉が足りないために人を傷つけてしまっているのではないのでしょうか？それは何かを表現すれば当然出てくる現象なのかも知れません。ただ、僕は自分らしくありたいし、感性のままに書いてゆきたいのです。人は未熟なものです。完全な完成された人間としてでなければ、何ものをもなしてはいけないというのであれば、生きることはまず否定されます。不完全な人間が、生きて関わり合い、正解のないあるいは全てが正解である人生という道をぶつかり合いながら行くのです。そこで色々な問題がなければおかしいじゃないですか・・・？教育とは何か・・・という大げさなモンではないですけど、例えばですよ、こんなことも言えるんじゃないですか・・・子どもたちに、喧嘩をするんじゃないかと母親が言います。悪いことをしてはいけませんと教えます。人をいじめてはいけないと教えます、人のものを盗ってはいけないと教えます・・・それらは皆正しいことです。でも正しいことだけが、人の世の関わり合いではありません。それらの逆のことが何倍も多いです。いけないと言われることをして、人を傷つくと同時に自分は何倍も傷ついて、初めて人間らしくなるのではないのでしょうか？痛みを覚え、苦しさや悲しさを知らなければ楽しさや安らぎは本当にわからんのではないのでしょうか？学校は、問題を起こさないように監視するところではありません。問題が起きれば、その問題を通して関わった当人に負の教育ができることです。今の学校は、楽しさや安らぎという正の教育ばかりをしようとしているのではないのでしょうか？

テニスでも同じだと思うのです。僕は前衛ですので、前衛のずるさも解ります。ミスしたくなければボールを捕らなければいい。問題を起こさなければ、果たして良い前衛でしょうか？将来良い前衛になる可能性があるのでしょうか？違うと思います。

何で出るんだ！！と言われ、馬鹿じゃないかとののしられ、それでも自分の経験を増やし、ある時期が来たら色々なボールが自然と自分の懐の中に入ってくる・・・そんなものではないのでしょうか？失敗の数だけ成功も増えます。負けた数だけ、勝った数も増えてきます。それは、間違っただけの勝利であると、思っています。

でも、やっぱりいろいろ負のご意見をたくさん頂くと・・・落ち込みもします。

2005.3.20

昨日今日と久しぶりに吹田にお邪魔しました。色んなテニスがあり、相性があるんだなとつくづく感じます。今日は相賀さんに2敗してしまいました。考えていることが違うのでしょうか。何かことごとく裏目に出ました。まあ、考えすぎて裏目に出たのかも知れませんが。思い切りの良さに後手に回ったのは事実です。テニスは先手が大事です。しのぎも必要ですが、それはあくまで攻めへの繋ぎです。先手を取ってやり抜くだけの気力と技術ですね。

2005.3.16

先週末は、東京に行きました。ヌキさんが東京へ単身赴任中で、あちらでの大会に出ないかとお誘いからです。元々関東にいた僕は、楽しくなっとうきうきと出かけてゆきました。しかしながら、お水取りも終わったというのに寒い土曜日、日曜日でした。雪がちらつき、一瞬桜かなと錯覚しましたが、そんなはず無いなと思直しました。やはり冷たい雪でした。世田谷クラブは結構歴史があるようでした。テニスが生まれて、色んなところで育って来たのです。色んな形を持った子どもたちが成人しているのだなと感じました。

関東のテニスの中で、関西で成人した僕たちのテニスはどうか映るのだろうかという興味を持って接しました。中には全日本チャンピオンや上位入賞をしている人たちの顔が見えます。彼らと試合をして果たして勝てるのだろうかと不安もありました。西のテニスとはまた違うのではないかと。

やってみて感じたことは、何か少し違うぞ、と思ったことです。テンポがやや速い。大リーグと日本の野球の違いみたいなモンでしょうか？サーブがまず違います。大阪では結構厳しくテニスがなされます。1本でもいろいろ考えて、ポイントや流れの中でやっていきます。でも割と東京はあっさりしていると思いました。結構中心めがけて打ってきます。ただ一人、松本選手は1本目から厳しいサーブを打ってきました。それを思い切りぶつければよかったのですが、予測していなかったため慌ててしまいレシーブをバックアウトしました。よく考えている人だなと思ったのです。これは大変だと、考えさせられたのです。

彼とは昭和48-9年頃、同じ関東リーグ4部で戦った仲間です。幸か不幸か、対戦はしませんでした。相手は東大の3番大将でした。僕は群馬の2,4のフック選手でしたから、当たるはずもなかったのです。当時からCleverなTennisだと感じていました。30年の時を超えて、僕の脳裏には彼の当時のフォームが焼き付いていました。

準決勝で対戦したのですが、絶妙な配球をしてくる。ただ、前からその試合を見過ぎていたためにちょっと過敏になりすぎたようです。いけないことですが、先に「何をやるのだろうか？」と考えてしまい、後手に回りました。やっている内に、どうも、彼は何も難しいことをやってるのではなく、単純に人がいないところへ打つテニスを徹底してやっているのだと感じました。それには3ゲーム目から気づきました。4ゲーム目からは彼の打つコースは殆ど解りました。ただ、深いボールも多くあり、完全に処理ができたわけではありません。5ゲーム目の2-2からの正クロスへのロビングも解りましたが、ボールが速かったこと、入るのが遅れたことでミスしてしまいました。これが入っていれば面白かったのですが、しかし、今度は負けません。頭に十分入れておきます。とにかく、試合後に会話をしましたが、大学の頃の話などで思い出話に懐かし、また時代を共有できた仲間がここにもいたのだと嬉しく思います。そして、27-28年の辰巳の年代でもありました。これからは色んなところで当たりそうな相手の一人だし、テニスにおけるTACTICSを十分に楽しめる宿敵だと思ったものです。広島宮本選手に非常に似たテニスでしょうか。すこし宮本選手の方がパワーはあります。

2005.2.21

昨日は、北九州の穴生ドームで西日本シニアマスターズが開催されました。各地からの3チーム団体戦で大阪からは徳島の三原さんを加えて6名で参加しました。土曜日は雨気味でそれこそ九州にはいるまでは新幹線の中で、今日は無理かなと思っていました。ただ、晴れ男が揃っているため、ひよつとすればできかなと期待しながら小倉に着いたのです。戸畑まで普通電車で行き、ホテルに着く頃はもう雨は上がり、2時から練習ができました。地元の松田さんやレディースの方々には迎えからコート世話までお世話になりました。喜多村さんは最近あまり練習していないとのことでしたが、何となく温泉にいきたくて。そんなときはやはりおやつと思うのですが、やはり予感的中しました。日曜日の大会では、今まで見たことのないような乱調でした。過去見てきた勝負強さや炎の燃えるごとの目の輝きがありません。自分自身に奮い立たせる何者かが欠如していたようです。長年組んでこられた伊藤さんが体調を崩し、今年はペアが不安定だと言うこともあるのかも知れませんが。歳を取っても相変わらず態度は変わりませんが、テニスから輝きを失えばただのうるさいいさんになってしまいます。

しばらくは大先輩ということで回りも大目に見てくれるでしょうが、反省しなくてはいけないことも歳を取ればありそうです。

以前にも書いたことがありました。僕たちはテニスを通じて知り合い、テニスを通じて団体を組んでいる。その根幹を成すものはテニスであり、その面白さが人を引きつけるのである。集まった人たちが他の趣味に走り、そればかりをやるようになっては本末転倒であって、団体の意味はもはや無い。それと同じで、テニスマンがテニスを適当にやるようになっては、早くラケットを置いた方が色んな意味で有益です。害にならないという方が良いでしょうか。

いろいろ考えさせられることも多いのです。彼の評価も2分されます。どちらもわかる気がします。僕はいつまでも、睨まれると一瞬すくんでしまうような、眼光鋭い、テニスの鬼才であって欲しいと願うものです。

色んな人たちに会いました。いろいろ良いテニスも見ました。でも、自分たちのテニスは面白いのだろうかと思っています。僕は小早川選手と組んで見て、無理のないテニスができると感じています。それでいて自分が生きないわけでもない。彼の判断や粘り強さは素晴らしい。ストロークも鋭いものがあります。高宮をライフルとするなら、彼は機関銃でしょう。僕は彼と組んでみて、次第に感覚がわかってきました。だから、何を取ればいいのかもわかりかけてきましたね。どこを取って欲しいとも言ってくれます。どこを僕が取れば苦しくないか、それもどうやら解りかけました。彼は今まで組んだ後衛と違い、これできる？と言えやってみてくれます。それは僕には驚きです。なかなかストに対応できないものです。でも彼自身が非常に柔軟なんだと言うこと、先入観が無く対処できる・・・そしてどこが勝負所だという鋭い感覚を持っている。そしてそれは僕と同じところにあるところというのが大切です。

僕はやっと今年、頑張ろうという気になりました。また同じようにテニスに没頭していける人生に入ることができそうな予感のした九州への旅でした。

2005.2.6

全日本イントアに行きました。もう一年経ってしまったのだと痛切に感じます。その間に色んなことがあり、確実に日々は過ぎてゆく・・・。

2005.1.30

今日は八尾インドアでした。例年WINGで行っていましたが、会場の都合で市立体育館を用いて実施しました。過去は八尾市にはこの体育館しかなくて、しかもこの体育館を造るにも相当の努力がなされたようです。しかし今は昔、冷暖房も効かず、照明も暗く、狭く、1面しか確保できない体育館では、今の人たちはテニスをしようと思わないのでしょうか？メンバーを募ったところ、1面しかないので辞退しますという人も多かったのです。でも考えてみれば、1日使用して5試合くらいできて、なおかつ通常は練習試合でしかやってないメンバー達が一生懸命に力を出します。その中で切磋琢磨していくのは良いことだと思うのです。今日は、若い人たち、特に新人達で固定のペアがいない人たちにテニスの試合の楽しさや緊張感を実感してもらい、また彼らの潜在能力を知りたいというキャプテンの提案で、ペアは抽選で行いました。わりと綺麗にいいメンバーに分かれたと思います。

八尾の中でも、格があり(自然と)そこには入れないという何かこう無言の圧力みたいなものが一般の中ではあるのでしょうか？僕にはそれは幻想でしかないものと思えないのですけど。そういった壁を打ち破るのが、彼らにとってはまず一歩なのでしょう。そこから、繰り返してその力を出してゆく、いずれはいつも力を出し続けるようになる、それが力というものでしょう。今日の収穫は、本当に今まで力を出すことができないでいた若い人たちがのびのびとまた集中して、いい動きといいポイントを重ねた姿を見たことです。

八尾で上手くなり、選手として勝っていく、生え抜き・・・という人たちが今のキャプテン以後に出てきていません。しかし、可能性があるなと感じた今日でした。

新芽はいつもでよとするモノ、でも育つのは少ない。自分で生きようとする力と、環境とがあって初めて成り立つものですから。

2005.1.25

インドアテニスが盛んな大阪では毎週のように大会が開かれます。年を追う毎に体力と技術の限界を感じながらやっていますが。

2005.1.10

今日は成人式です。遠い昔のことですが、心はあまり変わらず渴望していますし、求めるものはいつまでも近くにはやってきません。努力も足りず運も無いということなのでしょうか・・・。

新たな一年に！という何もしんなに改まって言うことじゃないという人もいます。変わり目にはそんなに意味はなく、一日一日が大切なものだから特別なことをしなくても良いだろうとか ですね。

たしかにその通りです。曆も人間が発明したもので、それは規則性を本質的に感じる人間の観察力の成果でしょうか？しかしそのおかげで人間がどれくらい生きられるか、何をなせるのか、どれくらいのことのできるかを判断する指標にはなるでしょう。また、天文学や宇宙とは何か・・・そんなことも人間の知的好奇心から生まれた観察力の成果の一面でしょうね。

僕たちは一年という区切りに、心新たにすることもできますし、見直すこともできます。

それは本人の問題ですが、一日は一生のうちのたった一つの日ですし、大切にすべきであろうと思います。一球のテニスでのラリーをおろそかにすることは二度と無いそのチャンスを失ったことになりす。刹那と継続の重要性は今に始まったことでは無いでしょう。

2005.1.7

2005年、初めての書き込みです。いつもは華やかな気持ち少しは芽生えるのですが、今年はちょっと違いました。昨年の慌ただしさが嘘のようです。穏やかに過ごしたいという自分の心がそのようにさせてしまうのでしょうか？人を老けさせるのは他人ではなく、自分そのものであるとはよく言ったものです。やはり、元気よく気持ちに張りがあれば筋肉も衰えて、本当に50代になってしまうでしょう。

2004.12.23

天皇誕生日です。今日は、大阪で一番の冷え込み、確かに寒かったです。大阪市立中央体育館では、全日本学生の東西対抗戦が再開されました。どんなもんだか見学に行きました。東西学生のランキングトップ10の選手の対抗戦です。しかし、ちょっと時期が悪いなと感じます。学生もシーズンオフで鍛えられている姿とはほど遠いプレーでした。後衛はまだ良いですけど、前衛はただでさえややレベルが低いと思うのに練習していなければ推して知るべしです。この中で先を任せられる選手がいるのかということになると、???ではないのでしょうか？

こんなことを書いて失礼とは思いますが、実感ですのご容赦あれ。

また、氣質が変わってきているなと思います。何かお祭りということもありますが、テニスが遊びとしてしかやられていない印象です。昔、同好会の大会や下位のリーグの戦いを見て感じたあの緊張感のない雰囲気を感じました。特に、関西学生のベンチは声援というよりおちゃらけたムードでした。それが初戦より5連敗という結果だったのでしょうか。次の天理の？・玉村ペアは3-1、3-1からファイナルまで挽回されました。篠原・？ペアはファイナル6-4からデュースとなり結局それからお互いマッチを2回ずつ取り、最後は玉村ペアが12-10で勝ちましたが・・・これも、大切なところで締められなかったために、こんな試合になったものでした。追いつけるが突き放せない・・・そんな弱さでした。1本の鋭さがあります。しかし展開が無い。戦術、戦略と攻められ強さや強行突破する破壊力、どれをとっても不十分でした。

この試合が一番印象に残りましたが、どの選手も時代を代表する選手としてキラリと光る何かが備わっていないのか、僕の目が悪いのか見えませんでした。

ちょっと冷え冷えとした心で体育館を後にしました。

2004.12.04

青年会の合宿にお集まり頂いた皆さん、本当に有り難うございました。各地から80名の皆さんに、一堂に会して練習し、試合するその光景ははすごいと言いがありません。皆さん方は全日本を代表するプレーヤー達で、心身共に頂点に向かい、また極められた方々です。その人達が、高宮のために集まって頂いた・・・その感激は忘れません。私が彼のためにしてあげられることは、これで全てです、そして、友人達、先輩達は本当に試合でもないのに集まって頂いた・・・これは驚くべきことです。

全日本が開けるね・・・そんな仲間達を僕たちは得ることができた、しかし彼はもういません。それを認識しなくてはいけないのですね。ただ僕は、その残された財産を有効に使えるだけのことができるでしょうか？ 自信がありません。今は、ただ少しばかり休みたいです。シーズンオフにはいることを理由にリフレッシュしたいと思っています。

2004.12.03

もう1週間経ちました。日々は容赦なくながれ、何者をも巻き込んで均質化してゆきます。黒が全てを吸収する色で、白が全てを反射する色で、なんて単純な原理なのでしょう。僕はその他の一つの色に過ぎません、黒であるほど吸引力もなく、白であるほど何者をもはなつける力はありません。時間が作り出す均質化はやがて全てを灰色に変えるのでしょうか。青年会の合宿に集まって頂いた素晴らしい仲間達に今は賛辞を送ります、そして感謝の有り難うございますを言わせて頂きます。人に対して今年ほど有り難く思った年もありません。生き死にに遭遇すること、立ち会うことの多かった今年は、改めて生きることを痛切に感じます。僕たちは刹那の中に生きている・・・一瞬のこのきらめきを誰も笑うことも蔑むこともできないし、また誰の中にも決して留まることはできません。

2004.11.26

明日より、岡山高梁の青年会合宿に出かけてきます。今は小雨が降ってますが、きっと明日はテニスの神様が我々シニアに力を貸してくれるでしょう。明日は100名近い皆さんと、テニスと語り合えることを楽しみにしています。四国、山陰、広島、大阪、京都、東京と各地から集まって頂けます。一体何のために・・・たかがボールを打つために。そうです、たかがボールを打ち、みんなと会えるために僕たちは集まります。他人から見ればあきれられるくらいばかげた行為かも知れませんが、でも僕たちはそんなことは考えない、損だとか得だとかいうこと以上にそれには価値があるのです。全国にある同じくする魂と尊敬する人たちと語り合えるだけでワクワクします。そうたかが球打ち合うことだけのために僕たちは大いなる贅沢をするのです。至福の時間を得るために。そして、愛する友の魂と触れ合うために、僕は何者をも放りだしてゆくのです！ただ、愛するテニスのために、テニスを愛する自分のために・・・

2004.11.22

土日曜日と広島での中国オープンと練習会に参加しました。試合は昨年同様3位。ずっと3位が続きます。と言うことは成長がないということか・・・それに引き替え、広島郵政の佐々木選手は成長著しいものです。速い球を打ち続けるわけではなく、ボールを回し、素晴らしいコントロールで相手を翻弄します。前衛の玉井選手も意外性の選手で、また確実にコートに入れる技術を持っています。東大阪の成富選手と何となく感じが似ています。決して派手でなく、ぎこちない感じがしますが、それは見せかけて騙されてはいけません。甘くなったコースは彼の張ってある網の中なのです。それが解ったときには遅かったですね。今回はそうは行きません。マークしておきます。安達・直原ペアが負ける試合というのはあまり見ることはありませんが、今回と一昨年の井ノ口杯で佐々木選手に負けたもの、また今年の鳥取久松杯では安達・東ペアで倉田・田中ペアに負けた・・・くらいでしょうか。それくらい負けた方が印象に残るとは、すごいと思います。改めて感心してしまうものです。

今回、BEST4で負けたため、幸運にも決勝の審判をしました。チャンピオンテニスの審判はとて素晴らしいですね。自分が決勝に出ているのとは違ったり緊張感があります。実は審判の役割というのも、結構大切なのです。今までもそうでしたが、ここでもう一度審判について日本連盟や本部主催側には名案を考えて頂きたいと思うものです。審判が、いいリズムと大きな声でコールをして、明快な判断をすれば、試合が締まります。緊張感を与えることもできますし、その試合を大げさにいえばコントロールすることになるのです。試合は選手だけでなく、審判や観客、コートの状態も含めた総合的なものでは無いでしょうか？ 審判はそれらをオーケストラに例えれば、指揮者・コンダクターなのです。指揮者により、いい選手の力を引き出して、いい試合にするのはそのトーナメントの格を決めるものといってもいいでしょう。以前にも、全日本インドアの審判の選定に苦言を呈したことがありますが、実は僕の中にはそういう気持ちが強いため言わせて頂きました。予選は、審判員の都合もあるでしょうから、選手の相互審判でも良いと思います。しかし、準決勝以後はどの試合でも、選手は全力を出してプレーをして集中力は尽きています。ましてや負けたあとでは、冷静ないい審判はできません。多くは、冷静ないい審判はできません。

多くの種目がある大会で、私の言っていることを実行するのは大変なことだと思います。その日即席ではダメでしょうから、準備が必要なんです。ですからこそ、格があると思うものです。ローカルの大会でも素晴らしい運営をされているところもあります。それは素晴らしいものです。そういった大会には、ずっとおつきあいをさせて頂きたいですね。

ちょっと話がそれました。今年の中国オープン決勝は佐々木・玉井④-2安達・直原でした。安達さんのストローク、コントロールは素晴らしく、直原さんとのコンビネーションもやはり最高の域ですね。見ていて何の無駄もない見事なペアバランスです。直原さんのポレー・スマッシュの技術もすごいです。よく見ていると実に基本に忠実です。ポレーも他の人に比べて非常に早く面を作り、体のさばきでボールを処理しています。自分なら手さばきをしてしまうところだなと思うプレーがなるほどこうするのか・・・と感心するものが多かったです。テニスは難しいですね、とも思いますが、実は易しいのだと感じます。プレー自体は基本プレーで十分です。身体能力があればアクロバットもできますしショーとしてはいいですね。でもシニアにもなると、身体能力は中学生の平均以下でしょう。それは一度やってみたらいいのです。50m走は？ 幅跳びは？ 高跳びは？ 垂直跳びは？ ソフトボール投げは？ 懸垂は？ 踏み台昇降は？ サイドステップは？・・・おそらく自分が考えているより、数値は低いと思います。

それなのに、今でも一般の頃のプレーができそうな錯覚をしてしまう・・・これは幻覚に近いです。僕たちはしっかりとプレーをすることが大切だと改めて実感しました。

佐々木選手が、2-3年前に比べて素晴らしく進化したと思うのは実はこの点です。力みが無く、無理をしていません。でればいつでもロブできる柔らかさがあります。以前は抜きに来てました。無理して前衛のサイドに打ちましたし、頭越しを主眼にしてました。勝負は前衛のそばを通すことですが、数が多いと勝負ではないですね。普通のコースです。それが今回はなかったですね。流れのままにテニスをする、実は安達さんがそのテニスではなかったのかと思いました。風のごとく、水のごとく・・・一瞬の変化に対応するテニスを佐々木選手も完成させてきたのでしょうか。玉井選手は、東大阪の成富選手もそうですが、意外性の固まりのような選手です。結構深いポジションにいて攻めやすそうですが、相手が打つときには一歩詰めていてミスしない位置にいます。また微妙な位置なんで、パカンというポレーは少ないですけど、ミスは殆どありません。読みは非常にいいなと感じました。一番いいのは殺気が無いことです。騙されてしまうのですね。

皆、玉井選手は嫌いだと言います、客さんもそう言っていました。何するか解らん・と。僕は見てないんだと思うんですけどね。嫌、見えていないと。それくらいいい「気」を持った選手でしょうね。

21日夕食のあといつも広島市の街に出ますが、最後、栗尾選手と話したことに、前衛の存在感について・・・話しました。栗尾選手は、存在感を示してコートに狭く見せた方がいいと言います。僕は以前は栗尾選手と同じでしたが、最近は逆に気配は消した方がいいだろうと思うようになりました。後衛が目立てば前衛は消えます。その方が取れますし、見られにくい。欲しいポイントは確実に取れます。以前はそうしてポイントできたかと回想しています。逆に自分の方が目立ってしまうと、相手はいつでも自分を見えています。易しいボールが飛ばなくなるのです。つなぎのボールを打たせようとしているのにそれが無くなる。全てがマッチポイント、勝負球になるとテニスが博打になってしまいます。それは苦しいと思うのです。ただ、正解は一つじゃないと思うのです。どのテニスが自分に合ってるかと言うことだと思うんですけど。僕の場合は、これしかできないと思いますが。

とにかく、佐々木選手-安達選手の素晴らしいコントロールと駆け引きの中で玉井、直原選手は守り攻めポイントを重ねます。次第に佐々木選手のストロークに切れが増してきて、安達さんのボールが甘くなります。佐々木選手は緩急コースを変え、素晴らしい配球でした。後半直原さんのポイントは数えるほどしか無かったです。最後1本、佐々木選手のセンターへの速い球を直原さんがチップしてゲームセット、実に見応えのある、素晴らしい決勝でした。有り難うございました。この一試合は非常に価値のある試合だったと思います。

11/27-28の岡山の合宿で皆さんと楽しく練習、試合、またテニス談義ができることを楽しみにしています。ところで悦喜さん、読んでもらえましたか？

2004.11.17

今日は寒く氷雨が降って来ました。日暮れも早く、夕間は迫ります。明後日は広島に行きます。仲間達に会いに、そして明日のために・・・と思っているのですが、少し元気がありません。

ただ今は、来週の岡山の合宿が本当に楽しみです。広島と岡山で皆さん達とお会いできて、活力が湧いてくれれば良いのですが。

2004.11.14

八尾市長杯が無事終了しました。この大会が終わると、冬が来る・と思います。今年は暖かい方ですが直に木枯らしが吹くでしょう。今年は9市で行われましたが、実力は伯仲していました。決勝リーグは勝ち負けで随分と順位が変わるところでした。あと1ポイント、平野区-東大阪戦で平野区がとり勝ったなら、優勝は八尾市でした。他力本願は虚しいことです。来年こそは実力で取れたらいいですね。テニスは怖いものです。今年は万全と思ったシニア男子が思わぬ苦戦でした。テニスの試合とは、前にも書きましたが危うく脆く儂いものを秘めた戦いです。弱者にも勝つチャンスはありますし、強者も決して油断できないものです。戦い方を一試合ごとに徹底して追求してやれば、誰にもチャンスがあるものです。その中で勝っていく、勝ち続けていくのが儂さの中にある最も大きな魅力であり、恐さです。人生の中でキャンプ的などころも何度かあるでしょう。あつたと思います、私自身は。そこで冷静な判断、決断、実行と行っていく修練の場と考えるのは・・・考えすぎでしょうか？

2004.11.13

いよいよ秋も深まりました。北風が吹き始めてます。が、今年の天候は油断ができませんね。昨日の雨で私の会社の静岡工場が冠水したという知らせが入りました。スクールのような雨が降り、蓄えきれない水が一気に流れ出てます。気をつけてと言うより、自分たちの身の回りを再確認してみなくてはいけないようになってきましたね。何かの啓示でしょうか？

明日の市長杯は9市での対抗戦となりました。参加頂ける各市のご健闘をお祈りしますと同時に、当市は優勝に向けて頑張ります。最後を美味しいお酒で締めたいものです。

ところで、再来週の岡山での合宿は、80余名の方々と共に練習と試合を行うことになりました。また、全日本シニアの本当のTOP選手の集まりです。有意義なテニスの会にすると共に、その人格にふれ益々のシニアの友情の輪を広げたいと思います。皆さん宜しくお願いします。

シニアのみならず、一般、成年の選手が参加されますが、彼らにとってはシニアの神髄を見れるチャンスだと思います。一般、成年の風雪に耐え、しのぎ、そして結実した一つ一つの果実を十分に見て、肌に触れて感じて頂きたいのです。

2004.11.02

明日は良い天気のように。公式の試合も終わりに近づき寂しさが漂います。明日はしかし、広島市の福山市で井ノ口杯が開催されます。シニアになり参加し始めた大会ですが、良いレベルを維持されています。広島の方々の努力を思います。明日は、タヌキさん・と久々に組みます。昨年は途中で中止がわかり、高速を引き返しました。今年はそんなことがないようにと祈ります。東京から夜行バスで来るタヌキさんのためにも。

2004.10.31

出張から帰ってきました。今回山形に4日ほどいましたが、その間隣の新潟の地震の余波もちょっと感じたりして。また、山形新幹線が実は通常の路線を走っていたり普通電車で50分のところを30分以上かけて運行したりとか何かショックがありました。お金をかけられない日本の国情もわかりますが、少しずつ周辺から沈んでいっているのかなという印象もあります。また、生き埋めになった男の子が殆ど無傷で救出されたり、奇跡もありました。同じようなところなのに、運命は分かれました。運とはなんですか？

先週は東北では気温7-8度。やはりコートが有り難い感じでした。山は冠雪し北風が吹きます。大阪に比べ3-40分の日暮れの早さがあります。米沢は昔の上杉家の藩都で整然とした広々とした町並みが印象的でしたが、同時に高い家並みもありません。山形市などに比べるとちょっと置き忘れられた都市といった感じです。岡山の津山にもそんなところがあります。町中から郊外にマーケットが移り都市から人が消えつつあります。春に訪れたときも、群馬県前橋市も中心部はゴースト化しています。過去との共存は日本人には苦手なのでしょうか？

破壊することはすぐですが、創り上げることは難しい。一度無くしてしまえば二度と手に入らないものがたくさんあります。

2004.10.23

全日本の頃からレシーブが打てなくて困っていました。僕は、元々ラリーができないと全てのプレーがちぐはぐになっていく方です。それは誰でもそうかも知れませんが、ラリーというのは全てのテニスの基本です。これなくしていくらネットプレーができててもダメでしょう。始めにストロークありきなのです。レシーブでリズムができれば自然と体がボールに向かっていけるようになります。そうすればもう怖いものはあまりありません。一昨日の体育館での練習でもラリーばかりを行いました。疲れていたかも知れませんが、1年間の疲れが今頃出たのかも知れませんが・・・と慰めてくれる人もいますので、そうだとすればそれは言い訳にしか過ぎないでしょう。テニスの事がわかっていなかっただけの事です。体育館前の日曜日の試合後くらいから何となくわかってきていました。人が会得した技術をすぐまねようとかそれができないとダメだとかそういう声に耳を傾ける前に自分が何をやりたいのか、どうやってきたのか、今まで積み重ねて得ているものは何なのかを振り返ってみれば答えは自ずと出てきます。なんか気が抜けてしまったような気がしています。ただ大切なものを、困ったときにどうすればいいかを見つける事ができた、そういう振り返り方がわかるようになった事は大きいですね。不安が一つ消えました。

2004.10.17

東大阪の市長杯が開催されました。古くから行われている団体戦で、初期の開催は八尾市・東大阪市・豊中市ではじめたと聞き及んでいます。市町村の親睦を深めるために始められたそうです。今では各都市が主催で行われ、逆に日程の調整がつけにくくなっていくほどです。今日も6市でした。もう少し参加して欲しいと高橋理事長の挨拶にもありました。11月の八尾市長杯も、どうやら南河内の大会とダブっているようです。できれば八尾市は周辺各地の市に出て欲しい事から、ダブらないように考えているのですが、難しいですね。

最近では、各地でのローカルの有名大会が寂れ気味です。昔は地方の大きな大会に、中央の学生やナショナルチームの選手を招待したり大きく盛り上がっていました。それが、その地方の選手だけが集まる本当のローカル大会になってしまっています。大会が多く、選手も地方の大会に出るところではなくなくなっていますし、主催者側も経済的な負担から、招待費を出すところまで行かないのでしょうか？

今年の東大阪市長杯では、いくつかの収穫がありました。まず、女子がしっかりしてきてくれている事で1点が計算できるようになりました。前回の加盟団体の結果を反映していると言えます。確実に成長しているのですね。男子も後衛が育ってきています。今日はしっかりとその様子が窺えました。更なる努力を期待します。シニア男子はダブル前衛・前衛並行陣の試みをしました。まだ、細かい点の打合せと役割分担がしっかりしていませんので勝率は低かったのですが、将来に希望の持てる戦いが見せられたと思います。やってみて面白いなという印象が皆さんに与えられたら良いと思うのです。ダブル前衛なんか・・・遊びだ！！と思われているとすればそれは大きな間違いです。なぜなら雁行陣はスペシャリストのテニスです。前衛は後衛を潰すために存在します。相手に後衛のいない並行陣では誰を相手にすればいいのでしょうか？そうです、いつも雁行陣の後衛は1対2で戦わなくてはなりません。雁行陣の前衛は死んでしまうのです。まだまだ合わせなくてはいけない事が多いです。もう少しペアとして完成させて、デビューをしたいと思います。

2004.10.13

昨日、HPにテニスの不調だと書く早速沖縄からmailが入りました。有り難い事ですね。不調でテニスがやりたくない、昔なら思ったでしょうか？今は、苦しくても何とか克服したいと思うんです。今は、体力が無くなったのでしょうか？3連休をずっとテニスで過ごす、今日くらいまで疲れが抜けません。ずっと尾を引き、ちょっとめげてしまいます。アキレスなどに張りが残るあまり気持ちの良いものではありません。それとテニスの不調なのはあまり関連はないでしょうけど、良い機会だと思います。今まで、そんな当たり前のことができなくなるなんて思いもしませんでした。でも起こるのだ、そしてそれは全て自分の内なる問題だと考えるものです。ですから、現実には自分の心が反映されているものだから、人には分かりません。きっと僕の練習を見ている人は、そんなに悪い事はないだろうと思うはずですが。でもそこから先が大変なのです。心の中と体の葛藤、表現できない心の弱さ・・・これが大きな原因です。僕はその克服する様を実感したい、そしてどんな心の動きで、どんな割り切りで元に戻れるのかを知りたいのです。次にまた同じことが起きたときに、そしてあらゆる可能性を考えて、いつでもすぐに困難を克服できるように！！

2004.10.11

体育の日、先日は台風がやってきてどうなる事かと思われましたが、幸いインディアンサマーで暑い日でした。今日でアウトでの八尾の試合(個人戦)は終わりです。後は団体戦を残すのみです。今年の締めくくりとしてぜひとも市長杯は優勝をしたいものです。女子の充実、新メンバーの加入で期待は持てます。シニアの男子も東京より強力後衛が帰ってきて、1本は必ずや取ってくれるでしょう。少し安心して見ていられる今日この頃です。ただし・・・自分は大スランプで困っています。テニスを始めてからレシーブは大の得意で、どんなに負けていても自分のレシーブで挽回できるという自信があったものです。でも昨年の西日本・・・高宮選手と組んだ最後のビッグな大会でしたが・・・で急に打つのが怖くなってしまったのです。何故だかわかりません。とにかくボールを打つのが怖いのです。見ていた人はきっと覚えているでしょう。高宮はビックリして「体でも悪いんか？」と聞きましたが「いや・・・」としか言えません。でも心の中は青ざめていました。結局その日は、高宮のビッグサーブ2本で切り抜けて勝ちました。しかし次の日の1試合目ではやはり余韻があり、強打はできませんでした。欲しいポイントで打てない歯がゆさ・・・打てれば楽勝していた試合だったと今では思います。でも・・・そこから僕の本物の自分との戦いが始まったのです。強打しなければ返ります。しかし、やはり無難なテニスでは勝利はやってこないのです。自分の限界が出せる戦いで、やっと勝ってきたではありませんか！！フワッと返したボールなど百戦錬磨の彼らには通用しないのです。そんな事がわかっているのにできません。「アウトする事に怖がっている・・・」高田一三さんに言われました。。アウトを怖がっては勝負はできません。技術的に克服するしかない、今日はいっぱいラリーを行いました。ラリーももう一つですがレシーブほどではありません。しかし試合は今日の最後の試合など1ゲームで4本くらいするのです。こんなんで勝てるわけはありません。とにかく今日は家に帰り素振りをしました。力のいれ具合、ラケットの握り、どうやらそんな事ではないようです。ただ、これはと思うのは、やはりラケットの引きが遅くなっているからのようです。早く引く、引けた事の確認、踏み込む事、振り抜く事、それらが当たり前のようにできるまで、まだこれから練習が続きます。

しばらく組んで頂く後衛さん、迷惑かけるかも知れませんが、下手くそめ！と思うでしょう。でも許して下さい。この埋め合わせはき

としますから。そうそう、鳥取の安東さん、昨日の福知山全関西ではすみませんでした、頑張っって復活したら、またお願いします。気長に見て下さい。

2004.9.21

今週は、敬老の日と秋分の日があり半分しか働きに行かない。しかも飛び石となるのでまあ気の乗らない事。でも真夏日が続く。今年夏はそれほど暑いと感じなかったのに、最近は蒸し暑いいつもの夏が一ヶ月遅れでやってきたのかと思うほどの馬鹿暑さ。世間では変な事件も多くて迷宮入りが多くなっているとか。犯罪も単純でなくなってきたので、検挙もあまりできなくなっているのでしょうか？平和な日本が帰ってくるのはいつなんでしょうか。それとも平和なんてものは幻想であって、元々僕たちの近くには平和なんてものは無かったのかも知れない。

僕たちはたくいまれなる世界に住んでいて、そもそも戦争に巻き込まれなかった世代なんてのは無かったはずなんだ。でも僕たちはその奇跡のような時代を生き抜こうとしている。大どんでん返しやってくるのだろうか？

2004.9.18

明日から三連休。でもいろんなことがある。明日は関西TV「二時ワッ！」の収録がある。敬老の日の特番で「元気なシニアにインビュー」という企画。当協会のHPを見て、シニア70の全日本チャンピオン余田さん取材に来ると。。。話が急に舞い込んで、ビックリしたものです。HPなんぞも創っておくものですね。このおかげで、八尾市ソフトテニス協会はある意味で脱皮をしつつあります。情報の発信と共有、会員は時空を超えた居場所があります。また、全く知らない人と出会いやコミュニケーションの場として活用できてます。

明日は、TVの収録はどうやってやるのかを見る機会でもあります。勉強になりますねえ！！

2004.9.15

体力は確実に衰えているが、精神状態はあまり変わらない。ここが人間の困るところである。肉体と共に精神が動いていれば、そんなに困る事も無かろうに。ギャップがあり、全ての個体が違う速度で並行して走っているのだから困ったもんだ

2004.9.10

時間を意識しているうちはいいのですが、ふと気がつくと過ぎてしまうもの、無くしてしまうものがあります。忘却とは忘れ去ること哉。という言葉があります。自分でも意識していないもの、それが自分でしょうけど、その中にはもう思い出せないくらいの経験と時間があるのでしょうか。例えば、一人のテニスマンが育つためには一体いくらの潜在人数がいるのでしょうか。僕の例で言えば、中学25名で1名、高校で50名で2名、大学では50名で1名、実に1/100です。彼らのテニス全て体の中に入っています。でももはや思い出す事はできません。

2004.9.6

一昨日から、まだ全日本モードが取れていません。しかしこれではイカンとトレーニングに行き始めました。意志が弱い人間ですから、叩きながらやるしかありません。昨日の帰りの新幹線でも、皆反省しきりでした。後一本で賞状だったり、思わぬ収穫があったりとかです。本日、栄原さんから頂いたメールには、大会前まで絶好調だったのに、試合は絶不調、いやーテニスは難しい。とありました。偉大な名選手でもこうなのだ。私にとっては栄原さんは神様のような人ですが、少しホットしたりもします。自分を見失ってはいけないと思います。しかしソフトテニスは平均20-30分、長くて1時間足らずです。この中で自分をいつもコントロールするのは難しい。ながれ、風、ムード。人はいろんな表現をしますが、全ては自分の心と体の勢いの問題です。相手より勢いがなければ、押されます。へたくそでも、フォームは汚くても、ボールを前に押しだそうと言う気概があり、ねじ込むだけの力があれば、少くも技術があっても気の小さいか、弱いチームには勝ってしまうものですね。

何度もその経験をしました。中学の頃から、そんな学校がありました。そんなヘアがありました。半分軽蔑しながら、半分は、いや90%くらい恐れていました。というより、すでに負けていたのでしょうか。

大人になった今でも、このヘア嫌だね、と思った瞬間に、負けているのです。

今回、全日本シニアで、真鍋・浜田組の下にいました。・・・いやだな。と思ったとき僕には勝ちがなかったのでしょうか。いつもはどんな強い相手でも、よーし！と思うのに、今回はなぜかそういう弱気がありました。後で吹田の津村さんに「なにしとんよ。」といわれ「いや、真鍋とこで・・・」と言いつつ「そんな事わかってたけど、あんたところが負けるとは思わなかった。」と言われ、なるほどそうなのだとおぼえてしまいました。負けたい訳は考えていても、勝つためにどうするかを考えてはなかった。一回戦は、細川・外間さんで、僕の後衛小早川君とも初ヘアであったので、ギャラリーが多く、おそらくその中に、真鍋・浜田もいたのでしょうか。彼らもきっと小早川氏のストロークの鋭さに脅威を感じたと思います。フルスロトルで入ってきました。気合いを十分入れてきた彼らと、昔の名前に脅えていた僕とではすでに勝負はあったのです。ここが今回の収穫でした。

次は、がんばりますよ。相手が真鍋選手ではなくとも、同じことです。

2004.9.5

一昨日から博多で全日本シニア、昨日から千葉で全日本社会人選手権が開催されています。当協会からもシニア50には4名の選手が参加しました。その中で、**高橋・東山組が見事に3位に入賞**してくれました。おめでとう、長年のヘアがやっと報われたなあという気がします。高校からのヘアでもう・・・長いですねえ。彼らは、何も言わなくてもこう動く、こうすればいいというものをもつて持っています。それは見ていて安心感のあるものです。これからは追っかけられる立場です。全日本3位の実績とプライドに掛けて更なる成長を遂げてください。それが僕らの活力です。僕も負けないように、新しいヘアと全日本を取るよう努力していくつもりです。八尾市ソフトテニス協会、がんばろうぜ！！

僕は今回初めてミックス大会にエントリーしました。ヘアの方は九州行橋レディース 前田さんです。当日初めてお会いして組んだのですが、なかなか素晴らしいストロークの持ち主でした。配球も素晴らしい。改めてテニスはスピードだけではない色々な要素があるのだと感じたものです。ベスト4がけで元チャンピオンの鶴王・細野組にファイナルで負けてしまいました。3-2 1-0のリードの次の1本がポイント欲しがりすぎたためでしょうね。欲を出してはいけない、チャンスがあるまでは。また一つ勉強になりました。

しかし、これからはミックスダブルスも盛んになっていくのではないかなと感じる初めての参加感想でした。前田さんありがとうございました。

2004.8.30

昨日は、高槻市で大阪府の総合体育大会が開催されました。毎年、7月に予選をやり、8月の最終日曜日に本選があります。市対抗のいろいろな大会の中で、この大会は私たちの協会にとって最も大切な試合です。それは、市のクラブとして他の市内のクラブへのアピールもありますし、市の体育連盟へのソフトテニス協会の発言力にもかかわってきます。男子はこれでこ5年で3位が3回、負けたときもBest8と安定した力を発揮しています。女子は、今年はBest8となりました。中村葉志子さんがシニアで出られるようになりました。これも大きなことです。一般女子もめきめき力がついて、2チームが安定してきました。後一歩です。来年の脱皮を期待しています。

団体戦は、本当にクラブの力やチームワークを反映するものです。八尾市のソフトテニス協会は他市のどのクラブにもない発展を遂げようとしています。同時に難しい面を持っています。それは人です。テニスが好きで、このクラブが好きで、お客さんでなくて自分の家のように思っていてくれる人がもつて欲しいです。その中で、役割分担ができるでしょう。指導をする人、仕切る人、買い物なんかマネージャーを主にする人、記録をこまめに取る人、手足となってなんでもする人・・・そんな人の有機体ですね、こういった趣味のクラブは。

昨日、一昨日と2カ所で開催された大会と総体がありました。池島高校 田中先生、大塚高校 小岸先生には本当にお世話になりました。あんなに熱心にテニスや子供の事を世話する先生がいる事で、まだまだ日本の教育も捨てたモンではないと思います。人間世界は馬鹿みたいに集中して好きな事をやる人がいなければ、何事もうまくいかないでしょうね。また、分担して生徒の世話と指導、大会の応援に来てくれた仲間達には感謝しています。それがチームワークでしょう、それが信頼感でしょう。また次の試合に、次の行事に楽しく参加して行きましょう。

2004.8.28

今日で、高宮選手との話を最後にしたいと思います。

明日は彼の49日です。次の世界での始まりです。お祝いをしてやりましょう。

同時に、僕の旅立ちでもあります。

僕がこの話を書いているのは決して思いでを書きつづっているのではありません。僕と高宮が知り合って、何を求めてどんな風にテニスに取り組み、何を大切に、何を成し遂げようとしてきたのかを書いたつもりです。それが、ソフトテニスを愛してやまなかった高宮と僕の生き様でした。

道半ばにして、必ず人は逝くものです。全ての人は、自分の思ったとおりには生きられる事はありません。なぜなら、人には限りない欲望があります。一つ満たされれば、すぐさま次のものが頭を持ち上げます。しかし、それが人間です。

でも、最後まで、その時々目標を追求した彼を僕は大好きでしたし、尊敬していましたし、そんな素晴らしい友を持った事を何よりも誇りに思います。

彼と育ててきたものが自分の中に息づいています。僕が生き続ける限り、彼は僕と共に行くのです。

僕は、これからまた新しい旅に出ます。

彼が好きだった「明日があるさ」は僕の好きな歌でもあります。八尾のHPの最初のテーマソングがこれでした。明日は何があるか解りませんが、何があってもそれはいい事なんだと思って、彼のようにプラス指向で行くつもりです。

明日は新しい自分になろう！今日の自分を少しだけ乗り越えた姿になって！！

2004.8.26

高宮選手との話 X(その後)

こうして、彼とのテニスで過ごした日々を思い出し、長々と書きつづってきましたがどうやら終わりに近づきました。それからの彼は、5月いっぱい自宅いろいろな片づけをやったようです。ちかこさんとのやりとりも多くなってゆきます。5月はシーズンに入った八尾市でも大会が多く、忙殺されてゆきました。4月の試合の余韻があり、大丈夫じゃないだろうか？と、離れていると思うようにさえなるほど錯覚がありました。ただ、5月に入り、高宮から電話がありました。「いっちゃん、今度の西日本はちょっと無理みたいじゃ・・・、誰かおつたらさがしてくれんか？」さすがに、ちょっと動揺しましたが、いいよ、ゆっくり休め、先は長い・・・としか答えられませんでした。6月に入り父の49日がありました。前日大阪から帰り、高宮家を訪ねました。高宮は本当にこの一ヶ月で変わってしまいました。体からもスポーツマンのにおいが消え、ずいぶんと痩せました。でも僕の前では、決して弱みは見せません・・・だじょうぶ、だじょうぶ・・・その日は、ちかこさんは志房くんの試合の応援に出かけていました。高宮は実にゆっくりと動きましたが、気分は良さそうでした。コーヒーなど入れてくれ、悪いなというと、「いんにゃ、何ゆーとるかい！」と笑い飛ばしました。僕は安心したものです。そのうち、ちかこさんも帰ってきました。いろいろと治療を試みてる事、でもいい治療が無く、もうコバルトの照射はやめてみる事、医者いろいろな治療よりも進行が早く追いつかないので自己免疫力を高めて治療するしかない事などを教えてくれました。二人は気丈に話してくれます。でも、それは僕には辛い事でした。

この時僕は決心しました。これから僕たちの本当の戦いかも知れないと。彼とどれだけ一緒にいられるかはわからないけど、僕の時間をできる限り彼と使おう。試合のあるときはダメでしたが、それ以外は津山に行き、また帰る、それが習慣のようになっていきます。6月半ば、とうとう入院しました。帰るたびに彼は衰弱してゆきました。歩けなくなり、支えが必要となりました。6月末には声があまりでなくなりました。僕はいろいろな人に会わせてあげたいと思いました。ちかこさんも同じだったでしょう。でも、体力のなさ、気疲れから、彼は静かにする事を選びました。僕はそばにいた方が良かったのでしょうかと少し気遣いながら彼のそばにいました。彼とは話してもそんなにできるわけではありません。手を握り、じっとしているだけです。でも、彼のぬくもりや力を入れて・・・こんなに力があるぞ・・・とアピールする彼にただ笑って、がんばれ、と心の中で言うだけです。西日本大会では皆さんに同じことを聞かれ、同じように答えました。でも、組んで頂いた友田さんには悪かったと反省しています。心のないテニスをしてしまいました。高宮も頑張っているから、僕もその分テニスはしっかりやらなければ・・・と思いましたが、映画の世界ではありません。弱いものです。

7/13の朝、ちかこさんから・・どうも今日は・・というメールが入りました。ざわりと心がゆらぎました。その日は3時から会議でした。しかし、とてもその後では無理だと感じ、休暇を取り昼から津山に向かいました。14:30に病院に着。すでに呼吸が大きく、父の再現を見るようでした。15:30すこし容態が安定しました。ちょうど泉水ちゃんと二人で見えていました。泉水ちゃんが、「お父さん、高原さんよ」と言ってくれました。横に座り、手を握りゆっくりと顔を近づけました。その時目を開けて、僕の方を見ました。薬で黄色くなっていましたが、僕の事がわかったと思います。瞳がふうっとながれました。かすかに微笑んだように見えます、表情の無かった今までとは違いました。気のせいか、ほんの小さく握った手に力を感じました。そして瞳が言いました。・・だじょうぶ だじょうぶ・・僕は うん、うん・・とうなずき、ぐっと手に力を込めました。痛い！と言って欲しかったかと期待もしながら。後でこの話をちかこさんにしましたが、不思議そうに聞いてくれました。もしかしたら最後に彼と話をしたのは、僕だったのかも知れません。

17:30病室の外にいた僕たちが呼ばれました。ちかこさんや子どもたちの願い、祈りにも似た魂の叫びを僕は聞きました。自然に涙が出ました、止まりません。声が出ました、止まりません。何か声をかけて・・とちかこさんが言います。何を言えがいいのでしょうか、なんて言いたいか、それは決まっています、「帰ってこい！ ばかやろう！」です。でも、『ありがとう・・今までありがとう！』としか言えませんでした。

18:05 彼は静かに旅立ってゆきました。

2004.8.19-25

高宮選手との話 Ⅹ(最後の試合)

4/21僕の父が他界しました。いろいろな人生の中でこのような重大事が続いて起きるのは何か自分に対する警告とか・・なのでしょうか？運命めいた事はあまり考えないようにしてはいます。今はいい事も悪い事も素直に受け止められるようになってはいます。それはそれ以外に出来ない、そうするしか方法はないと悟ったからなのでしょうか？まだわかりませんが・・。しかし、僕は父の死の後に高宮と約束した若水杯が控えている事を真摯に受け止めていました。その日は4/29です。父には悪かったのですが、出来ればその日は避けてくれよ・・と心の中で叫んでいました。どちらも比べる事の出来ない大切なものです。どちらも悔いの無いように接したいと願っていました。もしも高宮との約束が守れなければ、僕も彼もきっと悔やみきれなかったでしょう。しかし僕の父は最後まで僕を愛してくれました。僕の望みをきくと解ってくれたのでしょうか。本当に親不孝な息子だとは思いますが、父の通夜にも、葬儀にも彼は出席してくれました。その時の明るく気を落とさないようにと励ましてくれた彼を、僕の親戚家族は何も知らずに迎えました。いい友達を持ってるな、と叔父はいいました。もちろんさと答えましたが、良すぎて困るんだよ・・とも。

4/28に、僕は奥さんと長女の朝水(あさみ)さんにmailを送りました。一明日はどんな事があっても見に来て欲しいと。僕の思いをきくと解って頂けたのでしょうか、また彼女たちは言われなくてもそうしていたのだと思います。もう僕たちの戦いは共同戦線に入っていました。

その日は朝いつものように、瀬戸自動車道のパーキングで待ち合わせ、ゆっくりと車を走らせました。去年は近道をしようと、山道に入り、五色台の方まで行ってしまった事なんかを自然に思い出してしまいました。今年はナビがついていたのでそんな事ありません、なんて早くついたんだと笑ったものです。

行ってみてビックリです、いつもは3チームの予選リーグでしたが、今年は4チームのリーグ戦でした。3試合をこなさなければなりません。高宮は「きょーとお、えらいのぉ！」と言いました。いけるいける！と言ったのですが、「お前、こんなに勝てるモンかぁー」と弱気を大きな声で言ったのでした。いつものにぎやかさだ・・と周りの皆思ったでしょう。その時は一体彼がどんなテニスができるのかも想像できていませんでしたから。

試合が始まりました。最初は綱島・小森組でした。大阪のチャンピオンであり、近畿でもbest4に顔を出している相手です。大阪の我々の同期ペアでもあります。厳しい相手だなと覚悟をしていました。しかし、敵は彼らでは無かったです。もはや、高宮の中にいる悪魔との戦いになっていました。一球打つ事に息が乱れます、息づかいが聞こえてきます。いつものペースで試合に入った僕は、彼のペースがつかめません。どこで動けばいいのか、どう守ればいいのか、どうしてやればいいのか・・。またどのタイミングで試合に入っていけばいいのでしょうか？それは今まで経験した事のない彼との戦いでした。僕自身も彼の戦い方と摩擦があったのです。

ポイントが終わる毎に、勝っているときはリズムを崩さないように、早くポジションに着くようにしていました。後衛は微妙です。流れが全てを決すと言っていいでしょう。昨日、アテネのオリンピックで井上康生選手が負けました。それ以外にNo.1と言われている選手も負けている姿を多く目にしました。井上選手は平常心がなく、勝ちに重点を置いた戦い方でした。どうすれば勝てるではなく、勝つにはこれしかないという単視眼的な動きに見えました。勝てば余裕がでます。いつもと同じように多角的に見る事が出来、筋肉もほどよくゆるみ、変化に順応できます。練習通りにやれば皆大概の選手はチャンピオンでしょう。それが大舞台で発揮できる事、勝者の条件ですね。テニスの場合は、前衛も後衛もミスが全てを決します。最初のミスは致命的ですね。でも、それがあって初めて勝負事でしょう。心技体を極めて勝者です。今回負けた人たちの、敗者復活戦の試合を見て、これはまだチャンピオンではないなと思いました。修行が必要ですね。

高宮は、よほどその時苦しかったのでしょうか、「そねーに早よー、ネットにつくな！！」と叫びました。「ワシが追いつかん・・頼むケン・・ ゆっくりな・・！」僕は、それでも自分のリズムを調整しきれず、1試合目は前の敵に意識はありませんでした。また、そんなに苦しい試合をさせて良いのか、こんな姿を家族に見させて良かったのか？自分でも混乱していたのでした。あっけなく1-④で負けてしまいました。もう少しリズムを自分たちのものにしていたらもう少しゲームを取れたでしょうに。

次は末元・斉藤組(香川・愛媛)の選手です。彼らは事情を全く知りません。0-④で負けました。これが本当の勝負だと思いません。実力的には、他の2ペアの方が上だと思いますが、少し遠慮しながらやってくれているのと、勝つために全てを出す彼らとは違いがありました。ただこの時は僕も少しペースがわかってきましたが、逆に何かしてやらねばいけないという焦り、気負いの方が強く、ポイントを取りながらミスが多く、結局負けてしまったなという展開でした。少し苦笑して、「なんでも取りにでるんじゃなァ！？」と言ったのです。いつもと同じテニスにしなければ、彼も満足が出来ないし、悔いが残る・・でもいつもと同じにすれば、彼の体力が持たないので力負けをする・・いつ出よう？！・・このジレンマで僕は悩みました。そう、高宮・高原のこれからのテニスはこうしなければいけないのだという形を考えねばならない・・それが後一つの試合への課題でした。時刻は過ぎてゆきます。しかし、ベンチで待っている彼はしんどそうですが、またそれだけではなく必死に回復に努めています。ちかこさんも朝水さんも一生懸命サポートをしています。次女の泉水(いずみ)さんとは結構話をする機会があったのですが、彼女とはホントに今回、ゆっくり話が出来たなと

劣勢という事は無かったのですが、この試合ではボールが随分近くから飛んできると印象でした。それだけボールが行ってなかったのでしょう。ただ、まだ試合中はそれほど苦しいという感じはありませんでした。でもこの試合の後、肝臓に直接薬物を入れるための小さな小箱を体内に埋め込む手術をしました。不安が急に広がりました。4/5の青年会の合宿はごちじんまりとした内輪の合宿となりました。そして彼の参加した最後の…。八尾からは徳原 堀内父娘が参加しました。夜は高宮の新ルールの講義があり、盛り上がりました。良く把握していない我々は、いつも彼から叱られたものです。何とか春からの大会もやって行けるなぁと皆うなずいてお開きとなりました。いつものように雨が降り、2日目は出来ないかなと思われましたが、執念ですね、9時過ぎ雨も上がりました。コート横の桜がとても綺麗でした。沢山の試合をしましたが、高宮と組んでやる事は出来ませんでした。手術の後でもありましたが、それでも女性や子どもたちと楽しんでテニスをしてました。この日は闘争心をむき出しにした彼とはひと味違っていました。

4月に入り、第2土曜日は北村全国大会です。この大会は大阪での試合はじめと皆位置づけている大会です。いつもは僕の家に泊まり、楽しく話してから試合に行きます。何年か前は、金曜日に僕の会社の飲み会で20名ばかりの輪の中に、のっそりしかしにぎやかに入ってきました。あつという間にとけ込んで、人命救助や消防のエピソードを岡山弁で話し出し、楽しかったものです。その大会に「ちょっと、今回パスさせてくれるか…」と電話がありました。それはそうでしょう。疲れたんだろう、ゆっくり休んだ方がいい…といいましたが「すまんのお、若水杯までには必ず治しておくから、許してくれよ」と本当にすまなさそうに言うのでした。僕は いいよ、いいよ というだけしかできません。

4/17(土)練習にいったコートの駐車場で奥さんのちかこさんの電話を受けました。その瞬間、体に緊張が走りました。何か、変化があったのだろうか？ …今日、岡山の病院に行ってみた事、最初の手術の時に実はリンパに転移があった事、治療法は今行っている方法以外に他にはない事…。でもホントに知っておかなくてはいけない事はそれらではありませんでした。僕は、勇気を出して聞きました。「あと…」 「…よくは解りません…」とにかく今の治療が最良だという事です …それは彼にとって病状が非常に厳しい状況であることを意味しています。その後、何を話したのでしょうか…。何も頭に残っていません。急激に頭が混乱して、世の中が遠くにかすんでいきました。知りたかったことでしたが、聞きたくなかった事でした。電話の音が、ホントに遠くになっていきました。電話を切った後、車中に静寂がありました。静かに涙があふれました。声が出ました。その瞬間、誰が見ていても恥ずかしくはなかった、そんな事を考えている余裕はなかったのです。

2004.8.9

高宮選手との話 VII(シアになって変わった事2)

高宮が手術をして100日経ちました。毎年九州で合宿が行われます。この合宿は佐賀県小城クラブの栄原さんが発起人で中心となり、小城のテニスコートで開催されます。最初は、広島瀬尾さんから誘いがありました。2002年の事です。その年は津山峰南クラブの25周年の事業があり、合宿当日に式とイベントが行われました。高宮は副会長という立場でもあり、合宿に行きたかったでしょうが津山に残りました。私は佐賀まで電車で行き、そこから広島メンバーと合流しました。最初は雨でしたが、練習をしてまた色々な人と知り合いになりました。最初の日は、熊本松村さんとやらせて頂きました。松村さんの運動量の多さとバネに舌を巻きました。それから小城温泉で湯につかり、地元小城クラブの暖かい歓迎を受けました。その時、地元の方々や九州沖縄から集まった名選手達と美味しいお酒で夜が更けていきました。次の日は、夜降った雨の影響でコート整備から始めました。小城のコートは6面のきれいな土のコートです。会員も数百人と聞き誠に羨ましい環境だと感じ入りました。大阪では望むべくもないことです。そこで初めて若い大分の佐藤君とペアを組みました。彼のストロークを見てとても素晴らしいと感じました。実際組んでみて、動きやすいコースにボールが飛びます。また、フォアで打ってくればその打球力には素晴らしいものを感じていました。実際4勝1敗でなかなか良い結果だったと満足しています。彼とは何処かで本番の試合で組んでみたいものです。そこでは鹿児島島の谷本・今吉組、川浪、細川、林、大穂、桜木、佐藤、迫田さん達と知り合いとなりまた一つ輪が広がりました。中でも小城の栄原さんと北九州の松田さんには大変お世話になっています。栄原さんは言わずと知れた大選手でまたそのテニスは魅力のあるものです。あの高校生のような足の筋肉、柔らかさ、振りの鋭さ、足の速さどれをとっても一級品です。最初に拝見したときは信じられない思いで一杯でした。その栄原さんに「いつも見えていますよ。」と言われましたが、社交辞令と思ったものです。しかし、その後話をする度本当に見て頂いているのだという話が結構あり感激したものです。ただ、やはり高宮のテニスを見て頂いたのでと思います。彼が亡くなったときの弔辞のメールは「彼はいつか全日本を取って思っていました」と締めくくってありました。そうです、僕も信じていました。高宮は全日本チャンピオンにきつと成る人なのだと。そういう気持ちにさせるやつ、そういう夢を現実へ引き寄せるやつでした。

2003年は手術の後でしたが、岡山合宿で自信がついたのか「九州に行ってみようかのお」と言い出しました。僕は嬉しくなって「今年から毎年行く」と言ったものです。その年は台風の影響で、小城のコートが使えず、北九州のコートで合宿しました。2回目の僕は余裕がありました。懇親会では高宮は酒は飲めずちょっと可哀想でした。でもあの性格で周囲の人を本当に魅了していました。大きな笑い声と明るい声が響いていました。

次の日の練習は、年齢別の試合形式で行われました。僕たちは安達・直原 細川・外間 今吉さんと試合をしました。細川さんの試合は高宮の復活を十分に期待させるものでした。強烈なサーブ、破壊的なトップうち、どれをとっても傍目には復活だと思えたでしょう。ただ、安達・直原さんと話を、「やっぱり球が来ないなぁ…」と言われました。僕も組んでいて、まだ走ってないなという感じはかなりありました。他の人には分からなくても僕には良く分かりました。でも今は仕方がないと思っていました、その時は。

しかし、そこで僕は彼から「いっちゃん…ちょっと転移があったんで、この間から薬を変えた。これでちょっと調子が悪いンよ」と告げられたのでした。ことの重大さを僕はすぐに理解しました。時にTVでは「白い巨塔」をやりました。総集編の最後に、再発した患者に告知する場面があります。そこを見ていた僕は、高宮！それはないだろ…と内心叫んでいました。

さて、昨年はアジア大会が広島で開催されたため、広島オープンが12月半ばに延期となりました。切が早く、その時は高宮も試合に出れる自信はなかったので、客坂選手とエントリーしました。結果は3位でした。次の日、海田町でシアの合同練習会が行われました。高宮は岡山からはるばる来てくれました。皆、彼の打球力と回復力に舌を巻いたものです。4試合を戦い、

2勝1敗1分けでした。

最終戦は島根の森脇・松本でした。ファイナルの3-3で時間切れ引き分け。この試合が、僕の記憶では、手術後回復したピークの試合でした。それからは、少しずつ体力が落ちていくのが目に見えてわかって来るのでした。

ここでは僕も信じたくない気持ちで一杯でしたが、何となく、忍び寄ってくるものを感じました。

僕も知り合いになった医者の方に相談もしました。その方は、私の観察からほぼ正確に彼の寿命を予測しました。彼の診断は正しかったのです。それから何度も私は彼に私の観察を告げました。彼はその度に実に冷静に客観的な判断を下しました。おかげで私は高宮との最後の半年を充実して過ごす事が出来ました。本当に先生には感謝しております。

2004.8.2

高宮選手との話 VI(シニアになって変わった事)

一般選手の間は全体での仲間意識というものは割と少ないものです。試合に行っても同じクラブや近くの仲間とは仲が良いのですが、違った県や年齢の違う相手には言葉をたやすく掛けたりしないものです。僕たちもそうでした。ですが、年齢が上がるとテニスをする仲間が絶対的に減ってきます。成年になったとき、大阪府で一体どれだけの人がプレーをするのでしょうか？一般は18から35までです。大阪で僕が始めた頃、技術等級はなく200チームで選手権を争ったものでした。技術等級制度が出来て一挙に100チームくらいになりました。今は多くても60チームくらいでしょうか？そのまま皆がやったとして1年間に4-6ペアが成年に来て良いはずですが、しかし、現実には2-3ペアも上がった年は良い方ではないでしょうか？一緒に成年に上がったものは非常に仲間意識があり、また仲良くなります。僕たちも成年になり、大阪では皆楽しくやっていたものです。更にシニアになると、やる人間に限られてくる事と技術の差が縮まってくるのかどんなかつての名選手でも勝てるとは限らなくなります。ですから、テニスが殆ど同一視線で見れるようになり、話も弾みます。全国大会が身近に感じられ、そこには必ず毎年行きたいと思うのは好きなテニスと、仲間達がいるからなのでしょう。

高宮は本当に偉いと思う事が多くありますが、最も大きな事は、あの津山の地で良くあのレベルを保っていられるなという事です。決して誤解の無いようにして頂きたいのです。津山がテニスのレベルが低いといっているのではありません。高宮にしてみればいつも時間のあるときは思いっきり打ちたいでしょうし、試合もたくさんしたいでしょう。僕たちは大阪にいて、少し足を伸ばせばどこにでもテニス仲間がいるという環境ではありません。しかし、絶対的なシニアの人口の少ない土地でテニスの技術だけでなく、継続する心の強さを持ち続ける事は並大抵の努力では出来ません。本当に頭が下がるものでした。

シニアになって、長崎の表彰式で谷尾・高田以外は名前はよく知っている名選手、袴田・管野、鶴王・仲川ペアでした。それまでは顔も覚えて頂けない我々に皆さん暖かく声を掛けて頂きました。鶴王・仲川さんはそれからずっと試合に行くたびに我々のテントに足を運んでくれました。高宮選手はとてもキャンプが好きで、まずモノを沢山持って来ます。試合に行くたびに、テントをつくるころから大騒ぎです。しかし、そこにどんだん人が集まってきてなんだかんだ言ってるうちにテントといふ、シート、テーブル何でもできてきます。そのうちパーベキューでも始まるんじゃないだろうかと思うくらいですが、暑い夏に、彼と一緒にいったおかげで、快適に過ごせたものでした。名物は新開・増本ペアでしょう。新開は茫洋とした風貌でしかし、型破りのテニスをします。足は左にボールは右に。しかも前衛にぶつつける速さは半端じゃないです。前衛の増本さんは、頭がクリクリのスキンヘッドですが、ずんぐりとした風格で武田信玄のような貫禄です。誰もがきっとアブナイ人だと思うでしょう。しかし、この人に良く似た人を僕は知っています。僕が大阪女子短大高校でコーチをしていたときの顧問の中橋先生と双子かと思うほどよく似ています。そして、言う事もやる事も。きっとお二人ともいつの時か達観された時があったのでしょう。どちらも憎めない、素晴らしい人たちです。このペアが吉野・東組にめっぽう強いのです。殆どゲームを落とさず勝ちます。相性なんですか？吉野さんはまるで心を読まれているかのように、何本でもホレーを取られるのです。まるで増本さんの行くところに吸い寄せられるように打っているようです。その吉野さんは、僕たちにはめっぽう強く子供扱いです。僕たちはしかし、新開・増本には負けた事はありません。面白いものです。高宮は中国地方で活動しています。ですから僕も自然と、そちらの試合に多く出るようになりました。中国地方は、良い選手が多く激戦です。鳥取には、荻原・竜子前田・福田 野崎・田中がいます。島根は森脇・松本 山口は宮本・浜田 真鍋・渡壁 広島には安達・直原 佐々木・栗尾 宮本・玉井 瀬尾 松岡・高橋 片岡・木原 男座・川本 仁方越 升村・藤本 地元岡山には岩崎・津島 倉田・青木 土本・小松原 宮崎・芳上 福島・神山各名ペアが揃っていました。これらの方々には昔でしたら、口も聞いて頂けないものでしたが、高宮君と組み連戦を重ねるうちに、自然とテニスや趣味や希望や将来についての考え方を知る事が出来るようになりました。

特に、シニアになってから素晴らしいと思うのは、組織だつてこの愛するソフトテニスを発展させていこうという気概を一段と強く感じるものです。僕が最初にシニアの合宿に参加したのは、岡山で春秋2回行われてます「青年会合宿」です。これは高宮君が発起人で岡山のシニア、成年を中心に親睦を深め技術の向上を行おうというものです。前にも書きましたが、岡山の東西南北に渉る閉鎖性を取り除き県を一つにという高宮君の希望、悲願ともいえるものでした。

土曜日の昼間に集合し、半日はみっちり練習です。練習試合もしなくてただひたすら基本を繰り返します。夜には親睦会があり、昼間のビデオを見ながら技術検討会が始まります。また各地から集まったメンバーの紹介と和やかに会は進みます。そこで、僕の中学の後輩である青山君(ジャパンエナジー)が「みんな、この合宿を将来は100人集めてやりたいですね！」と言ったのが始まりでしたが、そつだ、こんな素晴らしい合宿を本当に沢山の人が集まって、2日間テニス漬けになるのも良いじゃないか！！という事になったのです。最初は、岡山のメンバーで始めた合宿でした。まず最初に大阪の八尾のメンバーが参加しました。毎年5-6人ですが一度来た人は楽しみにしています。次に、技術アップを図ろうという事で安達・直原さんに声をおかけしたところ快く参加頂きました。これも高宮君の技術と人柄によるものと今では本当に感謝しています。安達さん・直原さんに最初のご参加いただいた時、お二人のテニスの歴史や組むようになったきっかけ、日頃考えている事や、ペアとして最も信頼している事や、どういう考えでテニスをやっているかをお聞きしました。お二人とも酒はダメで、おそらくその時お話しいただいたことは全て真実であったと思うものです。簡単に言えば、ペアとしての信頼感や分担の割り振り、どうすれば勝てるかをいつも考えていらっしゃる。技術もさることながら人としての魅力に僕たちは感心すると同時に圧倒されてしまいました。その時同席した20名くらいの参加者は本当に素晴らしい時間を共有したと思うものです。

高宮と、その後しばらくして2人で固く決意をしました。「僕たちは、終生の目標を安達・直原さんとしようと、彼らを乗り越えるように努力をしよう！」と。高宮がいなくなった今も、僕は彼との誓いを守ります。終生彼らを乗り越えられるペアになるよう努力してくれる後衛を望みます。どなたか私と共にゴールまで目指してくれる方はいませんか？！

次に直原さんが会長である広島交友会のメンバー達に参加頂きました。最初は大雨の日でして、本当に申し訳ないくらいでした。次から、モンゴル片岡さんは常連となりました。2002年の事、安達さんから「2003年は鳥取からカニ、広島からカキ、大阪からたこ焼き？岡山から特上牛肉でパーティをしよう」と提案があり、ちょっと人を沢山集めてやろうという事になりました。2003年の8/11は高宮が手術をして秋11/23には、間に合わないかな？と本人は言っていました。しかし、彼はこの合宿に参加する事を目標に本当に頑張ってリハビリをしました。それが突って、合宿ではみんなと練習試合が出来るまでに回復していました。しかし、不安だったのでしょうか？彼は僕とペアを組まず、コートに隅っこでひっそりと試合をしていました。彼の僕に対しての強がり、不安感の表れだったのでしょうか。僕はそれより、一緒に回復を喜び合いたかったのですが・・・とにかく60名の合宿となりました。本当に皆さんの練習を見ていると壮観でした。

それからの彼の回復は凄まじかったです。これが8月に胃を切った人間かと思えるほどでした。僕もその時点では安心していました。これで来年は復帰できる！僕たちは、また夢に向かって前進できるのだと。

2004.7.30

ずっと高宮選手との話を書いてきました。でも最近では何か空しさが増大します。思い出って良いものですけど。でも書く事があいつへの僕の思いだと・・・つまりは自己満足かも知れません。

2004.7.26

高宮選手の話Ⅴ(シニア45から)

長崎から帰る船の中で、一緒に来た人たちがお祝いしてくれました。疲れていましたが、船室で麦酒を飲み、今日の話に花が咲きました。いつもは輪の外側で見ているのに、今日は中心にいるのがなんだか不思議な気がしました。東さんはこのほか喜んでくれました。しかし、良い事ばかりありません。デッキに風に吹かれにでましたが、風が強くて冬の到来を感じました。鉄製のドアに左指を挟み粗皮が剥けました。痛くて、そして「行きでなくて良かったな・・・」と思ったものでした。幸せばかりではないぞ・・・という教訓でした。

長崎から帰ると何か自分の周りの空気が違っているのが感じられました。高宮もそうだったようです。おめでと！全国3位・・・というたった一度の結果がこんなにも皆さんに影響を与えるのだと思いました。大阪では谷尾・高田が優勝したので、私は比較的ジミでしたが、岡山では大変だったようです。しかし、この時はまだまだ自分たちにやってきた財産の大きさには気づいていませんでした。

その年の正月、津山に出向いて行きました。11月の終わりに大会があったのでまだまだ余韻がありました。ささやかに2人でお祝いをしました。その時、初めて僕は「高宮、僕はこの大会の前にお前と優勝する夢を見たんだよ」と話しました。「ホントか？！それは。」彼は目をでっかく開き口をすぼめて「どえらい夢を見るのー」と嬉しそうに言いました。「正夢でよかったなあ・・・」とも。とにかく、ペアを組んでいこうとの事になり、希望に満ちた1年が始まりました。その次の年はしかし成績はでませんでした。10試合に参加して3位が1回のみ。神戸山手全国大会で4掛けで新開・増本に勝ち3位に入りました。次の相手は鶴王・仲川さんです。こんなにも早く対戦が実現したかと思ひ、コートに出ました。ラリーを始めたとき、足に異変がありました。股関節が急にだるくなり、おかしいなと思っていると足に痙攣が始まりました。初めての経験でした。ツルのは高宮の専売特許で僕は「練習不足だよ！！」とからかったものです。でも、ホントに死ぬかと思うくらいに痛くどうする事も出来ません。増本さんが必死に手当してくれました。やっと痙攣がおさまり、試合続行をしようとしたのですが、ダメでした。「高宮、すまん、棄権でいいか？」「おう、試合はいっぱいあるぞ。いい、いい」と。残念ながら初めての棄権でした。鶴王・仲川さんは「残念！！また今度」となりました。その後、簡単に優勝をされました。仲川さんに次にあったとき、「いやあ、棄権有り難う！！」と言われ「クソー!!」高宮と悔しがったモンです。どこに行ってもbest8 本当に何か手応えがあるのだけど、勝ちきれない感じです。歯がゆく思っていました。まだ単調でした。何かがかけていました。

ただ、その年の冬に恒例のように正月にテニス談義で盛り上がるのですが、「ちょっと、勝ちを欲しがりすぎたかなー？」とお互い思っていました。勝ちたい勝ちたいではダメで、どうやって勝っていこうかを考えていませんでした。高宮は言いました。「ワッ等、所詮田舎のテニス、エエカッコしてもダメじゃな。一人で勝とおってそりゃ無理だわ。これからの相手は、今まで何処かで優勝してきた人たちばかりじゃけん何とか2人で勝っていこう！」そうです、その通り、高宮のあのテニス・・・激しくも引く事を知らないテニスからは出てきそうにない言葉でした。彼も変わろうとしている、僕は何をすればいいのだろう。それが大きなペアとしての転機でした。僕は、うちのペアは何が一番素晴らしいんだろうと考えました。そんな事分かり切ってます。高宮のサービスとストロークの強さは日本中の4本の指にはいるでしょう。

しかしバックはまあ人並みです。それでは戦い方として、彼にフォアで気持ちよく打たせてやればいんだな、というのが一番。センターを割られなければいんだなというのが2番。逆クロスと正ストレートのロブを追っかければいんだなというのが3番。レシーブ側では、高宮が勝負できるように自分のレシーブはミスしない、センター中心に攻めていきポイントするという事を実践してみようと思いました。昨年までの国際ルールでは前衛が後ろにいましたので、レシーブはどこにでも打てました。ネットミスさえしなければいいのですから。我々には有利なルールでした。

クロスのポイントが欲しがらねば余裕が出来ました。サイド側も逆に誘う事も出来ます。高宮はフォアで自分のリズムで打てるようになりました。すると途中で1本ロブを入れる事が出来るようになりました。非常に試合に幅が出たように感じました。リセットボタンが押せるのですから。一方的に負けるか勝つかのテニスから、先行されても追いつきひっくり返せる、あるいは一度追いつかれても突き放せるようになっていったと思います。毎年3月第2日曜日に備前でとり杯があります。2年目の春に初優勝しました。決勝は広島の佐々木選手でした。この時初めて、笹埜さんと試合をさせて頂きました。素晴らしいバネとストローク やらせていただいたことが嬉しかったのでした。高宮とやっと勝てたと喜びました。この平成12年は我々のペアとしては最も成績の良かった年です。次の四国の「若水杯」では準優勝、決勝待ちの間に足が痙攣しました。この時も増本さんと初代さんの魔法の薬で筋肉が回復してどうやらテニスが出来ましたがコートに立つのがやっとでした。待ちに待った安達・直原さんとの決勝だというのに思うようにプレーが出来ない！1-④で敗北。悔しい思いで次のチャンス待ちでしたが・・・山手全国大会は3位、西日本選手権大会も3位、福知山全関西も3位、岡山壮年全国は優勝、岡山北門杯は優勝、出雲の全日本は8本掛けで負けました。これは本当にチャンスでしたが。次の年も大体同じでした。とり、北門、若水：優勝 岡山：2位 西日本徳島は8 全日本は1回戦松岡・栗尾に負けたのが悔しいです。

2002年、シニア45最後の年はもう一度という気持ちで臨み、神戸までに調子を上げていこうと思いました。高宮も津山で黙々と練習に励んでいました。春先は練習が追いついていないため少し調子が上がりません。北村全国大会はいつも今ひとつで終わります。「東は鬼門じゃなあ」と言っていたものです。若水杯がスタートと考えていたのでしょうか？この年は優勝できました。ボールが見えていなくて、準決勝も大苦戦 ④-3でかろうじて勝利でした。決勝は新開・増本です。相手にとって不足なし。これも僕の不調から大接戦になってしまいました。覚えていたのはただ1本。ファイナルの2-3で負けていたとき、僕のレシーブでした。ストレート展開でした。新開はオープン気味で打つのでなかなかストレートには出にくいのです。でも体が自然に動いて逆ストレートのホールでジュースになりました。良く出れたと思います。これが勝負というものなのでしょうか？後は気力だったですね。もぎ取ったという感じがします。久しぶりに決勝の後足が痙攣しました。動けないほどではなかったのですが。大きな賜杯を持って二人で笑っている写真があります。西日本は沖縄でした。6月の沖縄はコートに立った瞬間目眩がするほどの暑さ、そこでのラリーは10分も打つと体の熱が逃げなくて「こりゃあかん」と思いました。自然に体がセーブしてしまいます。8本掛けで芝田・藤野に敗れました。全日本は神戸でした。この日に備え入念なテニスしようと思いました。高宮のテニスもこの2日間が一番素晴らしく、いいテニスだったと思います。

2人のテニスとしても調和の取れたいいものになれたと実感したものでした。忘れられないのは2日目第1試合 中野選手とやったセンターコートの試合です。日大3羽がラスと言われた彼の剛速球は影を潜めていましたが最近ではまた上がってきているようです。高宮のサーブが彼からノータッチをとり、それからリズムは一方的にこちらのものでした。こんな試合が出来るようになったと思った一瞬でした。

次に勝って笹辺・石井組と思っていたのですが勝谷・津吉組に負けました。これは少し悔いが残ります。彼との最後の優勝は岡山北門クラブでした。旧日本ルールで行われたこの大会は、そのルールをこよなく愛した北門クラブの福島会長の魂でしょうか。今また半分はそのルールに返ってきました。とてもとても快晴で素晴らしい秋の日にこれまたこぼれんばかりの彼の笑顔がアルバムにあるのです。

2004.7.25

本日、八尾市中学校大会がありました。毎回ながら、生徒の気質が変わっているのがよくわかります。ただ、悪い方にばかり・・・と言うわけではないように思います。例えば今年について言えば：

毎年、競技委員長として私はルールの説明をします。今年は、大幅な改正があった件と諸注意事項（熱射病など）について話しました。何年か前ですと、ざわざわがおさまらず、何処かでそのことに対する注意をしたり顧問の先生からの大きな声が飛んだものです。ところが今年は非常に静かに聞き入っていたのが印象的でした。ゆっくりと大きな声で（ハンドマイクですが）はっきりと喋るのが演説のコツらしいですが・・・試合の様子を見てみると、これもまた違います。大きな声でファイト一杯に、それこそこのスポーツで集中しているというのが毎年一人くらいはいるものですが、今年はいませんでした。淡々とホールを追いかけますが、そこには何かに集中して通り過ぎて、初めて垣間見る事の出来る真実を感じる事は出来ていないようです。中学生はそこまではなかなか行きませんが、その為の準備とテニス馬鹿の卵の片鱗くらいは見えるものです。先日高宮選手の長男のテニスする姿を見ました。毎年少しづつは見えていましたが、今年の彼のサービスは本当に素晴らしいものがありました。今中学3年生です。そしてホールを打つ姿、打つための気迫・・・勿論未熟な技術です。しかし、その奥に流れる獅子の魂はムクリと顔を上げかけていました。本物かどうかはこれからの彼次第でしょう。誰が見てもわかるものです、勝負に入り込んだ事のある者なら。その気迫が、今日の子どもたちには感じられなかった。

テニスの上手くなる可能性のある子供はいました。しかし魂がやはり必要です。テニスに対する愛情、テニスをしている自分を愛せる心が最も大切でしょう。僕はそれを大切にしたい。それを持てるテニスマンを育てたいと思うものです。

2004.7.24

高宮選手の話Ⅳ（シニアになってペアを組むようになって）

シニアになり私は福谷さんとペアを組ませて頂きました。最初の東大阪のインドアでのデビュー戦は鮮烈でした。福谷さんのストロークは鋭く、誰も注目を浴びました。しかしその後勝ちを焦ったのでしょうか、思うように結果が出ません。45歳の時四日市チームで西日本大会がありました。私は福谷さんと高宮は太田さんと出場しました。僕たちはリーグ戦の檻の中で2敗、それもファイナル負けでした。先行して2-3ゲームを取った後に必ず逆転負けをするパターンが続きました。高宮・太田組は僕の先生の吉野・東組のブロックでした。この試合で彼は立ち直れないくらいショックを受けます。吉野・東組に4-0しかも2ポイントゲームで負けました。よほど悔しかったのでしょう。彼はこのことを何年にも渡り言っていました。ただ、この頃より前衛の太田さんは腰痛が激しく思うようにテニスができなくなっていたようです。彼は極度のスランプに陥り打つボールがネットを超さない日々が続いたとの事です。その時鳥取の荻原・竜子の荻原さんが鳥取で練習しようと久松クラブに呼んでくださったとのこと。これも嬉しかったようでその後師匠と仰ぎ尊敬しています。

その年は、岡山に集中豪雨がおり彼の家は旭川の支流のすぐそばにありますが、ちょうど合流地点であったため水が逆流して床上浸水をしてしまいました。治水工事が行き届いてははずの水害はある意味では人災にも等しいと思われれます。彼はずっと家の片づけをやっていました。テニスどころではなかったようです。僕は秋の大会もずっと出続けましたがローカルの大会で3位に入賞できたのがやっとでした。もう一歩で勝てる雰囲気までなりました。そして全日本シニア長崎の大会が近づきました。エントリーをしたのですがある日連盟から電話が入りました。「後衛さん、審判期限が切れているのでエントリーの資格がありません」西日本大会がOKだったので夢にも思っていませんでした。時にメ切2日前でした。福谷さんは謝るばかりですがどうする事も出来ません。私はこの大会に賭けていました。前年度成年男子最後の年、やはり長崎で堀内君と組み第2シードの野島・青砥組にファイナルで勝ちながら、次の日簡単に負けてしまいました。その雪辱のためにも、どうしても行きたかったのです。大阪でもいろいろと声をかけましたが長崎まで行ってくれる人もいません。仕方なく、高宮君に誰かパートナーを探してくれるよう依頼しました。彼は「今頃言っても難しいの。じゃが、実はワシが空いとるよ・・・」しかし彼は太田さんに水害を理由に出場を中止しようと言った直後だったので。それはまずかろうという事で電話を切ったのですが、高宮も遠い試合が僕が行くとのことで急に身近なものと感じたのか、それともテニスへの欲求が噴出したのか、30分後に「今太田さんに電話して、気分転換に行きたくなった。こんな理由で高原といっても良いかと言ったところ、太田さんは・・・今腰が痛いので高原と行ってきたいいと快諾してくれたよ」と返事がありました。それからが大変です。他府県の選手とでる場合は、承諾書を取り、ペアの県の担当者に送らねばなりません。そんな事も知りませんでした。幸い大阪の事務局の村上さん（お母さん）と岡山の事務局の重平さんはどちらも知り合っていたために、比較的スムー

スに事務手続きが済みました。彼と知り合って30年の日々が経っていました。しかし、一度だけ広島の高澤旗杯で組んだきりでは経験がありません。岡山まで2度ばかり練習にかかりました。しかし、練習は練習です。試合の中での緊張感やどちらに打つのか、上げたときはどこを守るのかなど不安を抱えながら試合に入る事になりました。往復は船旅でした。泉南よりフェリーで行きます。車は私のオデッセイで吉野・東ノ塚レディス 丸尾 塚エース 氏原 OB会 白根 各氏とにぎやかにしながら行きました。酒も沢山飲みました。一杯笑いもしました。おかげで下関から長崎まで皆さんぐったりと疲れていました。

1日目は11/22という事もありませんごく寒い日でした。風が強クロフなど使えるような状態ではありません。手袋が必要でした。最初の試合は緊張するものですが、一試合目はさほど記憶にありません。すんなりと勝てたように思います。また誰も僕たちのペアが勝ち上がるなんて思ってもいませんから、見てもらう事でもありませんでした。2試合目は埼玉のチームとの対戦。この試合は自分ではずいぶん大きな試合だったと思っています。1-1 2-2 と迎えたサーブ5ゲーム目2-1の次のポイントで相手のボレーをフォロー、これがサイドラインぎりぎりに落ちました。副審の目の前です。コールはイン。しかし埼玉の大応援団は「アウト、アウト!!」と叫んでます。確認が正審からあり、副審は今度は「アウト」と手を上げました。これには私も抗議をして、どこですか?と聞きました。ネットから1mくらいのところですので。副審は跡を少し見て、正審のところに行きました。正審は大きく「イン、元の判定通り」と告げました。3-1となりました。ここで、ずいぶんと考えました。次の高宮のサーブがファーストなら良いがセカンドならきっと相手は僕を攻めてくるだろう。しかもセンター、バック側に。こういったトラブルの後にはもめた相手・前衛を攻めるものです。したがって次のポイントがこの試合をきめる!と。セカンドサーブでした。(旧)国際ルールです。一歩でも前に詰めようといつもより一歩手前まで行きSTOP。後衛は思った通りセンターにレシーブを打ってきました。ラッキーなことにボールが少し高くローボレーが直接ポイントになりました。これで、前衛を攻めてくる事はないし、ゲームカウントも3-2となり後はレシーブで攻めていだけでした。結果は4-2でした。この話は昨年くらいに高宮と話をして「そんな事まで考えていたのか・・・」と言われたものです。後衛は攻める事を主体に考える。前衛は攻める事も攻められる事もおなじくらい考えます。ゲームの中での思いは微妙に違うようです。とにかく1日目は残りました。宿に帰り仲間内は大体勝ちましたのでおいしいお酒となりました。高宮は岡山のメンバーと一緒に宿が違っていました。

次の日はうってかわった快晴です。朝は寒かったのですが、雲一つない素晴らしい日でした。朝、氏原さんとラリーをし非常に良い感じであった事が気分を良くもしていました。

一試合目は第3シード 京都の高橋・木下組です。高橋さんにはローカルの大会で今年3-④で負けていました。おなじ相手には2試合続けて負けられないというつもりで臨んでます。いつもより気合いを入れて望みました。結果は一方的に④-0で勝てました。「よし!」と満足する結果でした。次、4本掛けは大阪の初代・林組です。初代さんとは数年前に高宮も一緒に岡山で合宿しています。高宮は「上手い人だなー!!」と感心していました。林さんとは成年時代の西日本高松で高宮・太田で負けています。僕はこの直前の大阪府選手権で福谷・高原3-④初代・林で負けています。どう見てもこのデータからは分が悪いのです。ただ僕の心の中には、そうではないある種の自信がありました。林さんには何故か大きな試合では負けていない。初代さんはやや、大きな試合で守りに入る傾向がある。これらのことが僕の意味のないチャンスと感じていた理由でした。

試合が始まりました。最初はペースが全く合わず、空回りでした。あつという間に0-2です。次のサーブゲームは非常に長いものとなりました。緊張感が高まります。これを落とせばまず勝利は相手のものです。しかし取れば分かりません。やっっていく内に、次第にリラックスしてきました。精神的にも何か余裕ができました。長いジュースの後、これは何かをしなければ勝てないなと思いました。主導権を得なければならぬ。高宮に話しかけました。「高宮、サーブだけドエースを狙って良いか?」おそらくそんな事は言われた事がないでしょう。目をまるくして、「おー、いいいいいよ、思いきっていけよ。」

少し時間が欲しかったので笑いながら「終わったら旨いコーヒー飲もうや」と言ったところ、彼はニコッと、「旨いコーヒーな!」と言いました。僕は思いきってファーストサーブを打ち込みました。初代さんにはエースとなりました。「よし!」林さんは少しスピードを落としてクロスに逃げるサーブを打ちました。高宮側にレシーブが返り、高宮のセンターへのトップでノータッチ、ゲームを取りました。リラックスした僕たちは次のレシーブもせめて取りました。次のサーブも楽でした。すでに流れは我らに来ていました。第6ゲーム2-2からメイクマッチの1本、「初代さんは後半必ずサイドに打つ。僕はそのボールだけを待つ!」高宮に言い、ひたすら待ちました。そしてサイドに・・・「来た!!?」少し手首を返し絶対フォローできないところへ打ったボレーでした。長い軌跡が見えました。林さんがフォローに行きましたが、その先をゆっくりとボールが走っていきました。今までで一番待った、そして一番印象に残るボレーでした。そしてマッチポイントのレシーブ、林さんのサーブでした。彼は全力で前に出てきました。渾身のレシーブをセンター低めに打ちました。林さんはローボレーをしました。ボールが高くなりました。思わず「でろー!!!」と大声で叫びました。今考えてもマナーが悪かったなと思います。ボールがアウトコートに吸い込まれていき、あの満面に笑みをたたえた高宮が走り込んできました。「いっちゃん!!勝ったぞ。勝ったぞ。よう勝てた!!」皆さんに認知された瞬間でした。

次の袴田・菅野さんとの準決勝は高宮も僕も少し雑になったかも知れません。僕もリラックスしてましたが、ある意味全日本を取るまでの意識はこの時我々2人にはまだ芽生えていませんでした。

最初から頑張っていけば良かったと今では思います。それだけ思い切っても勝てるとは思えない相手でした。袴田さんのストロークの強烈さと菅野さんの横の速さ、ボレーの鋭さにはビックリしました。1ゲーム取るのがやっつとで敗れました。成年から5年連続決勝に行っている優勝が目標の袴田・菅野ペアと3位で満足した僕たちでは勝負は最初から決まっていたのでしょうか。本当に今となっては千載一遇のチャンスであったかも知れません。その時大阪の谷尾・高田ペアが優勝しました。谷尾選手は同期で高田選手は八尾でも3年近く一緒に練習し特に冬場は果てしないラリーの相手をして頂いたものです。彼らも僕たちと条件は一緒でした。この時、優勝賜杯を私の車に積んで持って返ったのですが、自分のものだったら良かったなと思ったものです。この時、もう一つの3位は鶴王・仲川さんでした。今度やろうなど言っていたのですが、なかなかチャンスは巡ってきませんでした。

この時、多くの財産が僕たちにやってきました。それは人です。日本中の有名な選手たちと仲良くして頂けるきっかけとなりました。これが僕たちの最も大きな財産で、彼が私に残してってくれたものです。

僕たちはこうしてペアを組む事になりました。太田さんは「行くところまで行けよ」と送り出してくれました。福谷さんとはその年でペアを解消することになっていました。しかし彼はきっと全国に出てくる。僕はそう信じていました。

2004.7.23

高宮選手の話Ⅲ (一般・成年の頃)

早いもので、彼が亡くなって10日過ぎました。この一週間は速かったです。でも、夏のけだるさと凍り付いたようなこの空気のようにみは何なんでしょう。暑いんですけどひんやりとした感覚と少しばかり強い風が熱風なんですけどいつもと違う夏を運んできています。立秋後のあの何ともいえない寂寥感、そしてビュンと心をもぎ取っていくような風小僧。あつと振り向いてみても、そこには何も無い、ただ風が吹いているだけです。思わず立ちすくし天を仰ぎ、何事もなかったように鳴く蝉時雨に、涙が出てしまいます。

高宮君はとても気丈に振る舞っていましたが、実はとても繊細で、臆病で、思わず微笑んでしまう愛すべき男でした。時にその無邪気さが、悪気はないんですけど他人には快く思われたい事もあったようですが。僕の友人への彼の説明は簡単でした。「長島と金田を足して2で割ったようなやつ」で全てが理解されました。

一般時代の彼は若いサーブと剛球で全てをもぎ取ろうとしていました。また、前衛を一生懸命育てようとしていましたが、彼の周りは全員後輩達で神様ですから逆らう事などできません。ネット際で死に玉をミスしないで決める事に専念していたように思います。かつては後衛が全てサーブを打ち、レシーブも後衛から始まりましたから、なんと言っても後衛が主導権を持っていたのです。極端な事を言えば、負けようと思えば後衛だけで、簡単に負ける事ができたのです。その意味は我々とおなじ世代の前衛なら直感的に理解できるでしょう。

彼の試合はいつも全力でした。全てのボールが彼のベストを尽くしていたものなものでした。息切れをしないようにしていたのならともかく、とにかく抜く事はありませんでした。良いときは4コク。負けるときは3-0からでも自滅して負けました。彼の心がバクシれば(誰でもそうでしょう)彼は自分の中に閉じこもり、ひたすら負けに突っ走ってしまいました。彼の前衛達が悪いというのではないのです。彼のコートでの雰囲気では誰も文句など言えないでしょう。暴れ馬を乗りこなすのは難しかったでしょう。それでも、彼の岡山での後輩達は彼を愛してペアを組んでいました。原君は優しく良く気がつく、そしてじつと寄り添っている良い女房タイプです。高宮の言う事をはいはいと笑いながらさらりと受け入れていました。事務的な事も練習でも試合でも彼は淡々と、しかし激しくやってきました。もう一人、福田君という少し年下の前衛がいます。彼はどちらかというとズケズケと無邪気に振る舞うタイプです。少しは先輩の良い面を取り入れたのでしょうか？マネージャー的に、いろいろと動き回っていました。県内外の試合でも、彼らと組み優勝もありますし、かなりの成績を修めていました。

成年になり彼は県南の太田さんと組み始めました。太田さんは当時就実高校でコーチをされていた方です。京都国体のあった年、彼は見事に岡山代表となり国体に出場しました。中国5県から2県という厳しいミニ国体を勝ち抜きました。当時は植松・大橋 杉本・藤原という2枚がいましたし、前年は準優勝をしていた年でもあります。成年もいいチームが多く激戦でした。僕も京都には八尾市出身の池田選手がいますし、高宮も出場という事で会社を休んで応援に行きました。当然決勝の日に残ると考えていたので、最終日に行きましたが残念ながら岡山は初日で負けていました。高宮が近づいてきて「いっちゃーん。負けたよー！！」と少し照れ笑いしながらいました。山形に負けたとの事でした。当時は知るよしもなかったのですが、袴田・菅野の菅野選手とやったようでした。池田選手は京都の1番で川崎・池田ででていました。決勝は千葉との戦いで、1番で負けてしまいました。2番はこれまた数年後には戦う事になる山中・仲川さんが勝ち3番勝負となりました。仲川さんは非常に勝負強い選手だと感じたものでした。3番には私は全く驚いた事に千葉は若梅・藪崎ペアで出てきました。藪崎選手はガンで何度も発症回復を繰り返していたと噂で聞いていました。最初は帽子をかぶっていましたが全くブランクなど感じず、ああ藪崎も良くなったんだ、と思ったものでした。しかし途中で帽子を取りました。彼の頭には髪の毛がありません。厳しい治療の跡がうかがえました。しかし、切れの良いプレー、鋭い動きなどは昔のままでした。三段池のコートで夕陽を浴びながらプレーをしている姿に感動さえしたものです。結果は千葉の優勝でした。若梅・藪崎を3番における千葉はやはり強かった・・のでした。後日、池田選手から「藪崎さんはあの後2カ所骨折していたそうです」と聞きました。そこまでしてもテニスをやる。彼もテニス馬鹿ですね。

僕も成年になってからは、東大阪の高橋選手やJRの堀内君と色んな大会に飛び出していきました。なかなか勝てませんでした。が、シニアに行く前には昔は全く相手にならなかった人たちがなんとか試合ができるようになってきていました。例えば奈良の西森・沼田選手や平井(上路)・中井選手、鳥取の野島・青砥選手・大阪の名選手達などです。彼らと何とか出来るようになったのが少し自信にもなりました。これは成年になり、武田薬品のテニスコートで守谷・東さんにご指導頂いたことが大きいと思います。当時武田には大阪の成年・シニアの名選手(守谷・東・吉野・谷尾・高田・木藤・福島・初代・林・津村・橋本)達が毎週土曜日に集合していました。そこにゴーセンの女子選手達(今井・足羽/杉浦・村田/...)などが集まり、一般の兵庫の国体選手達が集まり・・大阪のA級選手達も入れ替わりやってきました。コート、体育館を開放して頂いたので本当に素晴らしい数年を過ごしました。最初は3ヶ月間、誰とやっても勝てません。ほんとに落ち込みました。でも僕には守るものなんてありません。吸収するものばかりです。そのうちに見ていくという気概でした。そのうちに何とか行けるようになりました。

成年の頃、ダイハツ杯という大会が、11月に池田市で行われます。その時、堀内君と組み決勝まで行きました。決勝の相手は福谷さん(箕面クラブ)でした。今までに見た事のない素晴らしいフォーム、打球、この人とシニアで組みたいと思ったものです。当時43でした。試合後、話をして、東京から帰ったばかりである事、ぜひ組みましょと話がまとまり2年後を楽しみに練習に励みました。堀内君とは7歳の差がありこれから先は少し無理だなと思っていました。

2004.7.22

高宮選手の話Ⅱ (一般選手の時代)

私の岡山での生活は終わりました。私も彼も長男という事もあり、岡山に就職を考えていました。どちらも関東の大学に行っていましたが、岡山に帰ってきたのはそのためでした。しかし時代がそう簡単に私を岡山に置いてはくれませんでした。オイルショック後の大不況で就職はありません。化学は装置産業です。仕方なく私は大阪に出て行きました。彼は、東京のある出版社に就職が決まっていたと言います。しかし、彼の父上が大学生活の終わり頃、急死したため彼もまた岡山に就職を決めたのでしょうか。彼は東京で学生時代にヨネックスでアルバイトをしていました。当時ヨネックスは後発のラケットメーカーで今のよう日本でのラケットメーカーとしての確固たる地位はありませんでした。当時に課長？でいらした吉本さんに随分可愛がられたようです。カーボネックスの普及にいろいろと尽力した時代でした。吉本さんは高崎商業出身であり、私の群馬時代当時はワカサキラケットに勤務でしたが、同郷との事で私の大学に時々どっさりラケットをもって来て頂いてました。諸先輩達は県や全国で有名選手も多く当時の国立としては結構強かったと思います。吉本さんには平成8年、東大阪のテニスコートで再開しました。独特のグリップとスタンスで自在にボールを操る姿は変わっていませんでした。私の事など覚えてもらってないと思っていましたが、「君、何処かであったな、そのフォーム覚えてるぞ」と言われたときは驚きました。すでに23-4年経っていて、しかも殆ど会話した事もないくらいでしたのに。「あー群馬か、そうさうだ。新保君か岩崎君かの頃かな？矢野君と同期か？分かった分かった」と。ヨネックスも新しい時代を

迎え、吉本さんも東京本社から大阪へ転勤になられていました。その後、私と高宮君がヘアでしかも高校の同級生と分かったときには「奇遇だねー、ほんとに」と言われたものです。その後、タキセイコー監督を経て現在は東京の実家に戻られたようです。高宮君は郷土で働く道を選びました。お母さんと2人ででしたし、お母さんは津山の保健所で働いてられましたので津山からは動けなかったでしょう。彼は、「岡山に帰ってもう一度テニスを真剣にしようとは当時は考えていなかった」と言っていました。彼は消防署に入りしかも本署は家から歩いて3分くらいのところにある極めていい条件でした。津山クラブという津山を引っ張ってきていたクラブがありました。当時は彼も皆そこに加盟していたものでした。しかし、結構年配の方が中心でやられていてなかなか若い彼らにはやりにくいところもあったのではないのでしょうか？私が大阪に出る頃、彼と現在の西会長が中心となり『津山峰南テニスクラブ』を立ち上げました。会長が30歳くらいの若いクラブです。峰南の由来は、私の高校がかつて一時期『峰南高校』といった時期がありました。この峰南という響きはほのぼのと我々の心に古里としてあるものです。当初、高校のOBクラブのような集まりでスタートしてましたのでこの名前となりました。峰南クラブを大切にしたい彼は、県北でのリーダー的な存在にし、更に岡山県南と県北の垣根を取っ払いたいと必死にやっていました。岡山はソフトテニスの老舗的な県です。今でも岡山市役所は強く全国区です。国体も数年前までは決勝に行くのが当たり前でした。それは昔からの伝統もあり、かつての岡鉄局が一般の中心でしたが、中学高校と強い学校も多かったものでした。中学では名門瀬戸中学、高校では岡山南高、倉敷工業、玉島商業、作陽高校などがありました。しかし、県北では有名選手は殆どいなくて、岡山県でもいつも冷たい壁があったものでした。1年中テニスができる温暖な県南と4ヶ月間は霜柱でテニスコートの使えない県北では当時の実力差は歴然としていました。高宮君はその壁を崩そうと考えたのでした。後輩達に、自らの力を伝授し、精神力を教え県南に勝つためにはどれくらいの事をやらねばならないかと必死にやりました。後輩達はそれは一生懸命でしたが、なかなか彼の思いに到達する事はできませんでした。高宮君は厳しく、こは社会人のクラブか？と思えるほど叱責している姿を見ました。その度以後輩達はコートに立ちすくし聞いていましたが、本音はもう少し楽しくやりたいと思っていたのでしょ。一部の後輩達がクラブから去っていった時期もありました。彼らは新しいクラブを立ち上げましたが、引っ張っていく事が難しい事は分かっていたでしょう。中心で人の事を愛している人がいないとクラブが衰退してしまう事は明白です。自分がテニスをする事以外にとでも沢山やる事があります。それを何のそのとやっていけるそのエネルギーが必要なのです。彼は本当に一生懸命でしたし、やめた人たちも改めてその大切さを、彼のやってきた水面下の必死の動きを理解したのではないのでしょうか？

県北の意見を反映させるために若いときから県の理事をやっていました。最初は相手にされないのではないのでしょうか？若いし、力もない地区での理事ですから。でも彼は休まずアピールを続けました。最近では高宮の行動力と実力に、県ではなくてはならない存在にまでなってきたように感じていました。特に今は岡山国体に向けて一丸となってやってきていた時期でしたのに。

2004.7.18

本日は、このページをご覧頂いている皆様にご報告があります。そして少しだけ私のつぶやきをお聞き下さい。

私はシア45より、岡山の津山峰南テニスクラブの副会長でありました高宮琢之選手とペアを組ませて頂いておりました。しかし、高宮選手は2004.7.13 pm6:05分に不帰の客となりました。ここに痛恨の思いで報告致します。本当に残念です。

通夜、告別式に遠方よりまたお忙しい中列席頂いた皆様方には本当に有り難い思い、感謝し尽くせない思いで一杯です。彼の人格、彼の家族の素晴らしさが沢山の人を引きつけてやまなかったのでしょうか。本当に大勢のお見送りで旅立てた事が彼にはせめてもの慰めでしょ。

これから少し彼との思い出を聞いて下さい。彼の求めていたもの、私たちの求めていたもの、続けてきたものを分かって頂きたいと思えます。少しでも皆様が彼を理解して頂き、人柄は勿論良く承知頂いていると思えますが、更にテニスをする上での何かのご参考になれば幸いです。

私と彼とは岡山の田舎の町で育ちました。私は英田郡英田町(あいだちょう)、彼は津山市ですので幾分街ではありますが・・・。中学時代、夏の総合体育大会1回戦で初めて彼と試合をしました。どちらも後衛で白熱した試合でしたがファイナルで私が負けました。その時から、彼はファイト一杯でした。私のサービスから始まりました。本当に大きな声で「さあこい！ハイ、ハイ！！サア、サア！！」と真っ黒い顔で大きく腰を落としてラケットを正面に両手で持ち、声をかけてきました。その意気に感じ、私たちも自然と試合に集中して1本に集中して試合をしました。技術は未熟なものだと思えます。何故なら、彼も2回戦で敗北したからです。37年前のあの夏の一日のことをこうも鮮やかに思い出せるのはやはり彼との出会いにはそれだけの意味があったためなのだと思うものです。

昭和42年津山工業高校工業化学科に入学して自分の席番の後ろに彼がいました。高原・・・高宮だからです。それから3年間ずっと同じクラスでした。勿論席番もおなじままで。入学時彼は160cmくらいしかなく、どちらかというとひ弱でした。足も遅く、幼い頃足に火傷を負ったため、すぐに足がつかまりました。50名の新入部員がいましたが、コートは2面、しかも女子部も入れてです。まず最初は、部員を減らす事から始まりました。3:30に授業が終わると、果てしなく続くトレーニング・・・とは名ばかりの人減らしのシゴキでした。しかし、今から思うとそれに残ったという事に意義があったのでしょうか。我々2人とも一度は退部届を出したものでしたが、体力もついた頃、1年生部員は20名になってました。でも、やめていったその中にはその地区での中学No1前衛や、有望な名プレイヤーの卵達が多かったです。そういったトレーニングが本当に必要かといえばそうではないでしょうが。

彼はその後一般になってからは色々な独自のトレーニングをやっていたようですが、その頃はみんなについて行くのが精一杯という感じでした。何とか一冬乗り切って、2年生になりました。私は通学に2時間以上を費やし、1年生の間は少し早く引き上げていましたが、そうも行きません。進学をしたいと考えていた自分には朝5時に起き夜10時に帰宅する生活を毎日続ける事は不可能なことでした。疲れがたまり、肩こりがひどく挙げ句の果ては上半身全体が固まり、筋肉弛緩剤で治した事も数度ありました。テニスはまたできると考え、一生できるようにするため、自分の意志を通し7月に退部しました。高校の時の1年間の前衛生活が終わりました。当時のキャプテンは谷口さんという非常に厳しい人でしたが、「テニスを続けてくれよ。」と優しくいわれた事に「約束します。」と答えました。高宮君は、色々やりたい事もありやはり一時期クラブを離れた事がありました。その為、ヘアには恵まれず自分のホールで勝利をもち取るのは何が最良かと考え、自分の良いところを伸ばす練習を進めたようです。

すなわち、サーブとフォアのトップを強化することに専念しました。サーブを速くするため、手首、握力、背筋、腹筋を鍛え持ち前の体の柔らかさで、しなやかなそれでいて力強い独特のサービスを完成させたのでした。「ファーストの確率を50%以上にすればダブルファーストで必ず点が取れるサービスを打つ！」実際には緊張もしますし、練習では70%くらいの確度が必要です。彼は自分だけで伸びきれない最大限の努力をしたのでしょ。一般の頃、彼は「サーブをフォア側に入れるので受けてくれ」とよく言いました。ベースライン

に近すぎると当たりもしません。遠すぎると少し角度をつけてきます。また普通の選手のサーブと違いワンバウンドしてから失速しないのです。逆に伸びが大きいように思いました。あのサーブの破壊力はおそらく日本でNo1ではなかったかと思います。歴代の選手と比較しても私はNo1だと信じています。

大学へ入ってから、彼は関東学連の3部(関東学院大学)で私は4部(群馬大学)でしたので直接当たる事はありませんでした。ただ、リーグの全勝者は名前が載ります。高宮の名前を見るたび、活躍しているのだと思ったものです。私は自分の学費とささやかに続けていくリーグ戦の合宿・遠征費用の捻出で個人戦までは参加できませんでした。何しろ桐生の山の中におりましたので。

学連の東京でバリバリやってる高宮と中央の試合にも出ない名もなき前衛では差があります。大学のテニスでさえも私は何か馴染めないものがありました。勝利優先主義の本質を考えないテニスなど私には無意味でした。次第に足が遠のきました。分かってくれる後輩もいてくれました。3年生で引退ですが、同時に私が求めていた化学の世界の虜になった時期でもあります。さらに私は岡山に帰りマスターで化学の研究生生活に入りました。21-25まではテニスの「て」さえも考えなかったものです。高宮はその時期やはり面白いことをやってました。何を考えたかドイツに留学したのです。ただ本人は勉強にはあまり興味はなかったようで、そこそこ退学し2年近くをヨーロッパ中放浪していたようです。生活費を稼ぐためにバイトしたいのですが就労ビザがなくともな仕事には就けません。彼は露店の針金細工をマスターしそれを糧に食いつないだようです。露店のBOSSに法外な金を要求された話やマスターしても一向に売れなかった話や、やっと売れるようになった秘訣など面白く聞きました。あいつが言うど嘘か誠かでも・・・高宮らしいなと納得してしまうのです。

最後はスイスで摘発され(勿論違法ですから)国外退去になりました。持ち金100万くらいも没収。彼は迷わずイタリアに行き、パスポートを焼き捨てたそうです。そして日本大使館に転がり込んで、パスポートと持ち金を全部すられたと・・・次の日、めでたく日本に帰ってきたそうです。

この話の真偽は分かりません。何故なら、彼が外国語を話している現場を一度も目撃した事がないからです。勿論チャンスもなかったのですけど。

一度に書くのは疲れましたので次ぎは(高宮選手の話 第2部)として書きます。

2004.7.12

今年も総体予選会が行われ、男女とも予選を通過しました。今年は男女ともに新人の活躍があり、本選にも十分期待ができると思います。戦力増強と新旧交代は課題でしたが、着実に実行できてきていると思います。これからますます暑いですが、それに向けて頑張っていきましょう。

来週は一般・成年の西日本選手権大会です。大阪のレベルがいかほどか、自分のレベルがいかほどか、見極めて下さい。そして何をなすべきか、どこまでやるべきか、どう検証するのか?どうか慢心することなく歩んで欲しいと思います。

僕も秋の全日本に向けて始動します。これからの1戦1戦を頭にたたき込んで・・・今日は接戦したのですけど、残念ながら負けてしまいました。その後の練習では、今の不調・欠点を克服できる兆しを何となくつかめました。その為につきあって下さった皆さんに感謝します。

2004.6.17

先週の土日と九州小倉の全国シニアソフトテニス北九州大会に参加しました。北九州の皆さんにはいつもお世話になり、本当に有り難く思っています。松田さんから、声を掛けられると断る事などできませんけどね・・・いつもはご一緒にさせていただくことなどない大阪OB会の喜多村さんご夫妻、仲内さん、宮脇さん、若宮クラブの片山さん、滋賀OGの井上さんや東さんと大阪から同行でした。大御所さん達と同席させて頂き、恐縮の一言でした。ただ、食わず嫌いというのはあるのだなと思いました。OB会は確かに年配の方々が多く、若手?にとっては本当に居心地の決して良いところではないと思ってきました。ただ、個人的につきあった事がないので本当のところは分からなかったでしょうし、今まで相手にもされていなかったのだと思います。それは私の腕の未熟さでしょうし、心の未熟さでもあったでしょう。今に見ているという負けん気があるうちは、実は実力のなさを自分でも良くわかっているのでしょうか。

とても大らかで口は悪いのですけど、本音でものをいう性格が出ているのでしょうか。強い人の若い頃の自慢話は仕方ありません。それは僕にはないものですし、それはもう取り戻せないものです。でも今勝っていない人は今の状況を分かっているのです、誰よりも。それでもなおかつコートに出ていつの日かもう一度日本1になってみせるとひたすらボールを打ってます。

その姿を見て、立派だと思うのです。負けるのが嫌だからテニスは好きだけど試合には出てこない・・・人がいます。それはテニスをする以前の段階でテニスをする意味を放棄しているのでしょうか。

遊びのテニスで打つ事が楽しい人は大勢います。しかし、トーナメントプレーヤーとして勝負のテニスをし、その味を知ってしまった以上その味からはもはや逃れられない・・・と以前書いたと思います。そのテニスが自分を育て今の自分を支えているのではないのですか?たかがテニスですが、されどテニスはその時までの人生を映し出すものだと僕は思っています。

弱い心、強気な心、やり通す強さ、プレッシャーに負けてしまう自分、はね返す勇気、大事なポイントで必ずミスしてしまう人。ポイントは必ず決める人・・・その刹那、人は何を考えるのでしょうか。

その大切さを分かっているが故に、その大切な時、自分の心と体を一致させる努力をしているのではないですか?

それがテニスを通じて学んだ一番大切なものではないのでしょうか?

僕はそう思っています。

僕は、今回初めて九州の大穂さんとペアを組ませて頂きました。

大穂さんとは4年前の福山での井ノ口杯で初めて知り合いました。その時前日豪雨で、大会は中止になりました。クーコートだったからです。全国から集まってきて雨天中止はやるせないものです。恨めしそうに空を眺めてました。見かねて地元の方達が、オムニコートを探して練習しましょうか?とってくださいました。僕たちペア高宮・高原 岡山の倉田・青木黒田・荒川 東京の新沼・九州の大穂・林チームが集まり練習をし、5チームのリーグ戦をしました。雨が降ったりやんだり、コートは水浸し、水を取っては試合をし、雨が降り始めてはクラブハウスに入り話し込み、また試合するといったものでしたが気がつけば午後3時を過ぎてました。11月3日ですので少し薄暗くそこで終わりとなりました。倉田さんが「これクレージーリーグと名付けよう」と言いだし、

皆満足して帰ったものでした。思えばそこに集まったメンバーはそこで初めて知り合った仲間でしたが、日本中に自分と同じくらいの大馬鹿者がいるのだと知り、安心したのも事実ですし、一度に百年の知己になったのでした。その大穂さんとペアを組み何とか予選リーグは抜け、これまた林さんとやったのでした。結果は我々の完敗でした。Best4を逃して残念でした。それよりも安達・直原さんとやれなかったのが残念でしたが。

2004.5.24

昨日行われた近畿大会成年男子の部で、池田・矢野(寝屋川・八尾)組が見事優勝を成し遂げました。祝勝会での言葉を借りれば、近畿制覇ですね。矢野君は「ちょっとBIG-NAMEのいなかった大会でしたし。」と言っていました、そんな事はありません。今年の彼らの実績は誰もが認めるものですし、ここ3年くらいの彼らの充実素晴らしいものです。昨年、彼の紹介欄に、優勝できないのは何かが足りないのでしょうか？と書いてましたら、「足りないモノは何ですか？」と聞かれました。僕にも良くはわかりません。常勝の人に聞くのが一番でしょうか？ただ僕に欠けているものは何だろうと考えると答えが出るのでしょうか？ ぼくは、子供の時からエリートの集団にあまり入らなかったです。それは負け惜しみで入れてもらえなかっただけですけど・・・。だからある意味では自分が最高の環境で何かをした事がないですから、自分の限界はわかりません。先日、星野監督が、「僕も何となく1番のところは縁がなくて・・・」と言っていましたね。だからいつも 未達成感が心の中にあります。だから良くわからないですけど、1番になる不安感みたいなものを潜在的に持ってきたんじゃないかと思うけど・・・。僕も小さな大会で初めて勝ったときのことを思い出しました。その時、決勝の途中で1-3, 1-2で負けていた時だと思うのですが、急に「あーあ、今日も勝てないんだ・・・」と心の中でつぶやきました。そのつぶやきがなんか急に自分を動かしたような気がしました。スルスルと足が動き、ポーチ、スマッシュと面白いようにポイントを重ねました。マッチポイントは私のレシーブで旧日本ルールでしたが、セカンドサーブをセンター割。後衛は強振しましたがネット上段に当たりゲームセット。力が急に抜けました。その時、思ったのです。勝つことに怖がっては勝負事には勝てないんだと。ただその時、こんなものだったのか・・・と思ったのも事実です。限りなく、1歩の階段が続いてゆくものですが、登り切ったあとにはある意味で、達成感よりも不足感、荒涼感があるのはこれは何なのでしょう？私にはまだ全日本のチャンプという夢があり、これを達成できたとしたら、その先にはやはり同じようなモノがあるのでしょうか？だとしたら、人は努力して、頑張るって、そしてなおかつEmpty Worldにむかっていく事になります。夢は達成できないからいいのだよという人もいます。でも達成してみなければ・・・分からないでしょうね。たとえ、そこが荒涼とした砂漠でも、草木を植えてまた肥沃な大地に変える事もできるでしょう。それも人間の意思次第です。求めよさらば与えられん。意志というモノはすごいものだと思うのです。考えているだけでは駄目です。でもまずはイメージで。考えない人、思いつかない人は何もできないでしょう。学校はいいですよ。カリキュラムが組まれていて、そこに座ってじっとしていれば知識を与えてくれる先生が求めてもないのに立派な話をしてくれます。大概は正しい事です。なぜなら何年にも涉って検証され尽くしたものはやがての生えた知識ですね・・・学問をやっている人にとっては・・・それを与えてくれる。積極性などいりません。もちろんそれを弾みとして、さらに広い知識を求め、検証し、誰もが思いつかなかった発見をする人が研究者であり、学者です。そしてそれはあまねく人類に公平に寄与するべきモノです。一部の人のみに寄与するモノは学者とは言いません。テニスはたかがテニスです。誰が考案したのか？それは分かりませんが、長く行われてきた遊びにはやはり価値があり、真実があります。ソフトテニスもどんどん変わります。道具も変われば、ルールも変わります。プレーヤーの体格も変われば気質も変わります。万物流転です。しかしネットを挟んでボールを打ち合う事には変わりはありません。テニスとは何でしょう？長い歴史の中で変わらないモノは一体なんだったのでしょうか？それがテニスの形です。ルールは100も創れるでしょう。それとテニスは関係ありませんね。ちょっと話がそれていってしまいました。テニスには積極性と探求心、飽くなき追求と肉体の持続をする努力、そして・・・運が必要です。しれは、学校とはまるで違うものです。自分から捕まえに行き、もがくけれども手にした実感はない。そして合格点は誰もつけてはくれない。つけて頂けるのは辛口のダメ評価のみです。だから自己評価が客観的にできる人が素晴らしい。意志というのはその長きに渡る前向きな姿勢を崩さないための牽引車なのです。

最後に一つ、運は本当にわからないものです。

2004.5.22

近畿大会が滋賀県で開催中です。今日はシニアが行われています。何年ぶりかで不参加でした。試合に出ていないと緊張感が無くこれではいけないなとも思います。明日は一般・成年があります。いい緊張感をもってやって欲しいですね。

2004.5.4

あっという間に今年度も過ぎてゆきます。もういくつかの試合が終わりました。シニアというのは体力との勝負で、新しい人たちが入ってくると苦しいものだなと痛感します。今年も北村全国大会では45に成り立てのペアが多く、やはり結構順当に勝ち上がっていました。ただ負けん気はまだあるので今度は勝つぞと思っていますが。

2004.4.10

しばらくご無沙汰してしまいました。年度末はやはり忙しい。一応サラリーマンの端くれとしては・・・。今年は桜が早く咲きましたが途中寒くて結構長持ちしましたね。今は造幣局の通り抜けが見頃になっているでしょうか？今日、明日と北村マリンテニスコートで全国大会が行われています。春先の大会としていつも出ていますがなかなか結果が出ない大会です。明日はどうでしょう？先週、岡山で合宿をやってきました。基本をじっくりと行い、調整を試みました。おかげで1週間、筋肉がうめいています。また今年も頑張るかと思う春先の行事です。明日いい結果であることを祈って今日も休みましょう！

2004.3.4

3/7(日)は八尾市選抜インド選手権大会です。2003年度の八尾市選手で活躍した選手と期待値を込めた選考選手の大会です。また、WINGで開催するようになって、レベルの維持向上を目的として、他市からの招待選手を迎えています。最近八尾市の当協会選手の充実から選考に苦慮するようになってきました。これも喜ばしいことです。ただまだ意識の点からすれば、一般男女には高い志を持ってもらいたい。いつかは大阪インドアに出て決勝トーナメントで戦う選手が育って欲しいと願うものです。

子供の時から思っていました。いつになったら思うように色々なことができるだろう。いつになったら僕の居場所や位置が見えるのだろうって。仕事だってそうですし、勉強だってそうです。テニスだってそうでした。昭和43年、1965年からテニスを始めましたが、何年間も自分は何をしているのだろう・自分の力はどんなものだろう・好きなテニスと、勝つということのギャップがあまりにも大きくて、まるで深い井戸の中に落ち込んでいるような錯覚にとらわれたものです。それはそうです。試合に出れば1、2回戦で負け、勝つ味も知らないで世界が見えるわけはありません。でもテニスを続けてきた・不思議ですね。それだけこの白球には魅力があったのでしょ。

でもテニスは危ういものです。脆いものです。1ゲーム4ポイント 4ゲーム取れば終わりです。ジュースがあっても平均30-50ポイントで勝負がついてしまいます。最短は16-0です。強い人でも、時々知らないうちに負けているのを見ることがあるでしょう。油断しているのではないのです。その脆さが、危うさがソフトテニスなのです。どんな強い相手にも勝つ可能性がある、絶対勝てないというものではないところがこのスポーツの魅力でもあるでしょう。強くても、相手のネットインやミスが2-3本続くだけで2ゲームくらい取られます。そこから踏ん張る姿がとても素晴らしいのですが、負ける時は最小の団体戦の脆さが出ます。浮き足立ってきたり、不安になったり、パートナーの領域を侵してみたり・・・いやなムードが漂うようになると危ないですね。

シニアの名選手、広島橋本さん(沢江・橋本)が言っておられました。「ムードだよ。ムードを自分の方に持ってこなければ勝てないなあ！ いいムードのなれば自然と勝ちがやってくる」 そうですね。流れが変わったとよく言います。それは、一本のナイスフォローから始まったり、弱腰だった後衛が目覚めるようなアタックを通したりすることもあります。でも、多くは勝っている方の油断から始まることを私は経験で知っています。例えば、0-3で勝っている時、前衛の何気ないレシーブミス・そしてそれを「いいよいいよ」軽く流す後衛。あるいは3-0からのダブルフォルト、今まで締まったボールが飛んでいたのに、急に返すだけになってしまった後衛のボール。3-0や2-1でタイミングピッタリのクロスポーチボレーのネットやバックアウト。目の前に上がったボールのスマッシュ ネットアウト。決まって「太陽が・・」とか言い訳があります。

気がゆるんだ時に、馬鹿野郎と言ってくれるパートナー、それはミスをするのでなくミスする心の弱さを怒ってくれる素晴らしい相棒です。

いつでも精神的にお互いが支え合って、プレーはお互いを尊敬しあう・そういったパートナーに巡り会えること、それがこのスポーツのもう一つの陰に隠れた素晴らしさなのではないでしょうか？

今は、個人でプレーしている人が多いように思えます。大阪でもペアでいいなと思えるのは数えるほどしかいません。一般男子にいますか？

後衛、前衛を理解し合いテニスを求めてゆけるでしょうか？ またテニスは自分一人では巧くなりません。One for all and all for one.なのです。

良いクラブをつくり、みんなで巧くなり、そして信頼できるいいパートナー(ペア)を見つけて、試合に参加することが待ち遠しくなるように！！

2004.2.23

春が緑色のペンキと南風を呼んできそうな雰囲気です。庭先では梅の花が独特の朱色を出しています。今年はまだ鶯が鳴いてません。まだちょっと寒いからでしょうか？ もう一度寒波がやってくるのでしょうか？ 試合の便りが届いています。結果も今のところ「サクサク」と一足早く咲いてますね。いいですね、いつも結果がすべて・・・。勝つことだけが目的ではありませんが、勝つことの先にある楽しさが見えてきますね。先日の50周年の記念講演で池田選手が言っておられました。「勝つことはこんなにいいことなんだ。こんなに気持ちいいことがあるんだ！ ますますそれからテニスが好きになりました。！！」彼は大学で地獄のような合宿生活を送り、その先にある媚薬に近い酒を飲んだからひとしおかも知れません。今回の便りの中で、ツリンはやっぱり昨年苦しんだ人のうちの一人だと思ってます。勝てなくて苦しうなときもありました。コート隅で肩を震わせてた時も知ってます。その時、横に仲間が座っていてくれたことも。そしてみんなが頑張れと密かに応援していたことも。今、延々と続いているお祝いメールリレーは、そんな姿に対する仲間達の拍手ですね。さて、僕の予想通りママの方が早く結果が出ましたね。ママはこれからますます巧くなっていくでしょう！！ いいテニスと「庭球する心」を大切にしたいと願うものです。

庭球する心 - 福田雅之助 -

この一球は 絶対無二の一球なり
されば心身を挙げて一打すべし
この一球一打に技を磨き
体力を鍛え
精神力を養うべきなり
この一打に今の自己を発揮すべし
これを庭球する心という

2004.2.19

先週の日曜日、大阪府連盟の主催する審判講習会(更新)に参加しました。ちょうど6年目で、大きなルール改正のあった今回の講習会を楽しみに行ったのですが。結果は、一寸ガッカリしたものでした。かつてこのコーナーで、ソフトテニスをもっと競技スポーツとして発展するためにはルールは単純に、そして曖昧さと不合理性を排除したものでなければならないという趣旨のことを書いた記憶があります。ルールブックをひっくり返してなおかつ解釈が分かれるようなルールを持ったスポーツはやる方も見る方も釈

然としなないでしょう。今回のルールにも多分にそんなところが見られます。まあ改正前の国際ルールほどひどくはないですが。審判の強化、それは良いことですが頼りない審判に権限を与えて良いものでしょうか？ 今回の模擬試験でも、つくった方もいい加減ですがその解釈もいくつもできるものがありました。100人くらいの人たちが迷ってしまうようなものでした。自信を持って審判ができない・・・印象を受けて帰宅したのですが、これでイエローやレッドのカードを使うことができるのでしょうか？

2004.2.13

一等賞になるのはとても大変で、小さな大会でも大きな大会でもその価値は等しいものがあるように思います。初めて優勝したときは、涙が出そうになるくらい嬉しかったし、ポーっとしてなんだこんなものかとも思ったのも事実です。でも勝ということは何とも言えない嬉しさがあり、やっぱり勝負事は勝たないと・・・と改めて感じます。優勝するには大きなものを乗り越えなくてはならないし、それが一体何であるかは勝ったことのある人なら何となく分かるでしょう。。それは、ある種の居直りでもあるかも知れませんが、吹っ切れるということかも知れませんが、無我の境地というものかも知れませんが、雑踏の中の孤独感というものかも知れませんが、時間の間をぐり抜けていく感じというものかも知れませんが、

でもそれは何ともいぬ清々しさを運んでくれます。オリンピックは参加することに意義がある・・・でも充実感は勝たないと味わえないでしょう。勝負事での駆け引きは大切ですし、スポーツマンは自分と他人との駆け引きを楽しんでいるものです。でも政治と打算とに対して駆け引きをはいけない！ 高橋尚子選手にはちょっと失望したものです。僕は彼女が監督、コーチから飛び立っていないことにも不満ですが、それを教えてやらないコーチも監督も最低だと思います。人は一人で考え、行動し勝つ利するものです。その為に、コーチや監督は精神的にも技術的にもできる限りのサポートをするのです。でも彼は勘違いしている、彼女も勘違いしている。高橋尚子が本当にオリンピックで金メダルを取ることがゴールだと思っているなら、今すぐ引退した方が良いでしょう。金メダルを取らせることが最高のプレゼントだと思っているなら、小出さんもコーチなんかやめた方が良いでしょう。初心に戻って下さい。そして究極のゴールはなんであるのかももっと考えて下さい。

矛盾のあることを書いておられる人が多いでしょうね。でも違うのです。具体的な目標と、スポーツの奥にある真実は違うのです。そこが問題なのです！！

2004.2.7

今日はとても寒い日でした。凍り付くような一日という感じです。2月は一年中で最も寒い時ですが、やはり昔から変わりはないのでしょう。子供の頃はとても寒く、岡山の田舎育ちの僕は今でもよく思い出すものです。冬は朝早くこの家でもよく焚き火をしていました。小学校に行く間、寒ければちょっと火にあたっていったものです。煙にしみた目の痛みや、焼き芋や、大豆の焼いたもの、温かい灰の柔らかさや押しくらまんじゅうして寒さを吹き飛ばしたことなど・・・。教室には石炭のだるまストーブが真ん中に居座り、ストーブ当番が毎日石炭をバケツ一杯貰ってきました。大きな黒く光った石炭はとても美しく思えました。燃してしまうのが惜しくて気に入った固まりは一冬中机の中にしまっておきました。しかし最後は赤く燃えた火の中に消えていったのでした。今から思えば火傷もせず小さな子どもたちが大切にしてきた暖かい思い出でした。今の子どもたちは、スイッチ一つで暖かくなり、年に一度のフィルターの掃除をするくらいでなんかコミュニケーションが無いですね。ストーブをだす日の待ち遠しかったこと。みんなワクワクしてその日を待ちました。みんな協力してストーブを設置し、ブリキの煙突を組み立てて、ストーブをきれいに水洗いして、丁寧に拭き取ります。鋳物のストーブは一日乾かして、次の日火入れ式です。暖かい炎がみんなを包み教室もストーブから石炭の燃える音や、上に載せた洗面器がコトコトと音を立てる中で授業が進みます。・・・なんか今そんな、その時はどうでも良かったことがとても懐かしく、そして大切に思えるのは今の生活に何かが欠けているのを分かってきたからでしょうか？

僕がいつまでもテニスが続いているのが、今改めてそうなんだ・・・と思います。僕がテニスをしているときは、決して時間が前に行っているのではないのです。心と体が新鮮な、あの初めてテニスを始めたときの感覚から少しも変わらない。そして巡り会った人たちが大切に思えるのはきっとその日の心を皆さんどこかに宿しているからなのでしょう。少なくとも僕の心は、そうだと言っています。今年もシーズンが始まろうとしています。また春に向かってワクワクしている今がとても好きですね。

2004.1.27

春はもうすぐやってくるなんて言ってもまだまだ寒い今日この頃です。疲れも少し出たのでしょうか？ 何となく体のだるい日々です。もうすぐシーズンが始まります。2月になればあつという間に過ぎてゆくのですよ。今が巧くなるときでもありますし、下手になるときでもあります。さて今年は何。

2004.1.25

今年というより、当協会にとっておそらく今までの歴史の中で最大のイベントであった創立50周年記念式典が1/24無事終了しました。これも皆様のおかげです。特に、若い人たちには、文句も言わずよく動いてくれたことに感謝いたします。彼らは僕たちの日頃見ていない姿を見られたことと思います。そして大きな節目に自分たちが遭遇したのだということをいずれは実感することでしょう。25年関わってきた私としては、自分自身が、これだけたくさんの人にお世話になっているのだと痛感するものですし、また時間とは偉大な生産をするものなのだと改めて敬意を払ってしまいます。

私はこうして生きていますが、今のところこれで良かったのだと思います。ただこれから先も色んなことがあるでしょう。

でも波風のない人生はありません。きっと。どんなことでも乗り越えていかなければいけないでしょうね。

明日は新しい自分になろう。今日の自分を少しだけ乗り越えた姿になって。

2004.1.6

もう2004.1.6となってしまうました。皆さん新年明けましておめでとうございます。今年は暖冬のせいか、正月は春先の暖かさでした。しかし、私は昨年末に痛めた右手が疼き今日は医者にゆきました。

関節炎を起しているとの診断で早速治療をしています。やや体が老化しているために関節関係の故障が目立ちます。素人判断は良くないようです。

明日は良くなっているのでしょうか？ そんなに早く良くなるはずもないですよ・・・。

年頭所感ですが・・

最近、日本は確かに物質的には豊になったけど、果たして幸せになったのだろうかと思います。いや、次第に疑問が膨らんできます。私たちの子供の頃は、あまり物質的には豊ではありませんでした。ちょっと前の中国と日本の関係で、アメリカを見て育ったと言っても過言ではないでしょう。しかし、日本はアメリカの形骸のみを模倣しようとしたのでは・・と今はそう思います。仏をつくって魂入れず・とも言いますが。昨今のアメリカの様相をうかがいますと、日本なら当然解散総選挙、国会空転などの議論が巻き起こりパニックになってしま事態が発生しています。イラク問題、狂牛病、サース、株価不安定、失業率・・・でも、平然としているといえば嘘でしょうが、それはそれ、といった感じを受けます。しかし火星探査機も成功したぞ！フセインだって捕まえたぞ！まるで巨大なアメーバのような多様な意志とエネルギーで動いています。いつもどこかを向いているのに、危険が迫ればベクトルを合わせて対処する・・ある意味では、各部分が他を認め合い、しかし批判をしてよりよいものを作り上げる原動力にしているのではないのでしょうか？日本は、それに比べると他を批判することで自分の存在を主張するだけ、自民党の今度のマニフェストは本来民主党が言ってきたことの「パクリだ」とかね、国会で堂々と党首が叫ぶ。それで良いではないですか？それが良いと思えば吸収してさらに良いPartyに仕上げていく。そして堂々とそういえばいい、だのにそうではないと否定するから可笑しいのです。

自民党は1枚上手かと思えば、子供の議論と反論しかできない・・・情けないですね。

これからの日本が強かに生きていかなら、あの北朝鮮のキムジョンイルに立ち向かっている人たちをご覧ください。彼らは究極の選択をいつも強いられている。しかしそこでの判断、明確な意思表示はどんな日本の政治家もやっていない明快な結論ではありませんか？自分たちの本当の要望は肉親の安全と確保です。しかしそれは逆に言えば、キム氏のアキレス腱でもあります。そこを命綱としてぎりぎりの外交をやっている・・誠に頭が下がります。私は何もできていませんがキム氏の屈服する姿が見えるような気がしています。

私は今50代に突入して本当に、今の日本の社会が狂っている理由がかいま見えたような気もしています。

日本人はもっと自分と周囲の夢を持たなくてはいけない。失ってはいけない。育てなくてはいけない。そして努力を怠ってはならない。

足下のぬかるみにばかり気を取られ、行き先を見失ってはならない。

今、私たちは若者たちに何を与えてあげているのでしょうか？明るい未来ですか？やりがいのある仕事ですか？先行き不安な社会の到来ではないのですか？それでは我々は彼らと永遠に同じ方向を向くことはできません。我々は後輩に何を伝えてあげられるのでしょうか。私は・・希望をあげられるよう努力したいと思っています。

やなせたかしさんの詩を・・

絶望の隣に
誰かがそっと腰掛けた
あなたの名前は何か？

私の名前は「希望」です

皆さんにとっていい年でありますように。

2003.12.21

今日は年末のミックス大会。参加者も寒かったわりには多くて楽しい一日でした。皆、今年にやり尽くしたこと、やり残したことがあるでしょうけど、それももう忘れましょう！！過ぎゆくものには実態のない記憶が残るだけです。僕たちに大切なことは、明日への準備とプランなのです。過去は、思い出に浸るものではありません。未来への情報なのです。情報を整理して明日のために生かしてこそ、過去は報われます。今年一年の整理の時期に入っています。来るべき未来をより素晴らしいものにするために、コタツを利用して下さいね。

ただ、今年一年知り合った方々、お世話をして頂いた方々、本当に有り難うございます。感謝は言い尽くせません。来年も宜しくお願い致します。

2003.11.10

雨が朝から降った市長杯でした。たくさんの市のかた方にお集まり頂き有り難うございました。何とか終了できて有り難く思っています。結果は、こんなこともあるのかというくらいの接戦でした。あと1勝していれば文句なく決勝に行けて、優勝も夢ではないことでした。でもそこが勝負の世界、何が起こるか判らないものでした。チームワークが取れていたかという、途中ちょっと不協和音が聞こえたりしてそんなことに女神は微笑まない・・・。勝ったときはダントツではなかった。でも何らかのまとまりがあったのです。そうしたこと無くして優勝はやってきません。僕も昨日は久しぶりに、団体戦のコーチに専念できたりして・・それも良いものかと思ったりしました。ホントに難しいモンです。あのテニスの20分の間にドラマがある。それは何とかして勝とう、どうやったら現状を打破できるかという人間の心の表れのような刹那の美学です。それだからこそテニスの魅力から離れられない。一度飲んでしまったこの酒の味は誰もが忘れられない媚薬なのです。

さあ、今年の大きな行事も終わりです。今年は、忘年会の日に広島で試合があるので、欠席となってしまいます。さて締めることができるのでしょうか？

ところで、ダブル前衛・・こんな言い方も妙ですがに挑戦してみました。あまり本気で取り組む人がいないのですが、僕は本来ダブル前衛が(ネットプレーヤー二人)やはり最も強い形であろうと思うものです。20年前こういつたことを提案したことがありました。前衛もサーブできる方が楽しいんだともいいましたが、当時は誰も賛同してくれませんでした。今は、前衛は昔の形に戻るのはずまらぬといひます。僕もサーブが2本ずつというルールが残るので、やっと納得したものでした。昔のルールに戻れば、やったでしょうか？今はそれほど前衛が面白いのです。

さてさて、どうなることでしょう／／／???

2003.11.4

昨日は文化の日、明治天皇誕生日でもありました。天皇が亡くなっていくたびに、記念日が増えていくのでしょうか？・・・と昔は思ったものでした。ただ、11/3は晴れの特異日とかで雨は少ないはずでした。昔から文化祭に雨が降った記憶はあまり無かったですけど。福山で行われる予定の井ノ口杯もここ3年で2回雨天中止と残念なことでした。タヌキさんはわざわざ東京から帰ってきてくれましたが本当に残念でした。10年ぶりくらいに組む機会ができて楽しみにしていたのですが・・・。

来週は市長杯、9市の大会となりました。きっと激しい今年をしめくくる大会に(団体戦)なることでしょう。

最後に来て、若い力の盛り上がりを感じます。やっと僕たちが(今のシニアのメンバーが)待ち望んでいた時代がやってくるのではないだろうか？・・・と。メンバー同士が信頼しあって試合にどんどん参加していくそういった雰囲気があります。これからは僕たちが融合して、色んなジャンル(年齢、性別)を充実させていければ良いですね。単一指向性から異方性へと広がっていきましょう！！

今、大阪府に欠けているのは新人や地元の選手を育成する風土ではないですかね。大阪府は少年女子は毎年インターハイ団体選抜と良い成績を収めます。少年男子も良い時期もありました。

彼らがしかし大阪でやらないのは何故でしょう。やってもいっこうに伸びないのは？？また外から良い選手もやってきますが、決してTopまでいかないのは？一体何故なんでしょうね。昔は・・・昔は・・・とかつての名選手たちはいます。でも時代の変化はあるのです。ただ、テニスをさせてくれる環境、中心になって育てていく人たち・・・いるのですかねえ・・・。大阪には変な流れがあります。主流でなければ何もない・・・。実力はあって、外で良い成績を収めても、大阪府の中ではただテニスをしているだけ・・・という風になってしまっている。テニスをしている人たちがそんなものですか？もっと仲が良く、主張は違ってももっと切磋琢磨していくものではないのでしょうか？そうならないと、他のグループや他の考え方を認めないと、良いものを生まれません。ただ置き換わるだけです。僕たちは小さな覇権の中でテニスをしたくないのです。もっと素晴らしいスポーツとして発展するために、せめてこの小さな大阪の中くらいはまとまっていきたいと願うものです。

まずは、八尾の力をまとめて大きな力にできれば、もっと大阪府全体も活気が出てくるのですが。

2003.11.2

今日は秋季B級大会でした。八尾からも男女5組が参加しました。今回も男女ともに入賞。特に女子は、TUKAMOが優勝してくれて本当に嬉しく思います。決勝は油井さんとのこと、これまた負けられない相手でしたね。でも不思議なことに僕はTUKAMOの大活躍した試合は見れていないのです。平成元年、インターハイ団体出場を決めた後藤-足羽との3番勝負も見ません。これもなんかの因縁でしょうか？でも良かった。大江さんとも試合前に話す機会があって、なかなか勝てないんですよ、と言っていたんですけど、吹っ切れたんだな・・・と思います。良かった。また次もその次も続けてください。日々の自分を乗り越えていく・・・これが大切なことでしょう。

2003.10.19

最近はずーとシーズンが終わりかけてちょっと体が疲れ気味なのか腰痛が出てきました。昔昔、練習を春先に急にやりすぎて動けないくらいになりました。それがとうとう一生のおつきあいとなったようです。一般の時は、走って筋肉を鍛えて腰痛を防止しましたが、シニアになって筋力は落ちる一方です。それに伴い結構厳しい痛みがやってくるようになりました。ちょっとつらいモンです。しかし休んでしまうとますます駄目になります。筋力を落とさないで何とか腰痛を防止する方法を考えなくてはなりません。誰か教えてくださいな？

2003.10.6

東京に出張中のタヌキさん、忙しく働いてますか？先日、落書き帳がさみしいよと言われまして、ここを見ている人もいるんだと思い、あんまり無茶苦茶も書けないなあと思ったものではありません。

いやいや、やはり街の声は大切だから、もっと書けとも聞こえます。少しは、ソフトテニス連盟も改革もしなければならぬでしょうし、何が大切かと判っていないと、そのうちこのスポーツそのものが無くなってしまおうでしょう。今何を継続してやるべきなのですか？中央の執行部の方々はソフトテニスのスポーツとしての年齢を考えたことがありますか？競技としての成熟性、指導の一般性、コーチ用語の統一など。誰もが最短時間でソフトテニスを理解し、競技し、楽しいと感じるようになり、そして続けること。

それが必要なんじゃないでしょうか？

私たちは、学校教育の場から、実際にソフトテニスが消えつつある現状を目にしています。長い間、学校のクラブに依存してきた時代は終わりです。それはこの社会が成熟し、平和になり、趣味が多様化し、基本的な(古典的な?)テニスなどはできればいいが遊びでいいというレベルで存在感を強めています。苦しいトレーニングを積んで一つの真実をつかむより、蝶のように咲いている花を次から次へと移り、浅いけれども囁っていく人生を良いと思う世間の風潮です。

今、本当に必要なのは何でしょう？どうしたら、今後も良い選手を生み出せる土壌に創り上げられるのでしょうか？

2003.10.5

秋らしい天気が続きます。この10日くらい肌寒さが増し、今日はとうとうトレーナーを取り出しました。彼岸が過ぎると季節は正直な物ですね。八尾市を流れる玉串川沿いに、やや盛りを過ぎた彼岸花が咲いていました。25年も八尾にいますが、見たのは初めてでした。ざわりと心が揺らぎ、突然田舎の風景が浮かびます。・・・ホッとした一瞬でした。

さて、本日は加盟団体選手権、C級とAベック優勝です。選手の皆さんご苦労さん、そしておめでとう。今年は、一般男子がとても頑張りいい成績を残しています。団体戦は今年あまりいいところが無く、正直「発展途上だからなあ・・・」と思っていたモノでした。しかし、今日の成績を見て、ここ数年やってきたことが無駄ではなかったのだと思います。協会の若返りをかけた、HP開設と指導層の交代は、新生八尾市ソフトテニス協会を力強く太い新しい体に作り替えました。若い人たちは色んなことを考えてクラブをやっているわけではないでしょう。とりあえず自分がテニスを楽しみたい・・・それでいいです。そうしているうちに、ここが自分の居場所だと思えば一緒に苦労もしてください。それまではひたすらテニスの真実を求めてくれればいいです。

継続は力なりです。継続とは心に他ならないです。activeなdynamicな心が素晴らしいものを生み出してゆくのだと信じています。

まだまだ、八尾には可能性があります。若い人たちと、今のシニアの関係は極めて良好でしょうか？世代の断絶を超えて、同じ趣

味と同じ時間と同じ場所を分かち合っています。これから生み出されるものは僕にも想像できませんが、なんだかワクワクする集団になっていきそうな予感があります。またそうして行きたいものです。

2003.9.28

9/27-28と大阪北村テニスコートへ全日本選手権を見に行きました。さすがに各都道府県から選ばれた代表選手だけあって、皆さん上手です。この大会にける気力も素晴らしく、迫力に圧倒されっぱなしでした。現行の国際ルールも10年たって定着し、セオリーも皆頭の中にできてきて、選手と技術が一致してきたなと感じてきた今日この頃…。しかし、来年からは新ルールでいくようで、また新しいセオリーを作らなければなりません。今日、吹田クラブで練習して、新ルールを2試合ほどやりましたが、何がいのかわからない状況です。はっきりしているのはサービスの確率を上げたほうが勝てそうだということです。

2003.9.20

気象の異常は9月になっても続きます。残暑は厳しく、夏が1ヶ月ずれたみたいでした。秋の大会もどんどん進行して、気がつけばもうあとわずかで終わりです。以前は、八尾市長杯が終わりの大会となっていました。今はその後も試合が増え、シーズンがほとんど無い状態です。インドア、オムニ、合成樹脂ストリングスの普及は冬と雨の季節を無くしてしまいました。

反面、膝への負担、気温の上昇(地球的な原因)による夏季日中での試合の過酷さはクレコートとは比較にならない程厳しいものがあります。また、季節感のなさから十分な冬季のトレーニングができず、故障も多いようです。楽しいはずのテニスで、重大な障害を負ったり、究極では死亡もあり得ます。自分だけの思いこみや、過去の経験に頼らずもっと体のことについて勉強をしましょう。データがあれば載せていきます。

さて、八尾市長杯が11/9(日)、そしてそれが終わればいよいよ、2004.1.24(土)の50周年記念式典です。それに向けて皆さんの一致団結と協力をお願いします。

これを読んでくださる皆様も支援をお願いします。

2003.9.8

昨日仙台から帰ってきました。今回は自分の思うようなテニスができず完敗。後衛さんに悪いことしました。そのおかげで、自分のテニスしか試合にいても考えてませんでした。昨日は皆さんの試合をじっくりと観戦しました。そのおかげで色々なことが見えもしましたし、悔しさも次第に膨れあがってきました。来年勝つためにどうしようかと、密かに決意をしたものです。少し弱気にもなった今年、思うように練習ができないいらだちや、アクシデント。本当に苦しいことが多いですが、これもまた試練でしょう。

2003.8.17

お盆休みも、きょうで終わりです。今年も夏は色々ありました。

合宿は結構楽しかったですね。とても歓待して頂きましたし、岡山の皆さんに感謝です。中学校大会は、少し全体的にレベルが下がってきたかなと感じています。中学校の指導もいいタイミングなのかも知れませんね。また男子は2校しかありませんけど、いい選手がたくさんいました。火を消さないよう先生も頑張ってください。お願いします。

今年は、団体戦の成績があまり良くありません。勝つことだけが目的ではありませんが、勝つこと、勝ち続けることでしか得られないものもあります。勝つことで自信となり、勝者の責任とプライドとなり自分が成長していく引き金となると思っています。

今、若い人たちが集まってきてエネルギーがあると感じます。でも、まだ自分たちから目標を持ってそのために技術を上げようとしているのではないようです。テニスができる場所と仲間が見つかって楽しんでいる段階ですね。レクリエーションサークルと目的意識を持ったクラブとは違うのです。

少し意識を広げてください。でないともったいないじゃないですか？せっかく休日のほとんどをテニスに使い消費しているというのに…。

2003.7.21

今年も、何とか総体予選を勝ち抜くことが出来ました。選手の皆さん、ありがとうございました。また8月の本選目指して、頑張りますよ。

団体戦の緊張感、疲れるけれども、また楽しいものです。

もっと大きな喜びが得られるといいですね。

さて、今年の合宿の季節がやってきました。私の独断と偏見で、合宿場所はいつも決めさせてもらっています。それなりに良い環境で、皆さんいろんな意味で楽しんでいると思います。今年もまた、私の友人のところでもやることになりました。

ゆったりとした自然の中で、歴史の中心として栄え、今は静かに休息している町の趣を感じて欲しいなあと思います。

それにしても 梅雨はまだ明けないのでしょうか？ ちょっと遅いぞ、風神、雷神様！！

2003.6.29

雨の多い今年です。6/28土曜日は雨天にかかわらず、多くの仲間が集まってくれました。でも途中で降雨中止でしたが、オムニコートとストリングスの改良で僕が子供の頃とは違って、ほとんど雨天中止というのが無くなりました。時代は流れてゆくものです。これから、行事が続きます。西日本(シニア)選手権、総体予選、中学校大会、合宿、吹田市長杯、高校生大会、全日本社会人、全日本シニア、…もう今年の予定はほとんど立ったも同然です。

来週からジュニアのスポーツ教室をやりますが、同時に一般スポーツ教室もやります。

分担をして指導をお願いします。

ちょっと大変かな？

まあやってみよう！！

2003.5.18

先週の日曜日は雨中の市民大会。皆さんよく頑張りました。怪我が無くて何よりでした。今年は週末土日のどちらかが雨が降るといふ天候です。あまり覚えがないくらい雨が多いですね。今年はきっと水不足は無いですよ。

今年度は、ソフトテニスを見つめ直そうというのが、協会のテーマとして掲げたものです。それは50周年を迎えたこの協会のあり方、方向性でもあります。

自分たちがやってきていることがこれで良いのか？それとも修正した方が良いのか、はたまた解散して最初から作り上げた方が良いのか？そんなことも考えます。壊すことは簡単です。でも作り上げることは容易ではありません。少なくとも、一つの形を僕は自分なりに育ててみたいと思うのです。

人が少なくなっているのは、やっぱり努力が足りていないのではないですかねえ。趣味やスポーツの多様化、拡大化のわりに今のものを継続させていく努力はむかしのままでは衰退もやむを得ないでしょう。バレーボールや野球でもそうです。もう一度やり直しましょう。

中学校の指導は良いことだという割にはやれてません。継続の努力をしましょう。

小学生も今年2回ほどやりたいのです。

一般の教室も発展させたいし・・・色々やりたいことはあるのですけどね。

皆さん手伝ってくれますか？

2003.4.6

今年最初の大阪シニアの個人戦。そうそうたる年配の仲間入りをしてはや5年。皆さんうまいですね。

タヌキ・カモシカペアが45準優勝で良いスタートでした。僕たちも頑張ろう！

2003.3.22

昨日はキャプテンの初の試みで、テニス以外で親睦会をとパーベキュー大会。最近は何週も続けて週末が雨でした。しかしなんと快晴、これ以上ない日和で複雑な思いもありましたが、久々にテニスをしない休日というのを味わいました。そういえば昔にこんなこともあったなーと・・・

子どもたちと遊び、ゆっくりしているうちに4時となりおなか一杯でした。が・・・でも夕食を食べてしまう自分が怖いですねー。

そして今日はお約束通り・・・雨。それでも僕たちはめげないでテニスのできる場所を探しました。

何とか教育センター(市立体育館)で2時間半ほど汗を流しストレス解消です。

今日は来年(2004)からの新ルール対応ということで練習をしてみました。やはり中途半端な位置はだめなようです。

旧ルールのように、前に詰めるのが正解なのでしょう。

後衛が前に出て守るのは、本気で攻められたとき難しいですね。でも後衛が前に出なければレシーブ側は完璧な攻撃の位置取りができますし、こうなった時サーブ側はポイントは取れなくなります。課題は前衛のサービス時にどうやってポイントを取るかでしょう

よく考えましょう。！？！？！

2003.3.15

もう3月も半ばとなってしまいました。それにしても今年の冬は長かったですね。そしてとにかく週末に雨が多い。今日の土曜日は久しぶりにトレーニングに行きましたが実に体が硬くなり、腰が痛くて水中の運動に急ぎょ切り替えました。

ホントにこれからは準備運動とストレッチが大事なんだと思います。

怪我しないように頑張ろうね、皆さん！！

2003.2.14

今日はバレンタインデーです。贈る人も贈られる人もそれは嬉しい一日です。この日があるのを知ったのは中学2年生の時でした。当時はまだあまり知られていなかったこの習慣もいまでは一大イベントになっています。これもチョコレート屋の陰謀が見事にあたったモノです。大阪に来て節分の日に巻きずし1本、吉方に向けて黙って丸かじりするというのは、さすがに笑ってしまいました。これも後で聞いたら寿司屋の陰謀だとか・・・でも、笑いながら毎年寿司を買ってくる、幸せな日本人なのですけど・・・。最近やっとHPのメンバー一覧を更新しました。一年があつという間ですし、このHPを公開してからたくさん仲間が増えました。いまでは練習するのにもコートが3面では足りなくなってきました。4面位が必要です。都会のクラブはこのあたりが難しいところで、テニスコートがふんだんにある地方が羨ましいところです。

しかし、何とか工夫をしてこれからも新しい試みを増やしていきたいと思うのです。

今日は、佐賀の小城クラブから春の大会の参加申し込み用紙が届きました。

残念ながら、あまりにも遠く、おそらく参加される方はないだろうと思います。

でも、どうですか？遠くの仲間たちができる喜び、どこにでもテニスをこよなく愛する友人がいるだけで幸せな気持ちになれるのです。年に数回か遠くの人たちに会えてニコッとするだけで分かり合えるそんなアマチュアスポーツがいいですねえ。

2003.1.15

昔なら成人式だなぁと思う人はもうすでに過去の人でしょうか？成人の日にはラグビーの全日本選手権があつてなんかこう決まった行事がいつも繰り返されてきた。それが今はどちらもなくなってちょっと寂しいのは僕だけでしょうか？

正月も今年初めて起きてTVをつけても琴の音もなければ日常と変わらない空気が流れていた。

そんな世の中が良いのだろうか？そんな世を僕は求めているのだろうか？と自問しています。

会社にしてもそうです。子供の頃、仕事は楽しいもの、素晴らしいものと思って求め続けてきたのです。どこまで行けば本当のものが手にはいるのだろうか・・・という好奇心と探求心があるのですけど、その裏には面白いという、こころをワクワクさせてくれるものが

ありました。今もないとは言えないのですが、大部分は日常を処理する事で過ぎてゆきます。それどころか苦しみさえもがあると
きもあります。

でもそれはやっぱり間違っていて楽しいものなのでしょう。

時々原点を見ます。テニスでも同じ事が言えます。クラブにがんじがらめになったり、人間関係で悩んだり試合で負けが込んで立ち直れないくらい落ち込んだりすることもあります。

でも、と思うのです。テニスを始めたときそんなことはなかった。白いボールを追っかけて夕日と格闘していた頃はそんな事なんか心の中には何もなかった。自分がボールを相手のコートに返すことだけを考えていたんじゃないかと。

もっと無心になったら、きっといい人生がテニスと共にやってくるのではないのでしょうかねえ？

2002.12.31

いよいよ今年2002年も終了です。大晦日を迎えました。1年も長いようで短く、短いようで長い。内容のあった年でした。しかしどういう風に変っていくかもわからない時代です。明日のことはわからない・・・でも Tomorrow is another day ! 新鮮な気持ちで生きていきましょう。

今年は役員の皆さん、選手の皆さん、裏方さん、皆さんご苦労さんでした。皆さん協力とたゆまぬ努力とでやってきた今年はいつもの年以上にいい年だったと思います。また来年も宜しくお願い致します。

2002.11.12

市長杯が終わり、すこし気が抜けました。今年は準備も十分やっていたので割とスムーズでした。お手伝いの皆さんのおかげです。しかし優勝できずすみません。アブナカシイ試合をしてしまい、反省しています。見ている人はそれなりに楽しかったでしょうか？

これから締めくくりの大会が1つ2つ残っているでしょう。その試合を通して、来年につなげてください。また来年楽しくテニスができるために！

2002.11.09

丁度、1ヶ月たちました。明日は八尾市長杯です。どうやら天候も大丈夫の様子。最終の団体戦を、お世話になった他市町村の皆様と親睦を深め、かつ技術の向上を確かめ合って終わりたいものです。

12市町村集まっていたら、有り難く思います。天候はいいようですが、強風と寒波が訪れないように祈るものです。

さて、今年もいろいろありました。振り返るとたくさん行事があるのですが、まだまだ中途半端にやり残しているものが多いことに気がつきます。例えば、①中学校の練習会、審判講習会、技術指導を通しての交流を深め、底辺を安定化させる。八尾市で中学校のソフトテニスクラブの数が激減しています。これは、単に学校や先生のせいでもなく、われわれ先端にいるものが継続の努力をしてこなかったところに大いに原因があるでしょう。かつてソフトテニスは800万人の愛好者がいると言われ、当時(硬式)テニスはその半分の400万人もいないと言われました。1960-70年代のことです。その当時に中学校、高校生であった年代が今のシニア45以上の人たちです。精神的にも、技術的にも厳しい競争があり、逆に指導は満足になされてもいませんでした。しかしその中でソフトテニスの完成に向かって各の独自の理論で努力してきたのだと思います。その時代は日本の歴史でいえば戦国時代、群雄割拠の時でしょうか？どこに行っても素晴らしい人がいたものです。それこそ第1シードのパッキンから優勝してしまうことが結構ありました。でも今はそんなことはないでしょう。その時代の人たちにとって、ソフトテニスは、野球、剣道くらいしか知らない子供にとっては魅力のある新しいスポーツだったのです。丁度今の子供達がサッカーやバスケットボールに群がるようなものです。

丁度、テニスはプロ化が進み、TVでもどんどん放映され、あれがテニスだと一挙にソフトテニスから硬式テニスに目が移りました。スター選手の群出はテニスの隆盛を揺るぎなくしました。ローズウォール、アッシュ、コナーズ、ボルグ、マッケンロー、エドバーグ・・・切れ目なく続くスター選手の出現はそのままテニスとソフトテニスの隆盛の差を物語っています。

八尾市でもかつて各々男女のクラブが各校揃っていました(14校)が、今では男子2校、女子7校となってしまいました。ここで我々が何かをやらなければ本当に絶えてしまうのではないのでしょうか？

教育が地域との一体感を持たねばきっとだめになってしまうでしょう。ソフトテニスに関していえば、今まで年1回の中学校大会を通してしか交流がありませんでした。これは、先ほどの時代で言えば、戦国時代。それは何もしなくても自然と優秀な人たちが湧き出てくる時代です。

でも今はそうではない、継続の努力が必要とされる時代です。太平な江戸時代でしょうか？

最近の子供は、と良く言いますし、言われます。しかし、僕たちは彼らに本当のテニスの面白さを共有するまで同じ次元で向き合ったことがあったのでしょうか？おそらく戦国時代の考え方で、ここまでは上がってこい！といった教育をしてきたのではないのでしょうか？

面白くて人の集まる遊びが氾濫している昨今、それらを渡り歩けば何となく時間が過ぎて楽しく過ごしてゆける。でも壁に当たったらそこで終わり。乗り越える努力をしないで次に行く。この繰り返しをさせているのも我々です。

それは、時代をつくっているものの責任だと思うのです。少なくとも今の時代を担っているのは我々40-50代です。今我々がやらなければきっと後悔するでしょう。

今年、中学校大会で担当の先生に、来年から講習会を年何回かやりましょうということになってましたが、シーズン中でもありそのままです。

今年の冬はまずその件を考えたいのです。八尾市の中学校の先生方、もしHPをごらんでしたらご意見をお願いいたします。

それから、ジュニアの育成。他市の状況を見ていると、努力と汗は報われるということを痛切に感じます。

来年度、ジュニアの教室を開始したいと思っています。まずは興味を持たせるところから。

もっとあるのですが、またこの次に・・・。ご意見のある人は、掲示板に書いてください。

2002.10.09

今日、会社で「年賀状の予約はどうですか？」と・聞かれ、ああもう年末が近いのだとしみじみ。また一年が暮れていきます。今年は皆さんどうだったでしょうか？それは自分自身の中にあるものですね。管理人は、やはり目標が達成できず残念です。反省すると、努力不足でしょうね。やることも分かっているけどできていない。準備が不足していました。もう来年に向けて準備をしようと決めています。しかし具体的にはまだグズグズしています。これがイカンです。思い立ったらすぐやる。さて、今年はまだ終わってなくて、11/10八尾市長杯を勝ち抜きたいと思います。新旧の戦力で最後に笑いたいものです。皆頑張ろう。

2002.9.21

大阪もすっかり秋です。彼岸になると花は咲き、風のおいと温度がちがいます。今年は台風もやってこないで水不足になるのではと今から心配ですが・。節水しましょう今から！！ローカルの試合がどんどん入っていましたが、そろそろ打ち止めでしょうか？秋ですね・。これからは来年のことを考えて行く時期ですかね。冬には当協会の50周年記念事業をやるのかなと考えてますが、まだ何もかも白紙です。頭が少し痛いです。テニスの方が楽かなあ・。？

2002.9.1

8/30より神戸市ではシニア選手権、福井では社会人選手権が開催されました。近いこともあって、当協会からもシニアの部には多数の参加がありました。初めて参加された人はどう思われたでしょう。私は、やはり全国のテニスは色んな人がいて、面白いが難しいと思います。知らない人とやるには自分の持っているすべてをぶつけていかなければ勝てないですね。決して難しいことではなく、平常心であること、集中すること、感性と理性と感情をバランス取りながら高めていくことですね。シニアの45は今まで2連覇は誰もやっていません。今回、谷尾さんが前衛を変えて4年ぶりに2勝したのが珍しいものです。昨年のチャンピオンも昨年ほどの切れがなくベスト8で消えました。めばしい新人達もベスト8までで姿を消し、常連の人たちが上位に食い込んでいます。今年から参加の篠辺・石井組は一流選手の切れとテクニックを見せてくれましたが、小技を完璧に決めるだけの域には達していないようです。谷尾組には完敗でした。この試合を通じて分かったことは、自分に勝ち、自分を貫き通すことです。言葉を換えればマイペース、でもそれは勝手にやるというものではなく、調和です。そして、テニスは4人でやるもの、またペアで戦うものということも教えられる。個人の技量はおそらく篠辺組の方が数段上ではないでしょうか？でも彼らのテニスにはペアでポイントを取るという思想は感じられなかった。個人の能力でねじ伏せようとする感じであった。石井選手のポイントは1本のみ。篠辺選手が正攻法で攻めた4ゲーム目のみに現れたポイントだった。それ以外に彼が篠辺選手の打球による恩恵で上げたポイントもなく、早くいえば浮いていた存在だった。彼がだめだとかいうことではないのです。そんなことを言っているのではなく、彼らは今回コンビネーションが取れるほど練習しているとは思えないのです。それに対して谷尾・杉野組はしっかりと役割分担ができていたと思う。杉野選手はポイントよりもポジション優先型の選手で、コースをふさぐ技術はおそらく今回の前衛の中ではNo1でしょう。取りに行くのも勇気が要るが、行かないことはもっと勇気が要ります。かといって何もしないわけではないのです。行くときは行きますし、十分に守っている。谷尾選手は杉野が作ってくれたコースに集められたボールを自在に扱います。もちろん打球力やしのぎの技術、つなぎの球も上手くその上に成り立っている信頼関係だとは思いますが・。その差は歴然と感じました。一般、成年と自在に扱う篠辺選手が焦りバランスを崩してゆきました。余裕がなくなってしまえば、彼もただの人です。勝負事とは恐ろしいものです。試合は勉強になります。でもやはりチャンピオンテニスはするものです。見るものではありません。次はチャンピオンになろう！！

2002.8.27

クラブの目標の一つである大阪総体が終わりました。男子は3位でした。やはり色んな運と実力のバランスがとれていました。女子は残念でしたがもう少しだと感じました。混戦の女子で勝つにはメンタルタフネスが要求されるようです。さて色々行事の多い夏も過ぎていきます。バテないようにしましょう！！今週末から神戸と福井で全日本シニア/全日本社会人とあります。いい成績を期待しています。

2002.7.30

今年の夏はアホみたいに暑く、やたらと台風はくるは・なんかこうヘンですね。季節感を結構感じやすい好きですが、今すでに秋を感じているのは僕だけでしょうかねえ。今年の7月は沖縄の西日本に始まり、総体の予選、中学校大会、合宿と結構厳しく駆け抜けてきました。充実した人もいるでしょうし、僕のように脱水症と痙攣に気を配っていて、ちょっと引いてしまっていた人もいんでしょうね。さあ、8/1から体育館で八尾市のスポーツ教室が始まります。今年は何名集まるのでしょうか？夏だから少ないかな・なんて思いながら。さて、今回の合宿は久しぶりに岡山から抜け出して、神鍋高原でやりました。ある種リゾートとして遊びに行くのはいいのかな？でもテニスの合宿としてはちょっと苦しそうでした。お風呂とか洗濯とかがもっと自由でなくてはね・。でも今回は指導部とかなちゃんにはほんとに大変な思いをさせてしまったなあと感じます。ありがとう。特にかちゃんは感謝です。また、多くの外部からの参加者もいて皆さんどうだったでしょうか？物足りないと感じた人もやりすぎたという人も、飲み過ぎたという人もいていいのですよねえ。今回子供達はイモリやトノサマガエルなんかを手にとって大はしゃぎ。どろんこになっていい夏休みだったのでしょうか。さて、皆さん、夏はこれから・。まだ吹田の団体戦、高校生大会、大阪総体、そして全日本シニア、全日本社会人選手権と続くのです。そして9月になれば大会は目白押し、休みどころではないですね。さあ・ふぁいと。

2002.6.1

梅雨入りが間近なような空模様と湿気です。昨日からサッカーワールドカップも開催されました。番狂わせも早くも起こっています。確かに素晴らしいスピードとコントロール。組織力と個人プレーの融合。体力と運動能力の高さを感じます。Jリーグを見てると子供に見えてしまうのは僕だけでしょうか？ただ、小野や、中田など一部の選手はの中で対等にいけるのは素晴らしい。となると、全体のレベルがちがうのでしょうか。サッカー風土が日本にはまだ根付いていないからでしょうか。野球ではイチロー、野茂、新庄、石井、伊良部、佐々木、長谷川など色々なクラスの人たちがリーグに入り、ほとんど日本と同じ実績を残しています。その数値から判断すると、もはや日本のリーグと大リーグとは選手の力的には変わらないといえるのでしょうか？でも、彼らはそろって「大リーグは素晴らしい！」といいます。そこには大リーグを育てているUSAの風土が日本よりまだ優しく、暖かいものがあるからなのでしょう。サッカーに於いては、日本でのこのワールドカップで、ギャップを強く感じるのではないのでしょうか？だめだと思ふか、なにくそと思ふかは、サッカーをやる人たちの今後にかかっています。テニス後進国といわれた日本でも女子ではそここのレベルまで全体は上がりました。本当のスーパープレーヤーは伊達くらいだったのでしょうか？

さて、我がソフトテニスは？残念ながら、テニス風土が育っているとは言い難いのです。マニアックともいわれます。中学校を卒業したら、白いボールから黄色いボールになるんだらう？とも言う人もいます。それくらい社会と一体感のないスポーツなのです。このスポーツを一気に世界のメジャースポーツと肩を並べるようにするには？本当はオリンピックの種目にならなくてはだめでしょう。もし、日連がその気があるなら、2008年北京オリンピックに公開競技でもいいから、取り上げられるように努力することでしょう。アジア大会に参画できたあの意気込みでやって欲しいものです。

我々にできることは、ソフトテニス風土をつくること。いい風土をつくっていききたいと思ひます。

2002.5.28

練習不足だと自信がない。自信がないとどうもやる気が失せる。・・・などという繰り返しで試合に最近では負けてばかりです。でも、めげないぞと頑張るつもりです。テニスコートに行っていないと、なんか取り残されたような感じも受けます。でもいけるときはカンパロウと思うものです。

2002.5.1

今年の成績の欄を見ますと、本当にいい成績が納められるようになってきました。今年、就任してもらった新役員達の方でしょうか？！それとも会員達のたゆまぬ努力が花開いてきたのでしょうか？どちらでもあると思ひます。それが団体としてのパワーでしょう。これからも目標を高く掲げて頑張らましよう。

さて、先日八尾市の体育連盟の理事会に出席しました。昨年度の決算、今年の予算と決まりました。昨年と同じ予算で決着しています。今年も近郊各市との親善試合、総合体育大会、市民大会、インドア大会、スポーツ教室、中学校大会、シニア大会が組み込まれています。協力よろしくお願いします。なお、昨年の大阪府総体は総合で八尾市7位(男子:6位/女子:8位)でした。ソフトテニスは男子3位に入賞しました。中河内は男子 東大阪;優勝 八尾市3位とレベルの高さを誇っています。昨年の選手の皆さんご苦労様でした。今年も頑張らましよう。

最近の会員の増加は嬉しいことです。幅広い層の人たちが集まるようになり練習も十分できないのではないかと・・・と嬉しい悲鳴です。コート3面を確保することがどうやら本当に必要になってきました。何とかしてコート確保と経済的には今の範囲内でやっていきたいと考えています。

また、当協会の目的は大会成績を上げることだけではありません。幅広く技術を錬磨しテニスを極めることも大切ですし、健康維持と楽しく趣味としてのテニスが続けることもまた一つのあり方です。どうしても結果は試合によって判断されますし、解りやすいものです。ただそれだけではなく試合とは別の次元でテニスを大切にしている人たちに、いつもテニスを遠慮しないでやれる環境をつくり優しいテニスの活動をしていただきたいとも思ふものです。

2002.3.29

明日は今年の最後を締める理事会です。我が協会が成長を続けていくために若い力を導入し、新しい船出をしたいと思ひます。

成長する会は自然とはありませんが息づいています。どうか良い意味での大きなクラブができますように。時は来た。若い人たちの情熱を信じています。

2002.3.13

本日は、管理人と会計部長のbirthdayです。ここまでケガ無くやって来られたものだと運命に感謝しております。明るい日差しがコートに戻ってきました。春に生まれたせいかな、この時期の加速度的な変化が好きです。時として心が取り残され、独りぼっちになってしまうような時間とのギャップもまた嫌いではありません。田舎では家の周りに黄色のラッパ水仙が咲き春を告げます。そんな古里はやはり懐かしいもので、時を止めます。

さて、感傷はそれくらいにして、春先のテーマとして今年はどういった目標で協会をやっているかと考えます。個人の考えや動き方はそれぞれに任せます。しかし一つのチームとしては共通の目標が大切でしょう。

今年は、我が協会の50周年という節目を一つの目標にしたいと考えます。歴史があるのは素晴らしいことです。その歴史を大切にさらに飛躍するために流れを書き留めておきましょう。我々が参加した25年とその前の25年の記憶があるうちに。もう一つは、協会も活動、スタッフを一新して若返りを図りましよう。どこのクラブも自分たちと次の世代の交代が問題です。誰でも自分たちが楽しみたいと思っています。しかし時代は変わります。クラブの中心はやはり一般、成年です。その世代が活発に動けるように、先を歩むものは考えなくてははいけません。その世代でなくてはできないことをやれば自然と色々な世代が共有できる空間が維持されると思うのです。多種多様な年代が共に一つの目標を持って共存できるそんなクラブになりましよう。

2002.2.25

先週木曜日に東京に行き、ああ春がきたのだ・・・と感じました。すると土曜日に大阪でも、岡山でも同じ空気を感じました。もうすぐそこまで来ているのですね。いつもこの時期にケガを最近します。注意していても張り切りすぎるからでしょうか。体の準備がま

だできていないんだと言い聞かせてセーブしてやってください。

2002.2.10

今日は、全日本インドア(大阪インドア)があり、大阪市立中央体育館へ行って来ました。気づいたことはいくつかあります。今年に入りが少ないなと感じたことと体育館が寒かったなということでした。10年くらい前、旧中央体育館で行われていたときは心底冷える寒さで体がガチガチだったものでした。新設工事の間、府立体育館で数年、そして新体育館へ移り、体育館が何とも快適な印象でした。今年は長引く不況の影響で、ついに連盟も暖房を切ったのかな？と思えるくらい午後から冷え込みました。旧体育館は3面であり、リーグのブロックは4でありました。各試合をローテーションして3コートで行うためにどこに座っても選手が1回は自分の目の前でプレーをしたものです。しかし今は4面でブロックを固定してあるので何とも味気ないものです。最初から試合面を固定してあれば選手はいいでしょうけど、観戦者には少しどうかというところ。それほど大したことはないと思います。来年からは、そういった優しさを盛り込んだ運営をしていただきたいと思います。それと非常に気になったのは、審判が少し年齢が高いということです。また男子の審判に女性が入っていました。こんなことを言うては男女差別と怒られるかもしれません。しかし、差別と区別は違います。明らかに女性は男性に比較して動体視力は劣ります。また、年齢によっても男性も衰えていきます。今回の審判の方々はどう見ても成年以上の方々、私の存じ上げているすでにシニア55歳以上の方も何人もいました。その方達の審判がなっていないといっているのではありません。あの一般男子の速い球を正確にジャッジしろという方が無理なのです。明らかにアウト、インの判断ミスがかなりありました。

この大会が、全日本インドアと名打ってあるもっとも権威のある大会であることは全国のソフトテニス愛好者なら誰でも知っています。そして連盟の方々もそれを誇りにしていられるはず。それならば、なぜ大阪にある学連や一般男子に審判を依頼しないのでしょうか。学生は今シーズンオフで2月いっぱいはこの大学も学生を練習で束縛してはけません。私は大阪連盟と学連の間はよくわかりませんが、客観的に見たところ、感じるどころ、交流は無いように思えます。なぜなら大阪の選手権に学連からは参加は皆無です。また国体への参加の予選の選手も殆どありません。連盟が次の(次年度)国体の為に学生を強化したという話もありませんし、教員枠を広げたと、市役所やメーカーへの働きかけを行ったという事実も聞いたこともありません。直接的なサポートは難しいとは思いますが、しかし、それ以外のサポートももっとできるのではないのでしょうか？どうか、権威のあるこの大会をその権威と風格を維持するために若干の改革をするべきではないのでしょうか？是非とも来年は、審判は大学生や一般男子で行うように努力してみてください。支部の一會員の意見としてお聞きいただければ幸いです。

2002.2.2

最近週末に雨が多いですね。今日は仕事でしたので、それほど気にはなりませんでしたが・・・。晴天だったら、恨めしいものです。そろそろ、春先の試合の予定が聞かれる頃になりました。プロ野球もキャンプが始まり、腰を上げなくては・・・。足、腰のけがは、命取りですからね。

2002.1.27

あつという間に1月も終わり。1月は行く。2月は逃げる。3月は去る。昔の人にもやはり時間の感覚は同じだったようです。最近では南紀和歌山での菜の花や沖繩の桜便りが聞かれるようです。大阪では各市でインドア大会が開催されています。インドアは嫌いという人も多くですけど、私は、前衛にしてみればインドアは面白いものだと思います。また楽しむという観点からは、アウトの試合よりも見るに耐えるだけのスポーツとしての面白さもあると思います。前衛の駆け引きからスマッシュが中心になるゲーム展開はおそらくソフトテニス知らない一般の人でも興味は結構あると思います。最近ではGAORAというケーブルTVで月に3回ほどソフトテニスをやっています。それを見た硬式の愛好者たちからも、結構面白いとの声を聞きます。この20年、全日本インドアを欠かさず見に行っていますが、やはり上級者たちのプレーや心理状態がよくわかり参考になります。ルールが変わる前の時代は、今から言えば職人の世界。ルールが変わった10年くらいは新しいセオリーを求めた模索の時代。昨年くらいから、やっとルールが板に付いてきたなという印象です。今年も日本の最高峰の試合を求めて行きます。ちなみに私が見た、全日本インドアのベストマッチは1982. 2. 7に行われた男子決勝「木之村・大木 ⑤-3 木口・横江」であったと思うのですが・・・。

2002.1.7

皆さん新年明けましておめでとうございます。何がめでたいのか、新年になるとさういってへそを曲げた時期もありました。今は、新しい年になりいろんな意味で、気持ちや悪習を精算してまたスタートを切ろうということに素直になれる。いつも果てしない苦しみがあったとしても、12月31日の除夜の鐘とともにさっぱりと洗い流して気持ちを新たに何かをできる・・・なんと素晴らしい、なんと潔い決別のしかたでしょう。人間がいつの間にかこういって割り切りが簡単にできれば悩み事や事件はおそらくもっと少なくなるのでしょね。テニスやその他のスポーツ、勝負事では、いつの間にかこの刹那の判断力が要求されます。テニスの場合、その試合はある意味ではその時までの、その人の人生が出ると言われる。たかが遊びにそんなことが有る訳がないと言った有名選手もいますが、私はそうは思いません。いろんな場面での自分の割り切りや勝負への決断の時、思い返せば、やはりそれまでの自分の技術力や体調だけでなく、それを支配している精神力が大きなウェイトを占めていると思います。勝負事は気が強く、大きくなればきっと勝てないでしょう。自己暗示で自分自身を左右できるほど強い二重人格者ならば話は別ですが、ただ、人は変わることができます。いつもポイントで弱気になってしまう人や、自滅してしまう人、勝ちを意識したとたんに、体中が石のようになってしまう人をよく見かけます。自分自身もかつてはそうでした。今の自分がどうして昔ほどひどい症状がないかというのは、おそらくは年齢のせいもありますし、いろ

いろいろ抜けてきた経験もありますし、一言では言えませんが今の仕事などから得られたものも非常に大きいと思います。ただ、これはあくまで練習量に裏付けされた自信もありますのでそれは基本的なものと言えます。でもやはり勝負事は怖いものです。刹那を刹那でしか感じられないならそれで良いでしょう。でも人間は時間の長さをどうやら自在にコントロールしているものようです。一瞬に無限の時間を生きているのかも知れませんが、10年が一瞬であるかも知れません。人は年数で生きるものではなく、その時間の濃さ、重さで生きるものなのでしょう。

いまはそう思います。

人は進化し続けます。だから昔の相手がたとえ弱かったとしてもそれは思い出でしかありません。自分が無作為で相手が努力家ならそれは推して知るべしです。僕もそれを信じてがんばっているものなのです。

人は無限の時間を生きることもできるし、短時間で急速にうまくなることも可能です。同時に進化し続ける人を既成概念で決めつけることもまた間違いなのです。人は刹那のなかにこそ真実を見つけるべきものなのです。

2001.12.12

あつという間に12月・・・も中盤にさしかかってます。忘年会も終わり、今年もあわただしく駆け抜けたというのが実感です。このホームページを立ち上げてから確かに更新やリニューアルなどで大変なところもあるんですけど、良いことなのだと思います。知らない人たちが、見ましたよと声をかけられ、テニスをやりたいという人たちが集まってくれて、そしてそのきっかけとなり、クラブの仲間たちは情報を共有しあい、話題が増えていったようです。

今年は、確かに雰囲気が変わってきました。全体的にまとまってきましたし、前向きに何かをやっていくという感じがします。

20年くらい前、遠い遠い昔のようですが、やはりそんな時代がありました。そのときに似た躍動感を感じるものです。これが来年もその次も続いていくことを切望しているものです。

2001.11.29

ちょうど一月過ぎました。全8回の、毎週木曜日にやっていた一般スポーツ教室も終わりました。今回は40名の生徒さんを迎えて本当にあつという間に終わりました。半数が初心者、半数が経験者とかかなりの強者もいて、楽しく過ごせたかなと思います。

毎年、どこの人たちに照準を合わせて指導しようかということになるんですけど、今回も指導よりも楽しく過ごすということに重点を置きました。始まる前は、中級者はこういうことを教えて○○△△////?!!と、ずいぶん考えます。でもやっている人の顔と時間をみると、そんなに教えられないんだと・・・力のなさを感じます。それでも、楽しかったです・・・ありがとうという声と、どこかでやっているとこはないのですか？とか、今度はいつやるのですか？とか、協会に入れてくださいという声が聞こえて、ああやってよかったんだ・・・と思います。指導にきた協会員には感謝いたします。みんなの支えがあって、協会は生きていきますし、育つていきます。

生徒さんも何人か体育館とコートに来てくださって、それぞれのやり方をこれから選んでいくことでしょう。北風の強い季節ですが、冬は比較的練習ができます。頑張ってきてください。大阪はマシですよ。僕の育った岡山の県北では12月から3月まではほとんどテニスはできませんでした。霜柱が立つからです。また、関東では冬は北風が強く、群馬県もやはり3月頃まではテニスになりませんでした。春が来るのが待ち遠しかったものです。でも大阪はできないときはありません。本当にいいところだと思います。

2-3日HPがおかしかったことに気づかれましたか？実は管理者のパソコンにウィルスが入りまして、対策に追われました。しかも新種のウィルスが今日もまた入りまして。腹立つことですが、どうすることもできません。早速撃退ソフトを買ってきてファイアウォールを築いたところですが、もし私から、件名無しや添付書類だけ、あるいは英文の本文、私に出した覚えがないのに RE:で始まるメールが届いたときは間違いなくウィルスメールです。ゴミ箱に移し、さらにゴミ箱を空にしてください。

まあ、今回は駆除がよく、でフォーマットは不要だったのですが、少し前からHDの調子がおかしかったのでいい機会とフルフォーマットしました。その後で今日ウィルスが来たのはショックでした。

みなさん気をつけてください！！ 冷静に対処すればウィルスは怖くない!!!

2001.10.29

11/4は八尾市長杯です。正式には八尾市長杯争奪都市町村対抗親善ソフトテニス大会といいます。もう50回近くを迎えるこの大会は我々の先輩から脈々と流れる歴史のあるものです。かつての日本ルールはもう10年近く前に殆ど姿を消しました。今では国際ルールに皆身体がなじみ、かつてのルールでは何故か違和感を感じてしまふでしょう。後衛はそれほどでもないでしょうけど、前衛としてはもう帰れないのでは・・・と思うのが現実ではないでしょうか？先日、津山に帰りましたときにかつて松蔭女子大で活躍されていた木田さんと話をしました。彼女は、今のルールはテニスとは思えないと言われます。おそらく昔やっていた人は皆口を揃えてそう言われることでしょう。その時代からテニスの姿は変わりました。そして形が見え始めてきた今、国際ルールに何の違和感もなくやってきた若い人たちには、日本ルールはなんと不合理かと思えるでしょう。それがルールというもので、それがソフトテニスの文化です。ただ、あのソフトテニスのボールを打ち始めたとき感じた、何とも言えない爽快感や、これほど思い通りにならないスポーツはないと感じていつか征服してやろうと、いつの間にかはまってしまった人たちが何時の時代もこのスポーツにはいるのだと、最近はずくづくと思います。

今、大学1年生のMR.Dはやはりそんな1人です。テニス仲間は冷たいもので、自分と同じくらいの相手以外には意外と冷たいものです。しかし誰からもあまり相手にされていないなかったときも、黙々と練習していました。運動神経の発達には人によって様々で、10歳で花開く人もいれば20歳で花開く人もいます。ひょっとしたらもって年輩になって花開いた人がいるかもしれません。彼は、今少し開眼してきたように思います。昨日の練習でD君は実に楽しそうにテニスをしていました。テニスが楽しくなれば、加速度的にうまくなります。努力を期待しているところです。いずれは協会を代表する選手になって欲しいと！！。

さて、ちょっと話がそれましたが、テニスの試合は変わっても基本は相手とラリーすることですし、何も本質は変わっていないのだと・・・。ソフトテニスの魅力が何かははっきりとはわかりませんが、「庭球する心」とは何時の時代も変わらないのだと思うのです。

その歴史あるソフトテニスとこの大会に対してお願いと提案があるのです。

それは、**八尾市のテニスの親善大会は、来年から開催を1週遅らせようと思います。11月の第2日曜日**です。

理由は、最近テニスの大会が多く、特に文化の日周辺は各地で行事が多くて、年により参加がまちまちです。せつかく7面のコートを持っている八尾市です。1市でも多くの参加を得て、テニスの楽しさ、団体戦の一体感を感じて試合を盛り上げたいと思います。

この週の方がどうやら試合も少ないようです。ただ日没が早いので、夕方は急がなくてはなりません。

そこで、いつもお世話になっている周辺都市はもちろんのこと、大阪でまだ参加いただいたことのない各都市、またもし近府県の市町村の団体で、来年参加してみたいと思われる都市がありましたら、MAILで連絡いただけるなり、掲示板にでも書き込んでください。

来年は案内状を送らせていただきます。

団体戦の構成は1都市(一般男子;2/一般女子;1/壮年男子;1/壮年女子;1)の5組編成です。通常、例年は1ブロック 3-4市のリーグ戦。勝ち上がり後、トーナメントあるいは、順位決定戦です。宜しくお願いいたします。

2001.10.28

昨日は、京都の池田君がやってきて指導と模範プレーを見せてくれました。若手達もしっかりと聞いていましたので今後のプレーを楽しみにしています。また、20年ぶりくらいの復帰組がまた1人。インターネットで見たと市内にすむ大学生も来てくれました。今日は今スポーツ教室に参加している生徒さんが旦那さんと2人で練習に参加してくれました。成年男子の前衛で貴重な戦力として期待しています。いろんな分野で会員が増えてきて、人数的には、ますます協会も充実していているなという感じです。ただ、人が集まってきているので組織的に運営して行かなくてはいけないと思っています。たとえば練習コートの確保とか、ボールの管理とか、連絡事項とかの配布、試合のエントリーとかいろんな業務もありますし、練習方法についても指導の仕方とか考えてやらないといけない段階でしょうね。そろそろオフシーズンです。みんなでゆっくりと考えましょうか？

2001.10.25

管理人はペアが岡山で出身も岡山ということでもあり、どうしてもそちらの試合が多くなっています。また行事もできるだけ親睦を深めるために出席しています。したがって八尾ソフトテニス協会の理事の方には多大なご迷惑をおかけしている次第です。

先日は10/20-21と岡山青年会の主催する秋季合宿に参加しました。これは岡山シニア45の私のペアである高宮さんが主管する会で春秋の2回行われています。参加メンバーは一般男女、成年男女シニア45、50男女と総勢30名くらいです。岡山、広島、鳥取、大阪とかかなり広い範囲から中心選手が集まっています。近畿でも吹田クラブの津村さんが中心となり年2回ほどシニア、成年の練習会を行っています。最近は大坂の一般男子に頑張ってもらいたいと交流の場をつくっておられます。誠にこのような会を主催される方には頭が下がります。そして多くの人を集めるだけの人徳をお持ちです。こういった人たちが先輩、友人にしていることを私は本当にありがたく誇りに思っています。

今回の青年会の合宿は今までにない充実したものとなりました。シニア45、2000年度全日本チャンプ、2001年度西日本チャンプの安達・直原さんを迎えて、夜はお二人のテニス観、ペアに対する考え方、相手に対する考え方、そして様々な今まで組まれたペアを通してのテニスの捉え方と情熱をお聞きして皆感心することばかりでした。しかしなんといっても、2日目の試合は厳しいものがありました。練習試合の中でペアの動きは雨の中でしたが素晴らしいものがありました。安達さんも直原さんも淡々とテニスについて語られます。言われたことと実行することにこれほど違いのない人たちはいないと感じました。基本がしっかりしています。隙がありません。ボールを自分のものにする懐の広さ、間の良さは私とは比べものになりませんでした。

おそらく試合をすれば勝たしてもらえることはあるでしょう。しかし、勝ち続けることはできないと思います。私はこういったテニスの大きな山が目の前にあることを嬉しく思います。いつかきっと彼らの域に達することを目標にテニス小僧となってみようと思心しています。

2001.10.11

先日の八尾選手権大会、男子はクラスを分けて行い、比較的接近した力で好試合が展開されました。一般男子はBEST4に残ったチームが力の入ったいい展開でした。15-20年くらい前の隆盛時代を思い起こす光景でした。国際ルールもやっとなり戦いが身に付いてきて形になってきたということでしょうか？先日、日本ルールの試合をやってみてわかったこと。それはルールがどうであれ、僕たちは自分の力を自分で制限してしまっているということなのです。今は後衛もダブルファーストは当たり前のようにやります。前衛を前に出させず有利な展開に持っていく。そして前衛は日本ルール時代には難しくてできないと思っていたローボレーを当たり前のようにほとんどミスなく返せます。もちろんこれができるないと試合にならないからです。練習もするでしょう。でも、じゃあ昔はやらなくて良かったのか？というソウではありません。技術の可能性を知らながらそれでいいやという自分への甘えでしょうか、蔓延していった虚像の実体が今ははっきりとわかります。旧日本ルールでテニスは十分魅力がありいと思います。ソフトテニスは硬式テニスの中の最も強い部分での戦いをするものだと思っていました。今でも思っていますが、旧日本ルールではテニスの最大の可能性をソフトテニスは引き出せたでしょう。では、国際ルールは何をウリとしてやっていけるでしょう。一般化、でしょうか？ではTOP選手の意識はどこにあって、どこへソフトテニスは向かっていくのでしょうか？今は、ちょっと答えが出せないな...というところでしょうか？

2001.10.4

あつという間に10月になってしまいました。テニスは今がシーズンでいろんな大会や行事が行われています。我が八尾市でも10/8(祝・月)に八尾選手権大会を行います。オープン大会ですし、当日参加OKですので出たい方は8:30頃までに来てください。1日楽しく遊びましょう。

今日10/4から毎木曜日にWINGで一般スポーツ教室を開催しています。スポーツの秋ということで参加者も40名近くで今年の冬と比べて倍くらいです。経験者も多く、社会スポーツとしてはソフトテニスはいいものだなと改めて感じます。また未経験者も10名くらいですがみんなラケットにボールが当たり、優秀だと思います。たった8回の短い期間なので初心者の方はラリーが続くテニスは面白いなという感じを持っていただければいいかなと。また経験者の人はこれからずっと少しでも続けたいなと思っていただけるような指導ができればいいと思います。

言葉に出して自分の思いを伝えることはとても難しいものです。でも自分の言葉通りに生徒さんがプレーできなければ、本当は自分はその技術が解っていないのかも知れませんね。ソフトテニスはプレーヤーとしては皆うまいのですけど、コーチ学がまだ未熟です。

私も自分に言い聞かせるつもりで8回やっていこうと思っています。一人でも好きになってもらえたら最高なんですけど。

2001.9.19

先週末、大阪府加盟団体選手権がありました。日没順延で9/30になったとのこと。男子は今年は活動も活発で、復帰組の活躍もあり、ベスト8に残っています。

女子も1回戦を勝ち抜き、強豪の大坂OB会に1-②で破れましたが、念願の1回戦を突破しました。女子も今は自主的な練習をしていくだけの、まとまりが出てきました。次はもう一つ上を目指して頑張ってください。もう一つ上のテニスを各人が考える時機に来ていると思います。男子のベスト8掛けは八尾同好会(YST)が相手とのことでした。なかなか白熱した展開と聞いています。今まで我々八尾ソフトテニス協会が主体となって対外試合をやってきましたが、そろそろ八尾市にあるいくつかの団体や、他市の協会や個人的なクラブに所属している人たちを集めて八尾市ソフトテニス連盟という形ができないものだろうかと思っています。もっと連絡を密に取ったり、足並みを揃えるなど、努力は必要でしょう。

かつてそういった話が15年くらい前に持ち上がりましたが、各クラブのメイトがどこにあるのかということで結論が出ないままでした。それは準備も足りなかった事もあるでしょう。少し考える時間も必要でしょうし、まずはたたき台もいるでしょう。今年1年くらいをかけて色々な問題を考えてみたいと思います。意見があったら皆さん掲示板にどしどし書き込んでください。これは協会だけの問題ではありません。八尾市でテニスをやっている皆さんにかかわることです。たくさんのお意見をお待ちしています。匿名で結構ですよ。また、こういったことで苦勞をされた事のある団体の方も参考意見を聞かせていただけたらいいのですが...。どうか皆さん、宜しくお願いいたします。

2001.8.10

今日で夏休みになりました。しかしほんの5日間という束の間の休息です。きっと休息にはならないでしょう。いつもよりこき使われると思います。

テニスをやっている普通の休日の方が休めるでしょう・・・きっと。

今日はテニスの練習場所、志紀コートと教育センターへの地図を更新しました。

もっときれいにし、見やすくしないと誰も来ないよのご指摘を素直に受けます。

皆さん練習に来て下さいね。8月からは夕方5時までとなりました。まだできるのに・・・。それに、涼しくなった夕方がテニスには心地良い時間です。本当に、少しは考慮して欲しいものです。

先週の土曜日、体育館に2人の練習参加者がありました。20代の一般男子、松川君と菅原君です。昼間に志紀コートで練習があったため体育館の練習メンバーが少なく、せっかく来てもらったのに物足りなかったのではないですか？

今度は志紀コートの方で待っています。一般のメンバーも楽しみにしているようです。

テニスはやりたいけどどこが見つからないとか高校や大学のあの上下関係の苦しい雰囲気には耐えられないとかの理由で足が遠のいている人が多いのではないですか？

社会人のクラブは自分のペースでテニスを楽しむのが基本です。基本的なルールさえ守ればそれで十分です。後はそれぞれの立場で許される時間でやればいいのです。

だけど、遊びだけでは嫌でやっぱり勝負が楽しみたいという人にはそういった大会も多くあります。それこそシーズンはテニスの試合一色になるくらいです。またいろんな場所で練習会を開いたりしています。

楽しみ方は人によって様々ですからね。

八尾や近くにすんでいる人で昔やっていたのでまたやってみようとか、高校や大学を出て仕事したけど、何か物足りない・・・身体がなまっていかん・・・とか、このままじゃバチンコと麦酒飲むくらいの毎日しかないじゃないか！！とか、大阪に出てきたけど友達も少ないなあ・・・子育て終わったら私にはやることや、熱中できるものがない・・・とかいった人。

まあ一回来てみてください。

2001.8.4

毎日暑い日が続きます。管理者は脱水症に気をつけて、周囲の「もう歳なんだから！」というたわりの言葉を素直に聞ける柔らかい心で、テニスを楽しんでいきたいと思えます。健康が第一ですから。それにしても府下ではテニスの大会が中止になったり、高校生が倒れたりです。毎日38℃もあれば当然ですかね？皆さん、十分注意してくださいね。

Yahoo Japanに登録になり、一挙にアクセスが増加しています。

今後こまめに更新します。

ただ、基本的には土曜日の午前中に作業をしようと思っています。

2001.7.21

7/7予定通り公開し、検索サイトへも登録しましたが7/20現在フレッシュアイのみ登録完了の通知が来ています。

関連団体にはmailで連絡する予定です。

2001.6.30

管理者より・・・お知らせ。

7/7に一般公開(他市への紹介／yahooその他検索サイトへの登録)をしようと思っていましたが、大体出来てきたのでいつでもと思っています。最終のお願いです。今週中に追加修正をしたいと思います。7/3までに、気がついたことや修正、追加した方がいいことをmailで送ってください。7/6までに修正して7/7に公開します。もし何もなければ7/4に公開します。

2001.6.27

管理者より・・・

今日で訪問者が150くらいになりました。

皆さんマメに訪れていただいている様子です。大体進行状態が分かっていることでしょう。

後、動画や部員募集などを掲示板であるいはその他のページに入れていくつもりです。

その後、落ち着いてきたら技術的なページもつくっていききたいと思います。

独断で載せているモノが多いので、これは削って欲しいというモノがあれば、mailか掲示板に入れてください。

後少して公開です。デジカメをコートに持っていきます。

写真を更新したい人や自分のフォームを載せたい人は申し出てください。

2001.6.21

八尾HPからMAILしています。

いいんじゃないかな。とても見やすいよ。

掲示板は無料なのがビルダーにあるよ。

はまったら大変だぞ！！ゆっくりとしたほうがいい。

僕が大変だったから。

それから、シニアのHP作ろうよ。

考えてみて！ cccccccccccccc――Takamiya――

2001.6.13

初めてホームページを作成しました。でも、今のところ何の面白みもないモノです。公開するのはきわめて恥ずかしいのですが、これから進化させていきますのでゆっくり暖かく見守ってください。(作者)

2001.6.20

HP作成ご苦労様です。

私なりの意見としては、TOPページにBGMを入れてみてはどうでしょうか？（最新ヒット曲のオルゴールBGM等）

最新試合結果報告で、 一般男子:津村・須山(吹田/八尾)

成年男子:宮本・原(八尾・東大阪)

八尾の部分の色分けをした方が目立つと思いますが、どうでしょうか？

(****/八尾)か(****・八尾)かどちらかに統一した方が見栄え良いと思います。

メンバー紹介で、役員の方以降は(シニア 男・女) (成年 男・女) (一般 男・女)の各クラス順の年功序列で分けた方が見易いと思います。

写真は出来る限り、ウェアで・・・

どちらでもいいのですが****中-****高-****大と経歴をいれると同じ学校出身者、知っている学校等で親近感が湧いて、八尾中学出身者や大阪高校出身者の部員拡大につながらないですかね

落書き帳とは、掲示板のことですか？ 掲示板が有った方が楽しいですよ。

2001.6.19

ところでHP見ましたよ！！！！

私の感想は、いい感じに仕上がっていると思いますよ。

もう少し遊びがあってもいいかもしれませんね。

先日、私の一人の写真があるのは、この為だったんですね～（納得）

今度の写真撮りのときはおめかしして行くでしょう(ウソ～)

HPについては、また何か気が付いたらメールします。

本格的にHP開設の際はまたご一報ください。お待ちしております。

2001.6.20

今日、HPをみたらなんと玄樹くんが載っていました。

デジカメ持参で玄樹の素晴らしいスウィングを撮りますので、HPに載せてくださいね。

皆の練習風景なんかも撮って載せちゃいましょう！

2001.6.18

ご苦労様でした。 上出来だと思います。

しかし、石井さん(かなちゃん)がメンバー紹介の中から洩れているのでは・・・？

あと、新メンバーを募ったりはしないのですか？

公開しているんな人が見てくれるといいですね！ 知り合いに紹介とききます。

2001.6.18

忙しい中、ホームページの作成ご苦労様です。

私も自社のホームページ作成しているのですが、めんどくさい作業ですね。

内容ですが、部員募集も公示してはどうかと思います。

もちろん検討は必要ですが、ジュニアも含め全般的に……

MAIL
メール

TOP
トップ

